



令和4年度 看護学教育 シンポジウム **報告書**

激動の時代における看護系大学教員の次世代育成

WEB開催

主 催：千葉大学大学院看護学研究院附属
看護実践・教育・研究共創センター

日 時：令和4年11月29日(火)



目 次

1. 千葉大学挨拶	1
千葉大学大学院看護学研究院長 諏訪 さゆり	
2. 開催趣旨	2
3. 令和4年度看護学教育シンポジウム＋webセミナー 実施要項	3
4. 参加者概要	6
《webセミナー》	
5. 「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」	
文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊 美和	9
《教育講演》	
6. 「コロナ後に求められる社会変革を視野に入れた大学教育のあり方」	
中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田 治	33
《シンポジウム》「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」	
7. JANPU 代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長 鎌倉 やよい	65
8. 湘南医療大学教授・看護学科長 川本 利恵子	76
9. 日本福祉大学教授・看護学研究科長 宮腰 由紀子	95
10. 全体討論・まとめ	103
11. シンポジウム評価	105
12. おわりに	
千葉大学大学院看護学研究院准教授 黒田 久美子	112
13. 実施体制	113

1. 令和4年度看護学教育シンポジウム
『激動の時代における看護系大学教員の次世代育成』
千葉大学挨拶

千葉大学大学院看護学研究院長

諏訪 さゆり

本研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催の看護学教育シンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたるなか、様々な影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。

本センターは、我が国の看護学教育分野で唯一の文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点として、看護系大学各々では解決しがたい課題の解決や取り組みの共有により、効果的・効率的な教育改善を推進することを使命として活動しています。

そして今年はセンター設置40周年を迎えることが出来ました。ひとえに皆様のご厚情のおかげと心より感謝申し上げます。

この記念すべき年に新たな試みとして看護学教育シンポジウムを開催いたします。

シンポジウムでは、「激動の時代における看護系大学教員の次世代育成」をテーマに、社会変化が激しい中、時代の変化に対応できる次世代を育成するために、教員自身が我が国の教育の方向性を理解し、将来を見据えた建設的なアイデアやエネルギーが得られる機会としたいと考えています。

ご参加いただきました皆様にとって、実りあるシンポジウムになりますよう期待しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

2. 令和4年度看護学教育シンポジウム 開催趣旨

近年、「社会の変化に応じた看護系大学の教育」、「教育の質保証」への期待は大きい。一方、「社会の変化に応じた看護系大学の教育」は、短時間で構築できるものではなく、かつ、すすむ変化に対応できる次世代を育成しながら行う必要がある。そこで、今回の『看護学教育シンポジウム+webセミナー』では、『次世代育成』の観点から、将来に向けて、建設的なアイデアやエネルギーが得られる機会としたい。

教育講演では、参加者各自が、我が国の大学教育の動向への理解を深めることを目的とする。シンポジウムでは、教育講演の内容をふまえて、「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」に関して、多面的に示唆を得ることを目的とする。

WEBセミナーでは、参加者各自が、看護系大学の動向とあわせて、これまでにどのように教育の質保証の取り組みがなされてきたのか、過去から未来に向かってその変遷を知り、学び、再確認する機会とすることを目的とする。

3. 令和4年度看護学教育シンポジウム 実施要項

1. テーマ

激動の時代における看護系大学教員の次世代育成

2. 主旨

看護実践・教育・研究共創センターは、千葉大学看護学部附属として1982年に設置され、名称や役割を変化させながら、本年度で40周年を迎える。この機会に、毎年開催してきた『看護学教育ワークショップ』から今の時代にあった、当センターが担うべき事業にリニューアルし、本年度、第1回の『看護学教育シンポジウム^{+web}セミナー』を開催することとなった。その特徴は、以下の3点である。

- ①多くの大学の関心事、時事のテーマを扱う
- ②状況や立場の異なるシンポジストとの意見交換から、参加者個々が示唆を得る
- ③セミナーとの抱き合わせにより、情報や知識を求める参加者や新任教員にもシンポジウムをより活用してもらえる機能をあわせもつようにする（+webセミナー）

そして、今年度は、次に示す理由により、『次世代育成』をとりあげる。

DX、Covid19、少子高齢社会、Society5.0社会、多様で包摂的な社会など、社会の変化は激しく、大学には、個々の大学のミッションをふまえて、社会の変革やイノベーションが可能な人材育成が一層、求められている。

多くの大学では、社会の変化を感じながら自らの教育内容や体制を変革しつつある。また、このような社会の変化や時代の要請に応じた教育を実現するためには、それを支援する教員自身が、変革の時代におけるわが国の教育の方向性を理解し、それを見据えた教育を提供できるよう準備を整える必要がある。

このような観点から看護学教育の状況を鑑みたとき、多くの看護系大学が、次世代の教育を担う看護学教員の育成に課題を感じている現状が散見される。「社会の変化に応じた看護系大学の教育」は、短時間で構築できるものではなく、かつ、すすむ変化に対応できる次世代を育成しながら行う必要がある。

近年の当センター事業では、「社会の変化に応じた看護系大学の教育」、「教育の質保証」が通底している。その内容をふまえつつ、『次世代育成』の観点から、現実的には困難な状況も多々ある中で、将来に向けて、建設的なアイデアやエネルギーが得られる機会としたい。

教員として日が浅い方から次世代の教員を指導する先生方まで、多くの先生方にご参加いただきたい。またライブ配信、オンデマンド配信で行う予定であるため、興味のある部分だけの視聴も可能であるが、是非、全てのプログラムに多くの方が参加していただくことを期待している。

なお、当センターの設置40周年記念に重ね、『看護学教育シンポジウム^{+web}セミナー』に多くの方に参加してもらうことを期待して、本年度は、参加費無料で開催することとする。

3. 目的

教育講演では、参加者各自が、我が国の大学教育の動向への理解を深めることを目的とする。

シンポジウムでは、教育講演の内容をふまえて、「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」に関して、多面的に示唆を得ることを目的とする。

web セミナーでは、参加者各自が、看護系大学の動向とあわせて、これまでにどのように教育の質保証の取り組みがなされてきたのか、過去から未来に向かってその変遷を知り、学び、再確認する機会とすることを目的とする。

4. プログラム概要・実施方法

開催日時：令和4年11月29日（火）13：00～

開催方法：Zoom ウェビナー（見逃配信あり）

参加費：無料（センター設置40周年記念のため）

プログラム概要：

13：00 開会挨拶・趣旨説明

13：10～ 教育講演

「コロナ後に求められる社会変革を視野に入れた大学教育のあり方」

中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田治先生

14：10～ 休憩

14：20～16：30 シンポジウム

「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」

座長：和住淑子（千葉大学大学院看護学研究院教授・センター長）

中山登志子（千葉大学大学院看護学研究院教授）

シンポジスト：JANPU 代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長 鎌倉やよい先生

湘南医療大学教授・看護学科長 川本利恵子先生

日本福祉大学教授・看護学研究科長 宮腰由紀子先生

見逃配信期間：12月5日（月）9：00～12月19日（月）17：00

★web セミナー（事前収録・オンデマンド配信）

配信期間：11月22日（火）9：00～12月19日（月）17：00

「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」

文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和先生

※Zoom ウェビナーへのご参加方法、web セミナーの視聴方法は、申込受付後に自動返信でお知らせいたします。当日中に届かない場合は kango-cqi@chiba-u.jp までご連絡ください。

5. 主催

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院 附属看護実践・教育・研究共創センター

6. 参加申込

当センターホームページ (<https://www.n.chiba-u.jp/center/>) にある看護学教育シンポジウム 申し込みフォームより、お申し込みください。(個人単位での申し込みをお願いいたします。)

《シンポジウムお申込みフォーム URL》

<https://www.n.chiba-u.jp/center/form/symposium/>

* 申込〆切：11 月 28 日（月）16 時



7. 参加費 無料（センター設置40周年を記念して）

8. 注意事項

大規模な地震・風水害・降雪・事件・事故・疫病等により、研修の開催が困難であると主催者が判断した場合、全てあるいは一部のプログラムを中止することがあります。

9. 個人情報の取り扱い

看護学教育シンポジウムへの申込みに際し記載の個人情報については、看護学教育シンポジウム業務及びセンター年報等におけるデータの集計、今後のセンター事業のお知らせのために利用し、それ以外の目的に利用することはありません。

(お知らせが不要な方はお申し出ください)

10. お問い合わせ先

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係（センター研修担当）

TEL：043-226-2464

FAX：043-226-2382

メール：kango-cqi@chiba-u.jp

4. 参加者概要

■参加者 558 名 (184 大学 1 省庁 2 医療機関 1 民間企業)

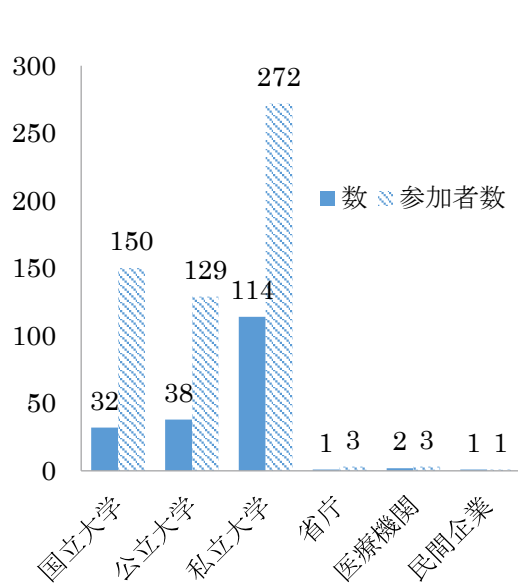


図1 国公立大学別参加数

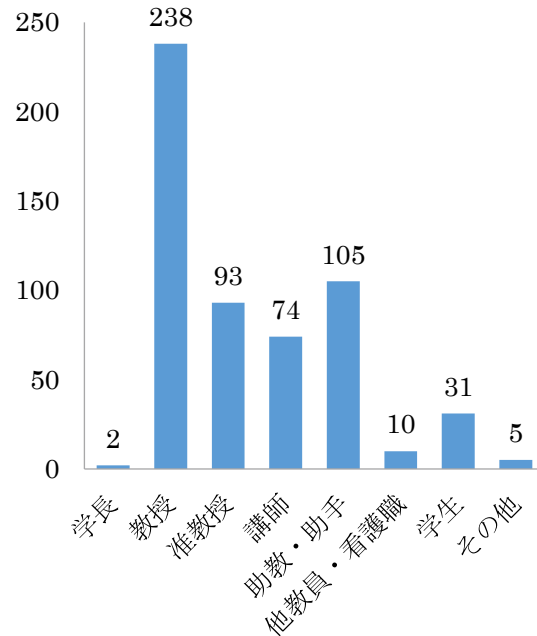


図2 職位別参加者数・参加者数

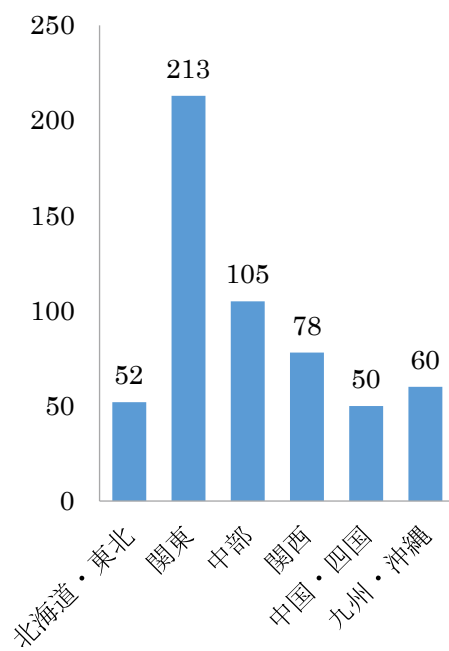


図3 全国ブロック別参加者数

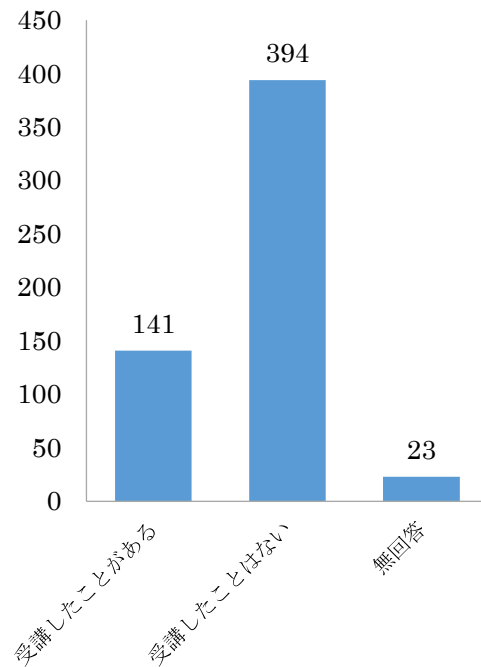


図4 過去5年のセンター研修受講歴

<web セミナー>

「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」

文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和

看護学教育研究共同利用拠点
令和4年度看護学教育シンポジウム

看護系大学における教育の質保証と今後の課題

文部科学省 高等教育局 医学教育課
看護教育専門官 渡邊美和



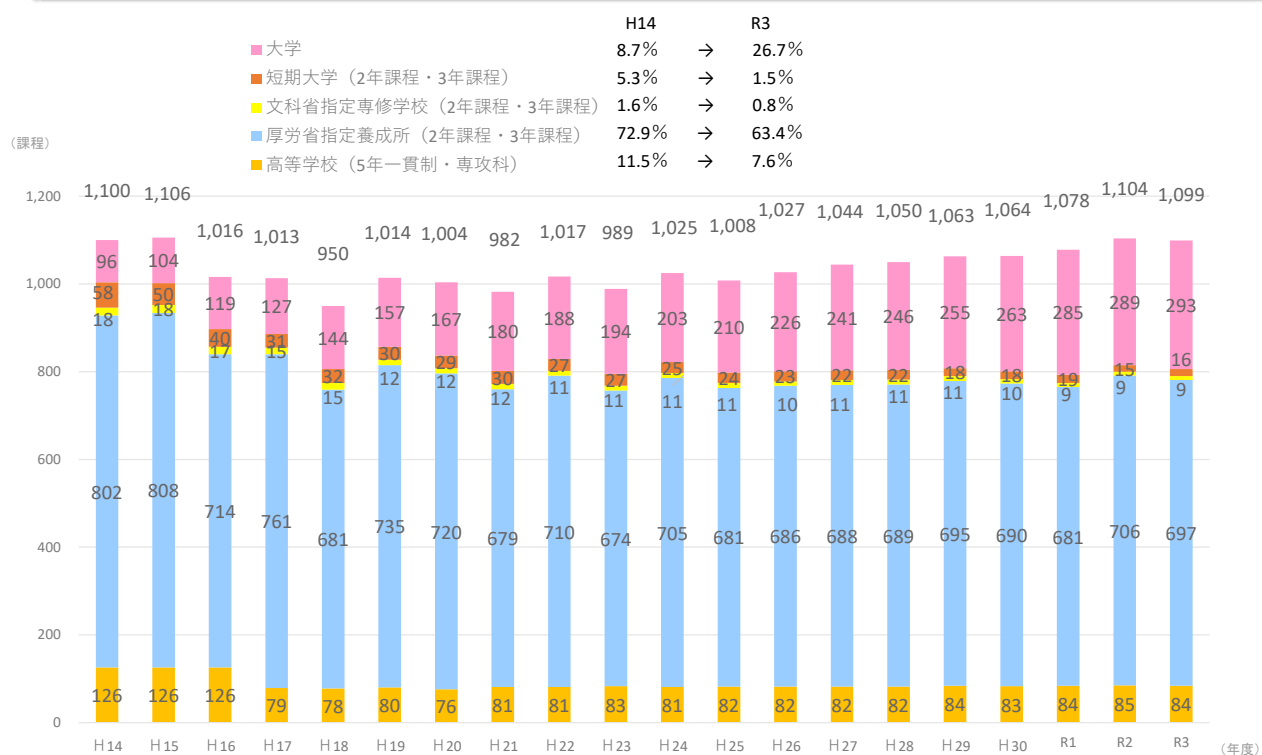
本日の内容

1. 看護系大学の現状
2. 看護学教育行政の動き
3. 高等教育改革の動向
4. 看護学教育の質保証における今後の課題
5. その他

1. 看護系大学の現状

3

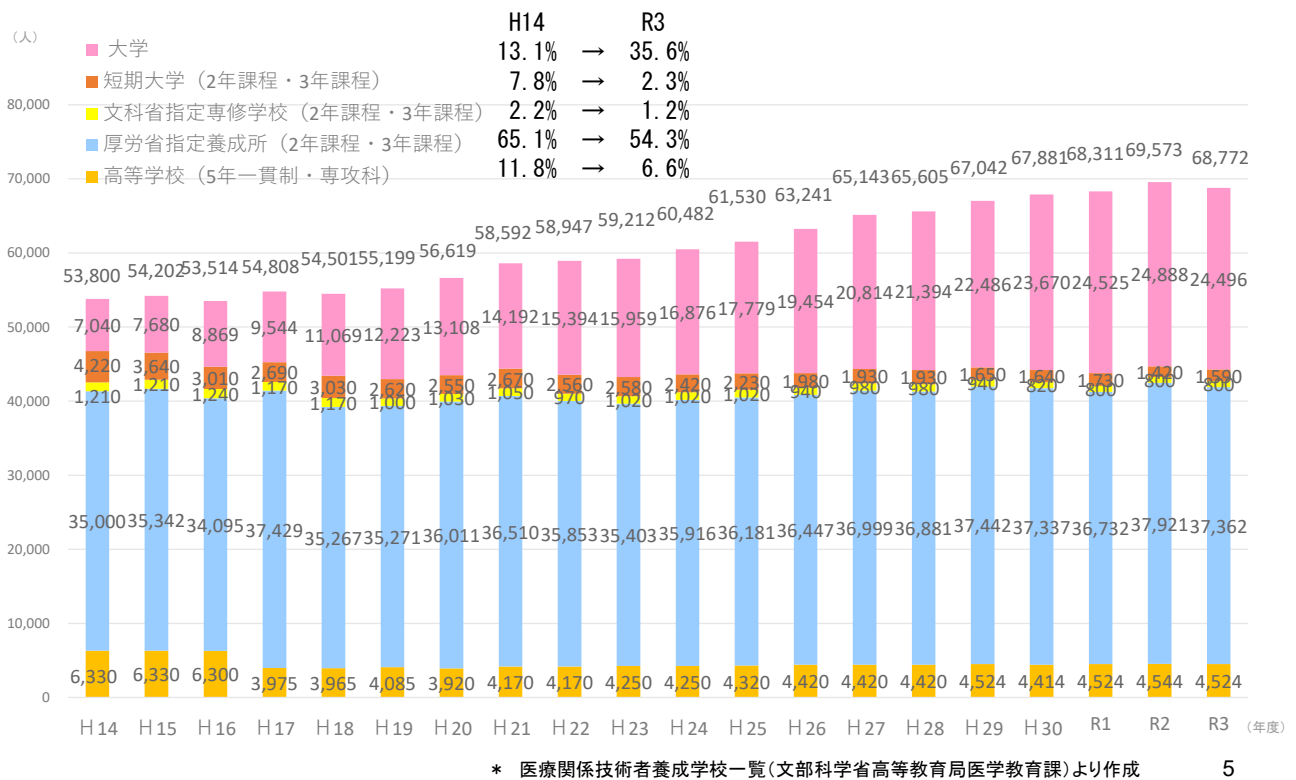
看護師学校・養成所の養成課程数の推移（令和3年5月現在）



* 医療関係技術者養成学校一覧(文部科学省高等教育局医学教育課)より作成

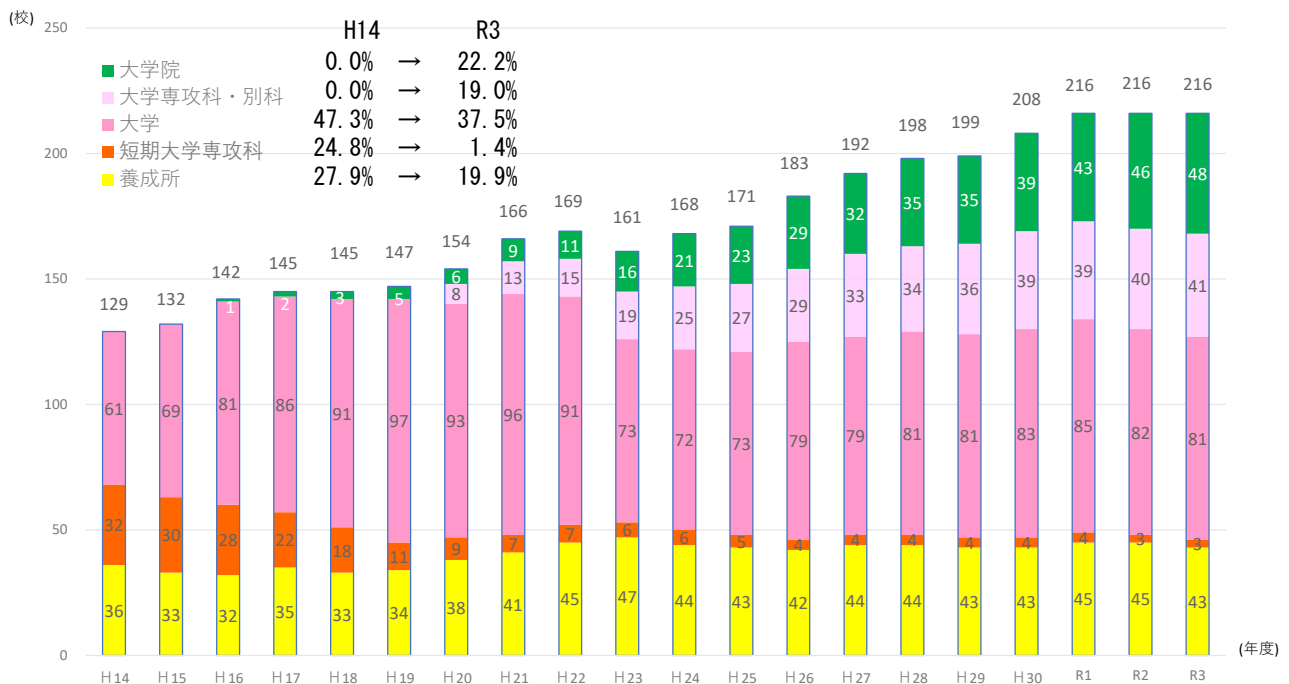
4

看護師学校・養成所の入学定員の推移（令和3年5月現在）



5

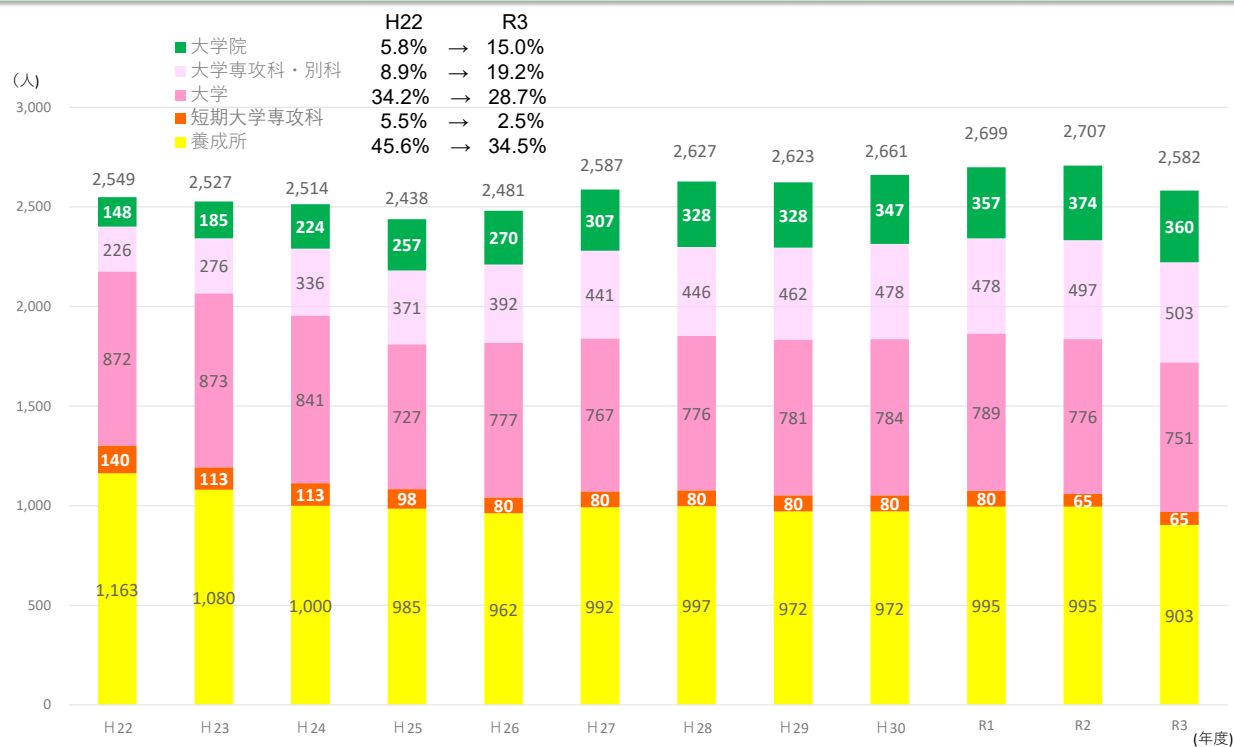
助産師学校・養成所数の推移（令和3年5月現在）



養成所は①②より、大学等は②より作成
①医療関係技術者養成学校一覧(文部科学省高等教育局医学教育課) ②文部科学省高等教育局医学教育課調べ

6

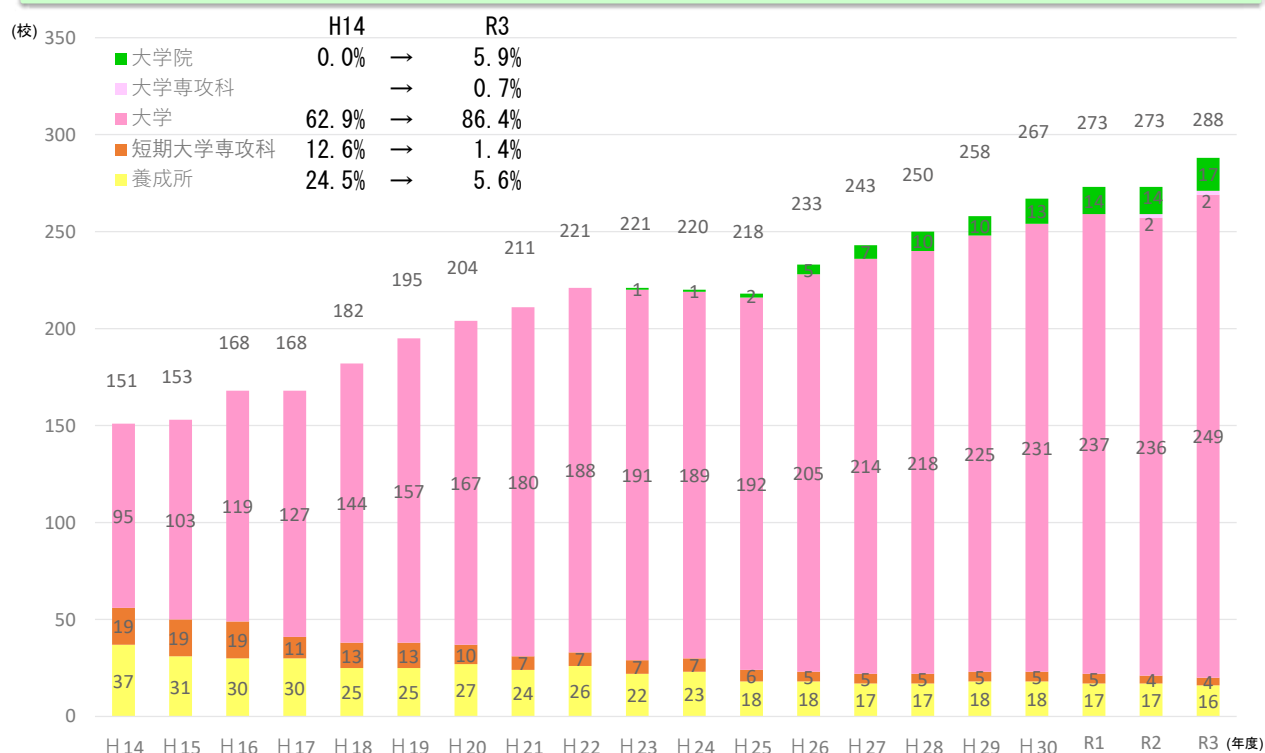
助産師学校・養成所における養成可能人数の推移（令和3年5月現在）



①医療関係技術者養成学校一覧（文部科学省高等教育局医学教育課） ②文部科学省高等教育局医学教育課調べ

7

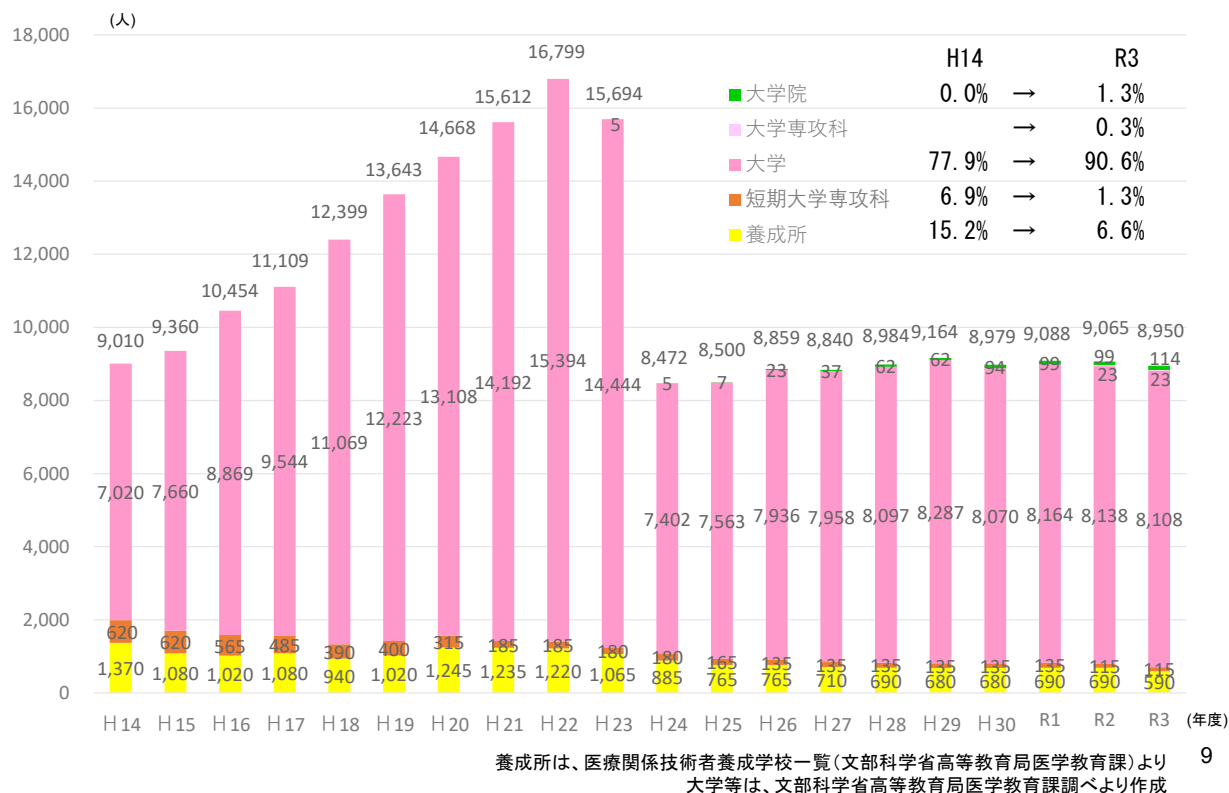
保健師学校・養成所数の推移（令和3年5月現在）



医療関係技術者養成学校一覧（文部科学省高等教育局医学教育課）
大学等は、文部科学省高等教育局医学教育課調べより作成

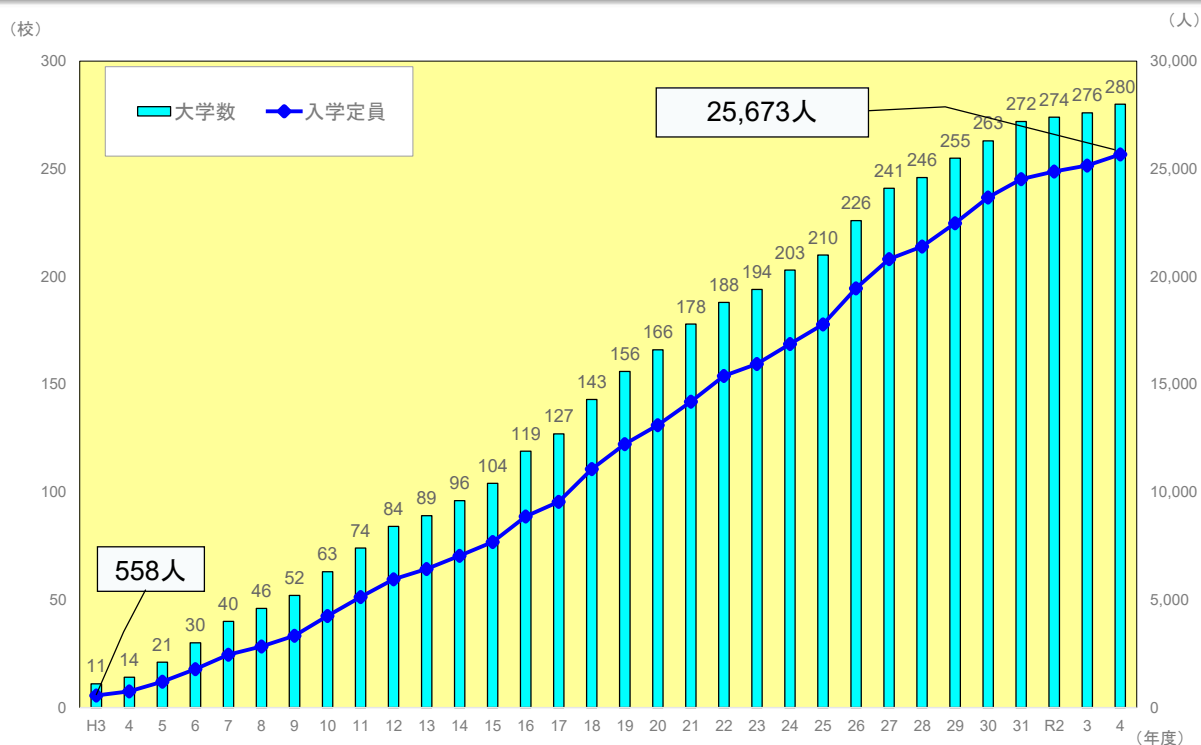
8

保健師学校・養成所における養成可能人数の推移（令和3年5月現在）



9

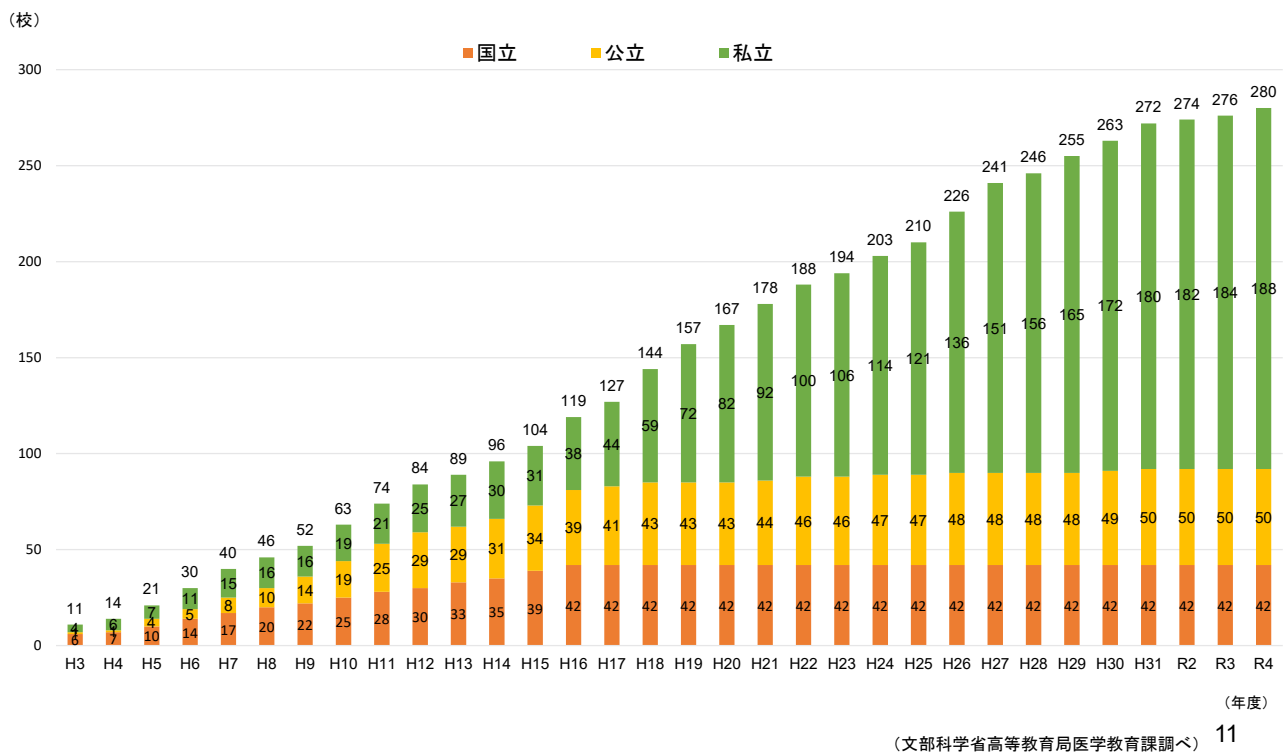
看護系大学数及び入学定員の推移



(文部科学省高等教育局医学教育課調べ)

10

国公立別看護系大学推移



11

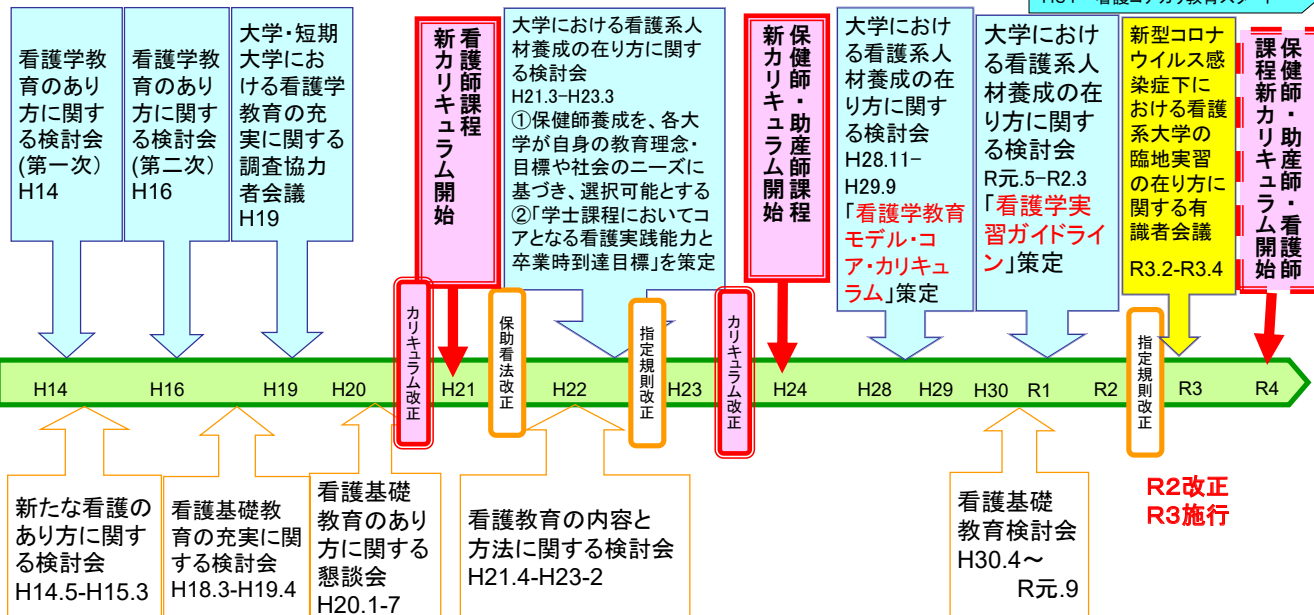
2. 看護学教育行政の動き

近年の看護師等養成制度改革及び看護教育行政の動き

文部科学省関係

看護系大学における看護教育のさらなる充実

H31～看護コアカリ教育スタート



厚生労働省関係

13

新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議

1. 目的

新型コロナウイルス感染症下における学士課程の臨地実習の教育の質の維持および効果的な方法について、意見を聴取し取りまとめる。

副座長

今西 裕子

大塚 真理子

岡島 さおり

片田 範子

鎌倉 やよい

小見山 智恵子

鈴木 美和

菱沼 典子

藤野 ユリ子

村上 明美

座長

和住 淑子

大阪府済生会中津病院院長補佐

宮城大学看護学群教授

公益社団法人日本看護協会常任理事

関西医科大学看護学部長・研究科長・教授

日本赤十字豊田看護大学学長・教授

東京大学医学部附属病院副院長・看護部長

三育学院大学看護学部教授

三重県立看護大学理事長・学長

福岡女学院看護大学看護学部教授

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部長・教授

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長・教授

2. 検討事項

- ① 臨地での実習の実現に関する課題
- ② 臨地以外で代替とした場合の教育の質の維持に関する課題
- ③ 教育力の向上に関する課題

3. 期間

令和3年2月12日～令和3年4月30日

計11名 ※50音順・敬称略

14

報告書概要

背景

- コロナによって臨地実習の実施が困難に
文部科学省令和2年2月28日・6月1日付け事務連絡で実習施設の確保困難時、実習施設の変更や演習・学内実習によって必要な知識・技術の修得をして差し支えない旨通知
- 大学で代替措置を含め様々な工夫が実施され、学士課程の看護実践能力の質的水準の保証が課題
- 学士課程の代替措置を含めた臨地実習の教育の質の維持と効果的な方法について有識者会議を開催し報告書を作成

15

基本的考え方

- 臨地実習は学内の学びを「実践できる」段階まで到達させる学修、かつ、生活のリアリティや倫理的課題の苦悩など臨地でしか学べない事項があり必要不可欠
- 質の高い医療人輩出という社会的使命を有する大学は、未来の医療専門職者に看護実践能力が継ぎ目なく修得されるよう、実習施設と臨地実習の実施方法について協働することがまずもって重要
- 学生の学修の質の保証のため、学内実習等の代替措置を含めた学修方法の検討が必要

16

課題ごとの推奨される取り組み

①臨地での実習の実現に関して

- ・ 臨地での実施が困難となったが、大学と実習施設でコミュニケーションをとることで臨地での実習の実現に余地あり

⇒以下にある感染管理の基本方針を定めるなど、実習機会が確保されるよう大学と実習施設がコミュニケーションを重ね検討することが必要

- ・ 学生の健康管理方法、施設内の感染管理方法、感染者発生時対応、感染リスクパターンの把握など、複数の大学・病院で「基本方針」を作成
- ・ 病院内の感染管理は職員も学生も同じで良いとの考えのもと実習を実施
- ・ 施設内で感染者が発生した場合のフローチャートや責任の所在を予め決定
- ・ 感染拡大のリスクとなるパターンを把握し、実習施設、大学等で共有

②実習を代替した場合の教育の質の維持に関して

- ・ 臨地も含めた教育のデザインの方法が課題

⇒臨地での実習が困難となっても、以下のような取り組みによって必要な看護実践能力が修得されるよう科目内・科目間で調整・工夫することが必要

- ・ 臨地以外で学べることと、臨地でしか学べないことを整理し、科目を構成
- ・ 科目間で学ぶべき要素を調整・整理し必要な看護実践能力の修得を目指す
- ・ 模擬病棟、地域の療養者の活用、ICTの活用等、新規・既存の資源を組み合わせ必要な学修内容を保証
- ・ 臨地実習先の協力を得て、実際の場で起こりうる事例の準備と学内環境づくりを行い、時間的制約がある条件下で情報収集能力や状況判断能力を育成
- ・ 大学間で教育事例を共有し、教育の質を向上

③教育力の向上に関して

- ・ シミュレーション教育やロールプレイ、地域の資源活用において教員の教育力が教育の質に影響しうることを課題
⇒以下のように教材・教育手法の知見や経験を共有し、
教員の資質向上に継続的に取り組むことが重要

- ・ ロールプレイやシミュレーション教育は、教育者の看護実践経験が反映されるため各教員の看護実践能力を向上させるとともに複数の教員によって教材開発を実施
- ・ 療養経験者など地域資源の活用の際には、人的資源発掘経験の豊富な教員のノウハウを共有
- ・ 集中治療室の実習が困難な場面においては患者に負担なく学修が可能となるバーチャルリアリティ（VR）等の手法を活用

19

ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

令和3年度補正予算額

39億円



背景・課題

（現状・課題）

- 社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）革命と今般の新型コロナウイルス感染症のまん延により、医療環境においてはオンライン診療等の本格導入が見込まれる中で、医療職の養成段階においても早急な対応が必要となっている。
- また、医療職養成教育における実習等の在り方についても、当該感染症の完全終息が見通せない中では、対面に加えDX等を活用するハイブリッドの実習が必須として求められている。

（対応）

- オンライン診療をはじめとする遠隔医療など新たな医療に対応できる人材を迅速に輩出することを目指し、これらの人材を短期的に養成するための設備整備を喫緊に行う。
- 感染症の完全終息が見通せないことによる臨地での実習時間の通減（代替措置による実施）が恒常的となり、医療職養成の質の低下の懸念がある中、CADや3Dプリンタ等を活用したデジタル医療教育用の仮想空間シミュレーターや音声・映像機器等を整備し、従来の実習のレベルはもとより、DX等の手法により従来の実習ではできなかった取組も可能とし教育手法の高度化を目指す。また、安全・安心な臨地実習の環境を確保するための感染対策関連機器について整備を行い、より高度かつ実践的な知識・技能を養う。

事業内容

【支援の考え方】

医療系学部を有する国公立大学の中で、遠隔医療に関する教育内容の充実を検討している大学、コロナ禍における実習を実質的なものにするためのDXを活用した優れた教育内容の充実を検討している大学に対し、今年度中に教育・実習体制を整備する際に必要となる機材等を支援。

- 遠隔医療に関する教育設備の導入
- 実習等に資するシミュレーター、DX設備、感染対策関連機器の導入



遠隔実習用シミュレータ



手術トレーニング用機器



デジタル解析演習機器

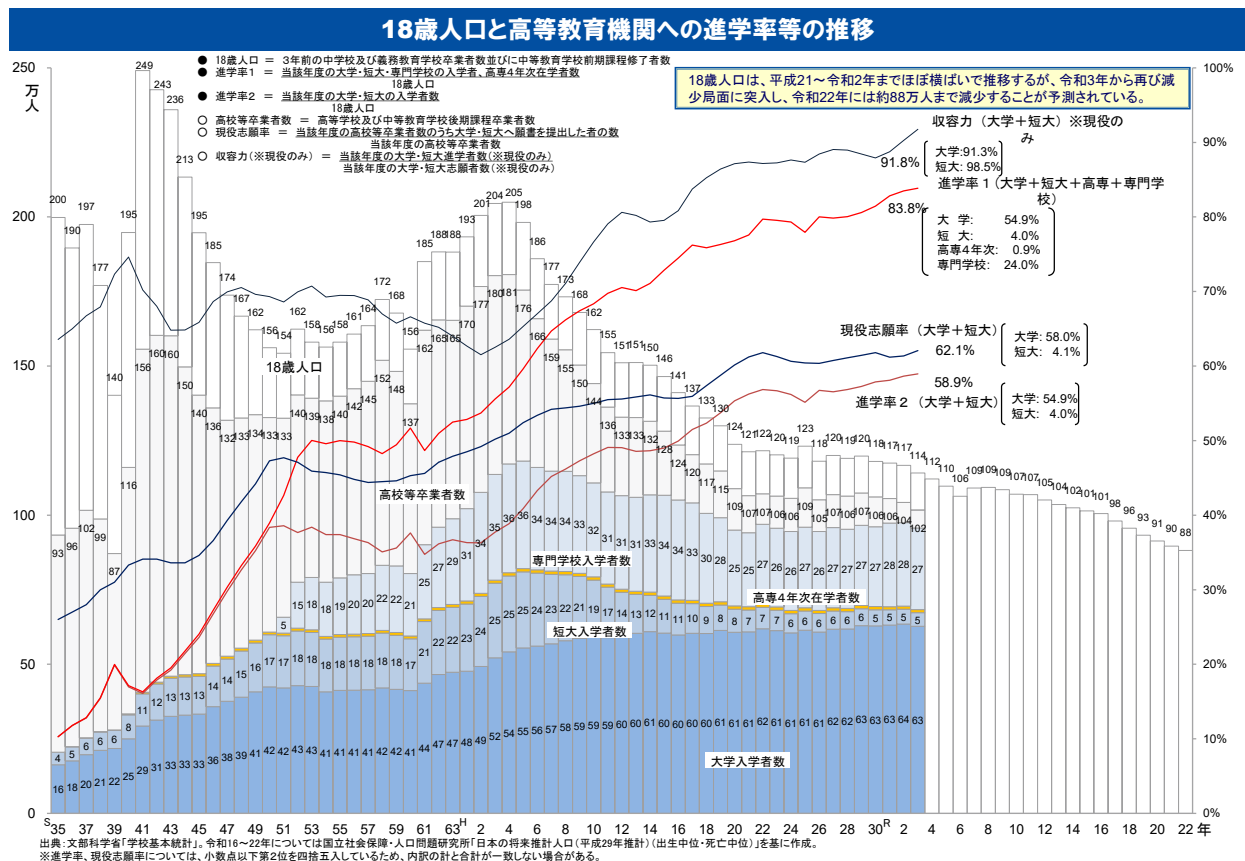


高解像度3D画像
(Real)

20

3. 高等教育改革の動向について

21



我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

教育未来創造会議 第一次提言

人 材 育 成 を 促 す 課 題	・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少） ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足） ・グリーン人材の不足（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする） ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割） ・諸外国に比べて低い理工系の入学率（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）	・諸外国に比べて少ない修士・博士号の取得者（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人、博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人） ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者 ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く） ・進まないリカレント教育
--	--	--

基 本 理 念	・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。 ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。
----------------------------	---

在 り た い 社 会 像	◎一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現） ◎ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善 ◎社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応） ◎生産性の向上と産業経済の活性化 ◎全世代学習社会の構築
--	---

目 指 し た い 人 材 育 成	◎未来を支える人材像 好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材 <高等教育で培う資質・能力> リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力 ◎今後特に重視する人材育成の視点 → 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示 ・予測不可能な時代に必要となる文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成 ・デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成 ・現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%） ・高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加 ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備 ・一生涯、何でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養 ・年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備 ・幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化
--	--

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5～10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

23

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化

（1）進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化 ①デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築 ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等） ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策を検討） ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化 ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等） ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底 ・修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等）等 ②高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化 ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等） ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実等 ③大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進 ④企業における人材投資に係る開示の充実 ⑤地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進 ⑥地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充 ⑦地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）	（3）理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進 ①女性活躍プログラムの強化 ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化 ・大学ガバナンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進等 ②官民共同修学支援プログラムの創設 ③女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進 （4）グローバル人材の育成・活躍推進 ①コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築 ②産学官を挙げてのグローバル人材育成 ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進等 ③高度外国人材の育成・活躍推進 ④高度外国人材の子供への教育の推進 ・インターナショナルスクールの誘致等推進等 （5）デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換 ①知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進 ・オンライン教育の規制緩和と特例の創設等 ②オンラインを活用した大学間連携の促進 ③大学のDX促進 ・デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進等
（2）学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化 ①STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出 ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与（教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、基盤的経費配分におけるメリハリ付け等）等 ②「出口での質保証」の強化 ・設置基準の見直しなど、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善による教育体制の充実等 ③大学院教育の強化 ・トップレベルの研究型大学における学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化等 ④博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等 ⑤大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成 ⑥企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化	（6）大学法人のガバナンス強化 ①社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化 ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化等 ②世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進 ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立等 ③大学の運営基盤の強化 （7）知識と知恵を得る初等中等教育の充実 ①文理横断教育の推進 ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換等 ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進 ③課題発見・解決能力等を育む学習の充実 ④女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】 ⑤子供の貧困対策の推進 ⑥学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進 ⑦分権型教育の推進 ⑧在外教育施設のエデュケーション環境整備の推進

24

2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実



(1) 学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大

・修学支援新制度の機関要件の厳格化を図りつつ、現在対象外の間所得層について、多子世帯や理工系・農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関し必要な改善の実施



(2) ライフイベントに応じた柔軟な返還（出世払い）の仕組みの創設

・現行の貸与型奨学金について、無利子・有利子に関わらず、現在返還中の者も含めて利用できるよう、ライフイベント等も踏まえ、返還者の判断で柔軟に返還できる仕組みを創設
・在学中は授業料を徴収せず、卒業（修了）後の所得に応じた返還・納付を可能とする新たな制度を、大学院段階において導入
→ これらにより大学・大学院・高専等で学ぶ者がいずれも卒業後の所得に応じて柔軟に返還できる出世払いの仕組みを創設



(3) 官民共同修学支援プログラムの創設【再掲】



(4) 博士課程学生に対する支援の充実

・トップ層の若手研究者の個人支援や所属大学を通じた機関支援等の充実



(5) 地方公共団体や企業による奨学金の返還支援

・若者が抱える奨学金の返還を地方公共団体が支援する取組の推進
・企業による代理返還制度の活用を推進するための仕組みの検討（日本学生支援機構以外の奨学金や、海外の奨学金も含む）



(6) 入学科等の入学前の負担軽減

・入学科の納付が困難な学生等について、納入時期を入学後に猶予する等の弾力的な取扱いの徹底



(7) 早期からの幅広い情報提供

・奨学金に関する初等中等教育段階からの情報提供の促進

3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備



(1) 学び直し成果の適切な評価

① 学修歴や必要とされる能力・学びの可視化等

・個人の学修歴・職歴等に係るデジタル基盤整備
・マイナポータルと連携したジョブ・カードの電子化 等

② 企業における学び直しの評価

・企業内での計画的な人材育成、スキル・学習成果重視の評価体系の導入
・通年・中途採用等の推進、社内起業・出向起業の支援等の取組の実践の促進
・従業員が大学講座等で学び直し、好成績を修めた場合における報酬や昇進等で処遇する企業への新たな支援策の創設 等

③ 学び直し成果を活用したキャリアアップの促進

・キャリアコンサルティング・コーチングの実施、キャリアアップに向けた学び直しプランの策定とプログラムの実施、その後の伴走支援を一貫通貫で行う仕組みの創設 等



(2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備

① 費用、時間等の問題を解決するための支援

・教育訓練給付制度の対象外である者（自営業者等）に対する支援の実施
・人材開発支援助成金制度におけるIT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に位置付けることなどによるデジタル人材育成の推進 等

② 高卒程度認定資格取得のための学び直しの支援

③ 高齢世代の学び直しの促進



(3) 女性の学び直しの支援

① 女性の学び直しを促進するための環境整備

・地方公共団体におけるデジタルスキルの取得とスキルを生かした就労を支援するための地域の実情に応じた取組に対する地域女性活躍推進交付金による支援 等

② 女性の学び直しのためのプログラムの充実

・地域の大学・高専等における女性向けを含むデジタルリテラシー向上や管理職へのキャリアアップ等のために実施する実践的なプログラム等への支援 等



(4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備

① リカレント教育について産学官で対話、連携を促進するための場の設置

・都道府県単位で産学官関係者が協議する場の整備
・地域の人材ニーズに対応した教育訓練コースの設定、教育訓練の効果検証等の推進
・地域の産学官が連携して人材マッチング・育成等を総合的に行う「地域の人事部」の構築

② 企業におけるリカレント教育による人材育成の強化

・企業と大学等の共同講座設置支援 ・企業におけるリカレント教育推進に向けたガイドラインの策定 等

③ 大学等におけるリカレント教育の強化

・大学における継続的なリカレント教育の実施強化を行うためのガイドラインの策定
・リカレント教育推進に向けた組織の整備等、産業界を巻き込んだ仕組みづくりの支援 等

④ 地域におけるデジタル・グリーン分野等の人材育成

・DX等成長分野のリテラシーレベルの能力取得・リスキリングを実施するプログラムへの支援
・脱炭素化に向けた高等教育機関が地域と課題解決に取り組む中での人材育成の支援
・農業大学校等におけるスマート農林水産業のカリキュラム充実、デジタル人材育成
・IT、マーケティング、地域振興の知見・スキルを有する観光人材の育成推進 等

教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」 工程表（令和4年9月2日）【概要】

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化 —自然科学分野を専攻する学生の割合を5割程度へ—



大学設置基準の改正

【改正の目的】学修者本位の観点から、質保証システム全体として最低限保証すべき質を厳格に担保しつつも、時代に応じて柔軟性のある仕組みとするため、最低基準性を担保したうえで、大学が創意工夫に基づく多様で先導性・先進性のある教育研究活動が行えるようにする

以下の考え方を基軸として見直しの方向性が提言された

- 「学修者本位の大学教育の実現」の観点からは、教学マネジメントが適切に行われていることなど、個々の学位プログラム単位で内部質保証が機能していることが求められる。
 - そのためには、各大学において学位プログラム毎に適切な情報が公表され、認証評価の際に、各大学で学位プログラムごとに学修成果が把握されていることや研究成果を継続的に生み出すための環境整備等「教育研究の質」が適切に確認されていることも求められる。
- 「社会に開かれた質保証の実現」の鍵となるものは、何よりも適切な情報が公表されていること。
 - 各大学による積極的な情報公表はもとより、認証評価の結果やその他の必要な情報が、社会が利用しやすい形で適切に公表されていることが求められる。

- 大学教育の質保証の単位である学位プログラムは3つのポリシーに基づいて編成されるものであり、各大学における内部質保証は学位プログラムを基礎として行われるべきことを理念上明確にする。
- 内部質保証による教育研究活動の不断の見直し求められることを理念上明確にする。

「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について(審議まとめ)」 27
(令和4年3月18日中央教育審議会大学分科会質保証システム部会)

大学設置基準の改正

【主な改正内容】

- ・ 総則等理念規定の明確化について
- ・ 教育研究実施組織等について
- ・ 基幹教員制度について
- ・ 指導補助者について
- ・ 授業期間について
- ・ 単位の計算方法等について
- ・ 卒業要件の明確化について
- ・ 校地、校舎等の施設及び設備について
- ・ 教育課程等に係る特例制度について

改正の施行期日：令和4年10月1日

令和6年度開設予定の設置認可申請の審査において、改正後の規定の適用が可能

既設の大学等において、改正に伴う急激な影響を受けないよう、以下の経過措置

・現に設置されている大学等に対する「基幹教員」「校舎」「研究室」の規定の適用については、従前の例によることができる

・施行時に設置認可審査を受けている申請(令和5年度開設等)や施行日前の設置等に係る届出については、施行前の規定を適用

・令和6年度に行おうとする設置等の認可の申請に係る審査や令和5年度・令和6年度に行おうとする設置等の届出については、大学等の選択により、**施行前、施行後のどちらの規定を適用することも可能**

・令和7年度に行おうとする設置等の認可の申請や届出については、**施行後の規定を適用**

大学設置基準の改正

・基幹教員制度について

改正前

改正前の専任教員は、基準上「一の大学に限り、専任教員となる」「専ら当該大学における教育研究に従事する」としか定められておらず、各大学にとって専任教員としての登用では、慎重に判断せざるを得ない面があった。

審議まとめにおいて、「一の大学に限り」という「専任教員」の概念を「基幹教員」（仮称）と改め、設置基準上最低限必要な教員の数の算定に当たり一定以上の授業科目を担当する常勤以外の教員について一定の範囲まで算入を認めることなどが提言。

改正後

従前の設置認可審査における専任教員の考え方等も踏まえながら「基幹教員」として定義を明確化するとともに、必要最低教員数の算定においては、複数の大学・学部での算入も可能（4分の1まで）とすることなどを規定
→教員が十分に養成されていない成長分野等において、民間企業からの実務家教員の登用の促進や、複数大学等でのクロスアポイントメント等の進展が期待

（授業科目の担当）

第八条 大学は、各教育課程上主要と認める授業科目（以下「主要授業科目」という。）については原則として基幹教員（教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う教員（助手を除く。）であつて、当該学部の教育課程に係る主要授業科目を担当するもの（専ら当該大学の教育研究に従事するものに限る。）又は一年につき八単位以上の当該学部の教育課程に係る授業科目を担当するものをいう。以下同じ。）に、主要授業科目以外の授業科目についてはなるべく基幹教員に担当させるものとする。

29

大学設置基準の改正

・単位の計算方法等について

改正前

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とした上で、授業の方法に応じて単位数の計算方法の基準を定めていた。

○一単位に必要な授業時間数
講義及び演習 → 15時間～30時間
実験、実習及び実技 → 30時間～45時間

授業方法の多様化が進む中で、授業方法によって単位の計算方法を定めることは、必ずしも合理的とは言えず、国際的にも類例が見当たらない。

改正後

1 単位に必要な授業時間数について、授業方法別に基準を定めた規定を廃止
※単位制度自体は変更なし（1単位＝授業外学修も含めた45時間の学修を標準とすることは維持）
※医療関係職種養成所指定規則等では、1単位当たりの実験、実習及び実技の授業時間の下限が改正前と同様の30時間とすることとされたことに注意が必要
→様々な授業方法を柔軟に組み合わせた授業科目の設定も可能に

（単位）

第二十一条 [略]

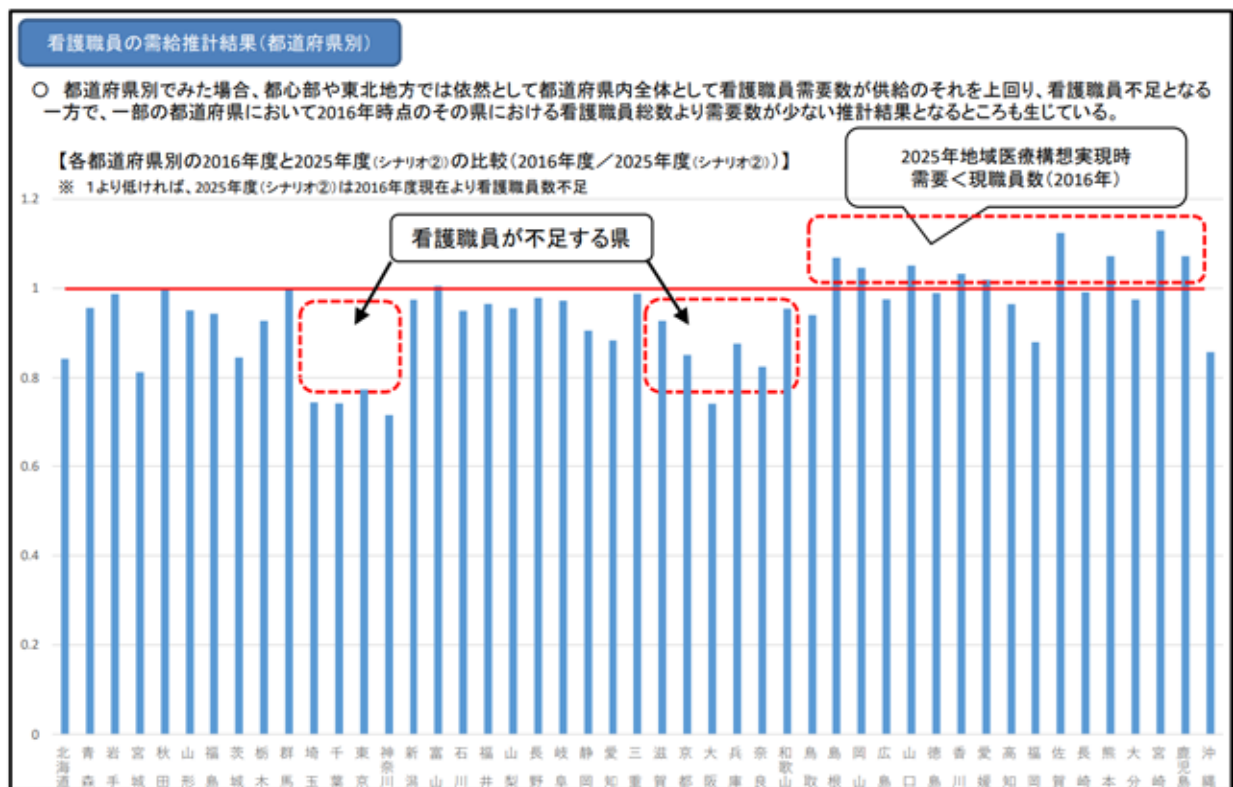
2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

30

4. 看護学教育の質保証における課題

31

看護職員需給見通し



(医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ(概要版)より)

32

都道府県別看護系大学数（令和4年4月 280大学296課程）

国立 42大学(42課程)

公立 50大学(50課程)

私立 188大学(204課程)

地区別()は、大学課程数/入学定員

北海道地区

国立(2/130)

公立(3/185)

私立(8/788)

関西地区

国立(5/370)

公立(8/780)

私立(43/3,774)

中部地区

国立(9/649)

公立(12/995)

私立(35/3,223)

東北地区

国立(4/280)

公立(5/432)

私立(11/840)

中国地区

国立(5/360)

公立(5/315)

私立(11/1,073)

関東地区

国立(5/325)

公立(8/710)

私立(74/6,951)

四国地区

国立(4/250)

公立(3/225)

私立(4/360)

九州地区

国立(8/528)

公立(6/490)

私立(18/1,640)

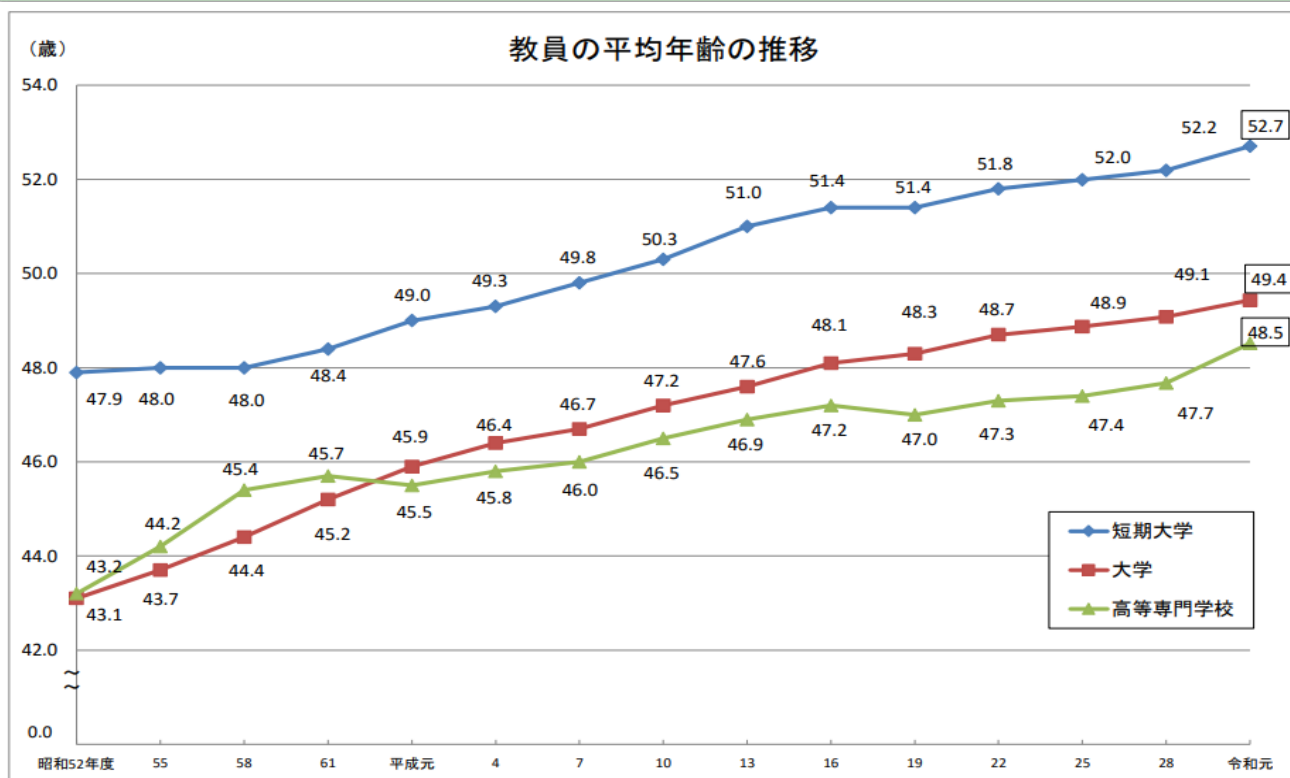
福岡	1	68	1	90	13	1230	15	1388
佐賀	1	60	0	0	1	90	2	150
長崎	1	70	1	60	1	75	3	205
熊本	1	70	0	0	2	200	3	270
大分	1	60	1	80	0	0	2	140
宮崎	1	60	1	100	0	0	2	160
鹿児島	1	80	0	0	1	45	2	125
沖縄	1	60	2	160	0	0	3	220
計	42	2,892	50	4,132	204	18,649	296	25,673

都道府県	国立 大学 課程数	国立 入学 定員	公立 大学 課程数	公立 入学 定員	私立 大学 課程数	私立 入学 定員	合計 大学 課程数	合計 入学 定員
北海道	2	130	3	185	8	788	13	1103
青森	1	80	1	100	4	280	6	460
岩手	0	0	1	90	2	170	3	260
宮城	1	70	1	95	2	160	4	325
秋田	1	70	0	0	2	150	3	220
山形	1	60	1	63	0	0	2	123
福島	0	0	1	84	1	80	2	164
茨城	1	70	1	50	3	240	5	360
栃木	0	0	0	0	4	390	4	390
群馬	1	80	1	80	5	440	7	600
埼玉	0	0	1	130	10	915	11	1045
千葉	1	80	1	80	17	1695	19	1855
東京	2	95	1	80	24	2216	27	2391
神奈川	0	0	3	290	11	1055	14	1345
新潟	1	80	1	95	3	277	5	452
富山	1	80	1	120	0	0	2	200
石川	1	79	2	130	2	150	5	359
福井	1	60	2	100	1	60	4	220
山梨	1	60	1	100	1	80	3	240
長野	1	70	1	80	4	316	6	466
岐阜	1	80	1	80	7	580	9	740
静岡	1	60	1	120	4	460	6	640
愛知	1	80	2	170	13	1300	16	1550
三重	1	80	1	100	2	200	4	380
滋賀	1	60	1	70	1	80	3	210
京都	1	70	1	85	7	590	9	745
大阪	1	80	1	160	16	1440	18	1680
兵庫	1	80	2	200	12	1080	15	1360
奈良	0	0	1	85	3	244	4	329
和歌山	0	0	1	80	2	140	3	220
鳥取	1	80	0	0	1	80	2	160
島根	1	60	1	80	0	0	2	140
岡山	1	80	2	120	3	258	6	458
広島	1	60	1	60	6	655	8	775
山口	1	80	1	55	1	80	3	215
徳島	1	70	0	0	2	200	3	270
香川	1	60	1	70	0	0	2	130
愛媛	1	60	1	75	2	160	4	295
高知	1	60	1	80	0	0	2	140

←左表へ続く
(文部科学省高等教育局医学教育課調べ)

33

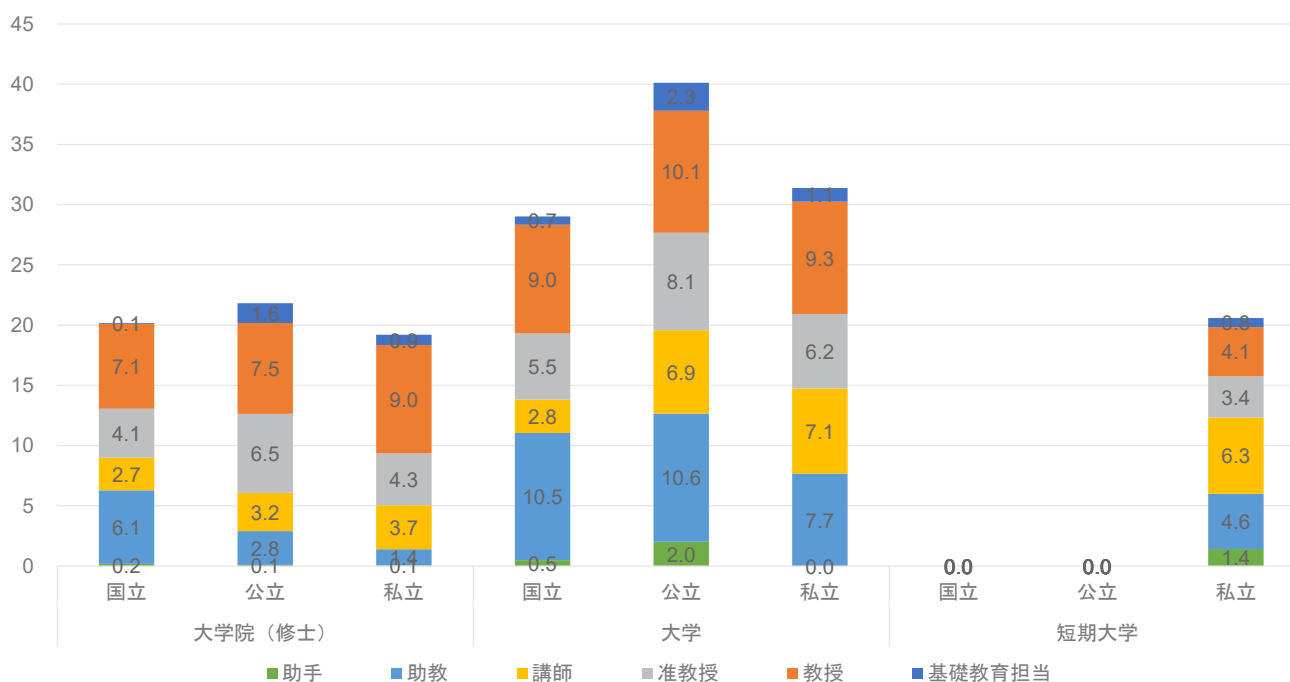
大学教員の平均年齢の推移



(学校教員統計調査-令和元年度)

34

看護系大学の指定学科等における平均専任教員数等（令和4年度）

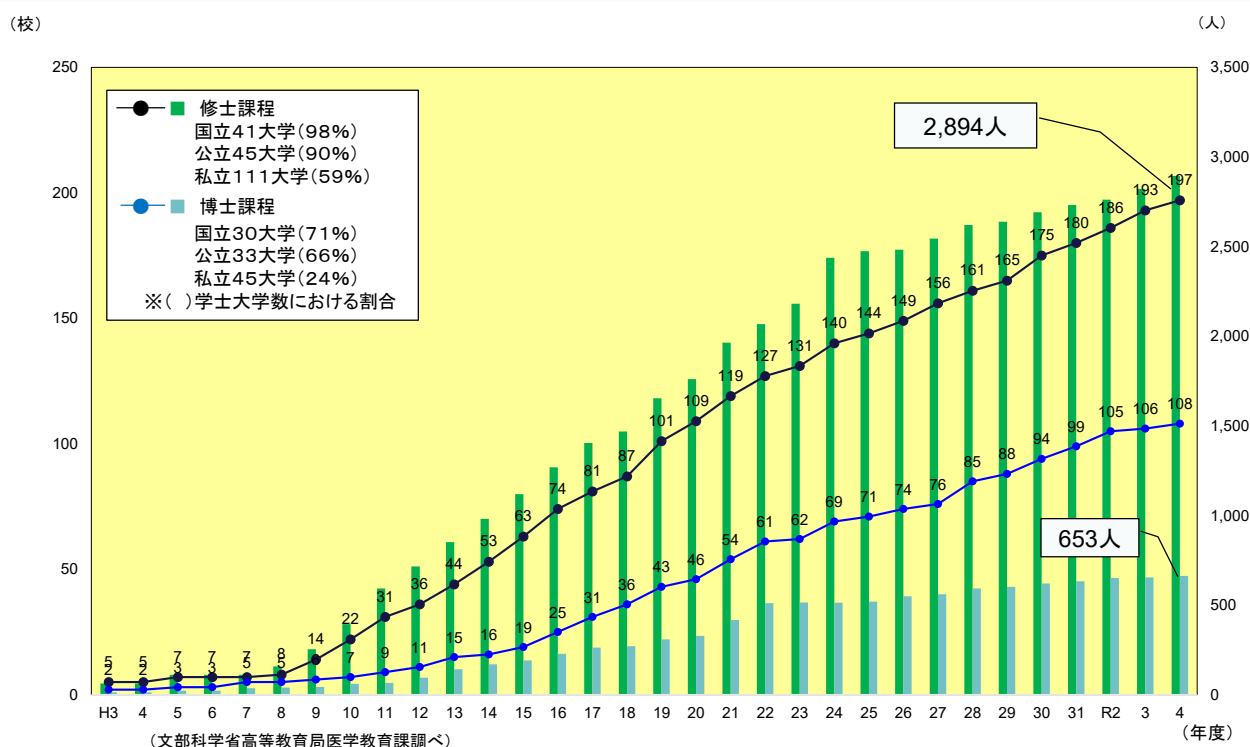


脚注 *1:「基礎教育担当」は、職位（教授、准教授、講師、助教、助手）の合計
*2:「教授」「准教授」「講師」「助教」「助手」は、専門教育科目担当

（文部科学省高等教育局医学教育課調べ）

35

看護系大学院数及び入学定員の推移

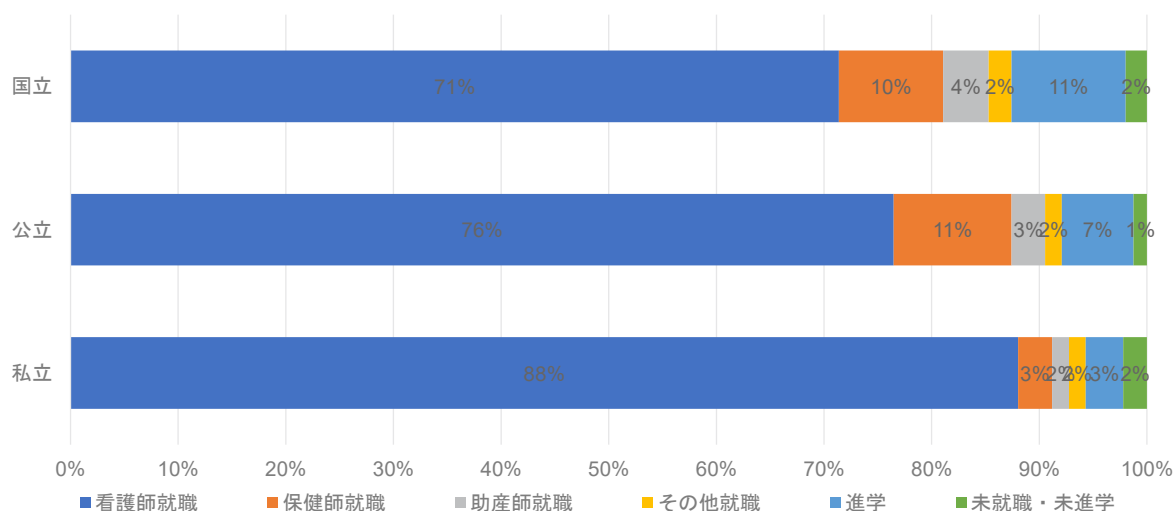


（注）平成16年度以後の修士課程には、専門職大学院1大学院（入学定員40名）を含む。

36

看護系大学卒業者の進路状況（令和3年度卒業生）

	課程数	卒業生数	卒業者の内訳						
			就職者数	看護師	保健師	助産師	その他就職	進学者	未就職・未進学
国立	42	2952	2583	2093	284	124	62	311	58
公立	49	3841	3538	2932	420	119	60	255	48
私立	193	16685	15750	14608	525	261	257	579	365
合計	284	23478	21871	19633	1229	504	379	1145	471



出典: 令和4年度概況調査(令和4年5月1日時点)

37

看護系大学の教育に関する情報

看護系大学の教育に関する情報をHPで公開しています

「文部科学省 看護」で検索

→ 「看護師等医療技術者・福祉系人材の養成: 文部科学省」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1217788.htm

文部科学省HP トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育

> 大学における医療人の養成(医学・歯学・薬学・看護学等)

> 看護師等医療技術者・福祉系人材の養成

38

5. その他

39

薬害防止に関する教育等の充実について

- ◆ 学生だけでなく教職員を含め、薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聞く機会を設け、適切な医療倫理・人権学習等の授業を実施することは、悲惨な薬害を繰り返さないためにも貴重な経験に繋がります。そのため、複数回にわたり様々な薬害被害者の声を聞き、再発防止について議論をする授業等を積極的に実施されるよう御検討願います。
- ◆ 特に未実施の大学においては、積極的な実施を御検討願います。
- ◆ カルテ開示手数料及びコピー代の合理的な価格設定、診療明細書の原則全患者への無償発行、医療情報の共有に向けた取組等について、より一層推進していただきますようお願い申し上げます。

(令和3年度の状況)

- ・ **薬害問題を医療倫理や社会医学等の人権学習的な観点で授業を展開**

	医学科(81)	歯学科(29)	薬学部(79)	看護学科(293)
実 施 し て い る	: 80大学	29学部	79学部	252学部
検討中・実施していない	: 1大学	0学部	0学部	41学部

- ・ **薬害被害者等の声を直接聞く授業及び職員研修を実施**

	医学科	歯学科	薬学部	看護学科	大学病院(国立のみ:42)
実 施 し て い る	: 49大学	17学部	69学部	74学部	7病院
検討中・実施していない	: 32大学	12学部	10学部	219学部	35病院

◎薬害被害者の声を直接聞く授業や職員研修等の実施に当たっては、全国薬害被害者団体連絡協議会に講師派遣の御協力をいただけます。各大学におかれては、積極的な取組をお願いします。

○全国薬害被害者団体連絡協議会の講師派遣担当窓口

申込方法: 原則としてメールで申込み メールアドレス: yakuhiren.lecturer@gmail.com

○全国薬害被害者団体連絡協議会の連絡先

担当団体: 公益財団法人いしずえ(サリドマイド福祉センター)

住 所: 〒153-0063 東京都目黒区目黒1-9-19

TEL: 03-5437-5491 FAX: 03-5437-5492

E-mail: ishizue@qa2.so-net.ne.jp ホームページ: <http://hkr.o.oo7.jp/yakugai/>

40

B型肝炎に関する教育の充実等について

■全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団の要望(令和3年11月)

○専門教育機関(医学部、看護学部、歯学部、薬学部等)において、B型肝炎被害の教育及び偏見差別体験の教育並びに患者講義(B型肝炎患者および家族の声を直接聞く授業)が実施されるように、働きかけられたい。

・ B型肝炎ウイルスに関する授業を行っている数(令和3年度)

	医学部(81)	歯学部(29)	薬学部(77)	看護学部等(293)
実施している	75学部	29学部	75学部	275学部

・ B型肝炎患者から直接話を聞ける授業を実施予定、または実施した数(令和3年度)

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部等
実施している	13学部	5学部	14学部	33学部

※令和2年度の実施数は新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と比較して一部減少している

◎ B型肝炎患者等の声を直接聞く授業を実施するにあたり、講師として、全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団に御協力いただけます。
また、新たにB型肝炎教育普及のためのDVD教材の作成も行われました。

◎ 実施場所、実施時間・講義内容は要望に応じていただけます。

◎ 平成29年度厚生労働科学研究費において開発されたB型肝炎に関する教育資料について、学生へ教授する際の教育方法のひとつとしてご参照ください。

※下記URLよりご覧いただけます。

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/education/hepatitis-b-guide.shtml>

◎ 詳しくは下記URLの全国B型肝炎訴訟弁護団のHPをご覧ください。

<https://bkan.jp/> ※患者講義に関する詳細は、当該HP左下の「私たちの思いを知ってください」からご参照ください。

○患者講義のお問合せ・お申し込み方法

(講義を準備するために、講義実施日より3ヶ月前には御依頼ください)

全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団 事務局 (お問い合わせ窓口)

住所: 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3-7 日月館麹町ビル3階

TEL: 03-5357-1881 FAX: 03-5357-1833

E-mail: ok@bkan.jp

○DVD教材のお問合せ方法

全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団 西田 敦 弁護士

住所: 〒590-0072 大阪府堺市堺区中向陽町2丁3番13号

西田司法ビル3階

TEL: 072-225-5111 FAX: 072-225-5112

E-mail: info@nishida-atsushi-law.jp

< 教育講演 >

「コロナ後に求められる社会変革を視野に入れた

大学教育のあり方」

中央教育審議会委員・関西学院大学学長 村田治

看護学教育研究共同利用拠点
令和4年度看護学教育シンポジウム

コロナ後に求められる社会変革を 視野に入れた大学教育のあり方

中央教育審議会大学分科会副分科会長
大学基準協会副会長
関西学院大学学長
村田 治



本日の概要

はじめに

I. ユニバーサル時代の大学教育

II. ポストコロナの経済・社会状況

III. Society 5.0 における大学教育



はじめに

今日の話の流れ

現在のわが国の大学教育の現状を踏まえ、
ポストコロナ時代、言い換えれば、Society
5.0 の世界における大学教育の課題と役割
についてお話しします

2



本日の概要

はじめに

I. ユニバーサル時代の大学教育

II. ポストコロナの経済・社会状況

III. Society 5.0 における大学教育

3



I. ユニバーサル時代の大学教育

1. マーチン・トロウによる
高等教育の発達段階説
2. コンピテンシー重視の大学教育
3. 日本の大学教育の危機

4



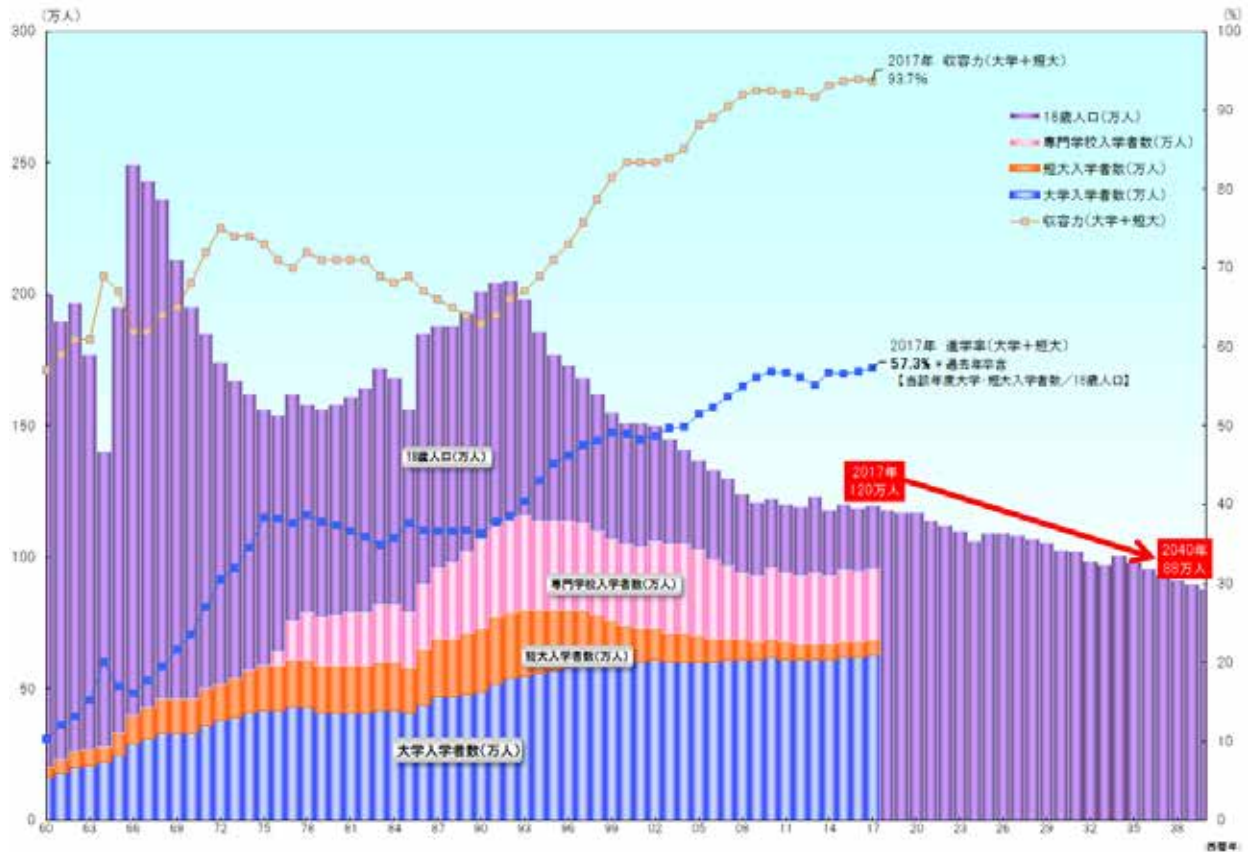
1. マーチン・トロウの高等教育段階説

- ① エリート段階の大学教育
大学進学率が15%以下
↓
- ② マス段階の大学教育(1969年)
大学進学率が15%～50%
↓
- ③ ユニバーサル段階の大学教育(2009年)
大学進学率が50%以上

5



18歳人口の減少



6



高等教育の発達段階と教育目的

① マス段階の高等教育の目的

「知識・技能の伝達」



② ユニバーサル段階の高等教育の目的

「新しい広い経験の提供」

7



ユニバーサル段階の大学教育の目的

「知識・技能」から「新しい広い経験」へ

- ① リテラシーからコンピテンシーへ
- ② 正課教育だけでなく
正課外教育も重視

8



2. コンピテンシー重視の大学教育

- 1. ボローニャ・プロセスのTuning
- 2. OECDのLearning Compass 2030
- 3. コンピテンシーに基づく教育
(Competency-Based Education: CBE)

9



ボローニャ・プロセスのTuning

① Tuning の背景

- 知識基盤社会を背景とした高度な労働力の質の統一(Employability)
- EUにおける高等教育の基準化

② キー・コンピテンシーの抽出

- 30のコンピテンシーの抽出
- 主要なコンピテンシー
学習し続ける力、 知識を実践に適用する力、
分析と総合の能力、

10



OECDの Learning Compass 2030

「変革を起こすコンピテンシー」

- ① 新たな価値を創造する力
- ② 対立やジレンマを克服する力
- ③ 責任ある行動をとる力

11



コンピテンシーに基づく教育(CBE)の定義

「あらかじめ定義されたコンピテンシー，即ち，知能・技能・態度，を個々の学習者にあった方法やペースで修得し，それを認定するものである。授業時間や学期といった期間で区切られて成績が付けられるのではなく，特定のコンピテンシーの習得を目標として，それに到達するまで個々の学習者のスタイルやペースに合った形で学んでいき，目標に達したら単位や資格を得ることができる，というものである。」

青木久美子(2017)、『「新しい」大学教育 ― コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実践』、
『日本労働研究雑誌』、39ページより引用

12



コンピテンシーに基づく教育(CBE)の特徴

1. 柔軟なペース

学習者は，時間の制約に縛られることなく，必要な時間を費やしてコンピテンシーの習得のための学習をすることができる

2. 個別化学習

学習者の多様性に関係なく画一化された教材で学ぶのではなく，個々のスタイルに合った教材や学習方法で学んでいく

3. コンピテンシー習得の評価

画一的な試験のみで評価するのではなく，実技やポートフォリオといった多様な方法でコンピテンシー習得を学習者が証明しそれを評価することで，特定の評価方法に対する苦手意識により不合格となることを防ぐことができる

出典：前掲、青木(2017)40ページ

13



コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実践

「医療教育の分野では, 1990年頃からアウトカムベースの教育という名前でCBEが実践されてきており, 北米の大学院医学部においては今や必須のものとなっているし, 日本でも医療看護の分野においてもアウトカムベースの教育が必須になりつつある。」

青木久美子(2017)、『「新しい」大学教育 ―コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実践』、
『日本労働研究雑誌』、39ページより引用

14



日本の大学の危機

日本の大学の第一の危機・・・1969年

日本の大学の第二の危機・・・2009年

日本の大学の第三の危機・・・20XX年

日本の大学の第四の危機・・・2040年

15



日本の大学の危機

1969年の第一の危機

大学教育のマス段階への移行

2009年 日本の大学の第二の危機

グローバル化、ユニバーサル段階への移行、

20XX年 日本の大学第三の危機

研究と教育の分離、デザイン思考・CBEの導入

2040年 日本の大学の第四の危機

18歳人口の急激な減少(2014年比で約7割)

16



本日の概要

はじめに

I. ユニバーサル時代の大学教育

II. ポストコロナの経済・社会状況

III. Society 5.0 における大学教育

17



Ⅱ. ポストコロナの経済・社会状況

1. Society 5.0 の世界への加速
2. AIの発達とDX の進展
3. 地方分散と価値観の変化

18



1. Society 5.0 の世界への加速

- ① Society 1.0 … 狩猟社会
- ② Society 2.0 … 農耕社会
- ③ Society 3.0 … 工業社会
- ④ Society 4.0 … 情報社会

19



1. Society 5.0 の世界

内閣府ホームページから抜粋

「Society 5.0の社会では、
膨大なビッグデータをAIが解析し、
その結果を人間にフィードバックすることで、
イノベーションという形で新たな価値の創造が
産業や社会にもたらされる」

20



1. Society 5.0 の世界

Society 5.0 のキーワード

- AIによるビッグデータの解析
- イノベーション
- 新たな価値の創造

21



2. AI の発達と雇用の関係

オックスフォード大学教授が認定 あと10年で「消える職業」「なくなる仕事」

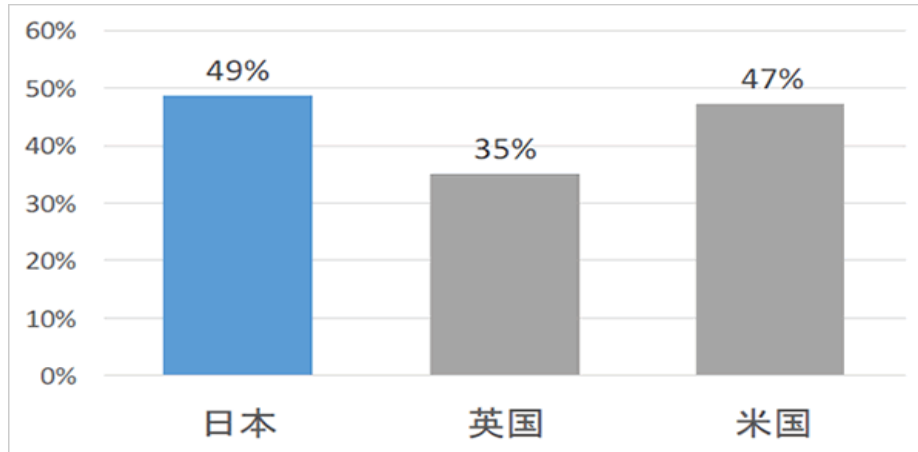
「米国労働省のデータに基づいて、702の職種が今後どれだけコンピューター技術によって自動化されるかを分析した結果、今後10~20年程度で、米国の総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高いという結論に至った」

“According to our estimates, about 47 percent of total US employment is at risk.”

Carl Benedict Frey and Michael A. Osborne, September 17, 2013. *The future of employment: How susceptible are jobs to computerization?*

野村総合研究所は、英オックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究により、国内601種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算した。

図：人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合（日本、英国、米国の比較）



22



AI の発達による雇用への影響

AI戦略の概要

理念

「取組-データサイエンス-AI」は全ての国民にとって「読み-書き-そろばん」と並ぶスキルに

主な取組

- 全ての大学生・高専生に初級レベルのAI教育
- AIと専門分野のダブルメジャーを促進
- 大学に社会人専門コースを設け、学び直しを支援

社会人に専門課程

政府は、社会人のAI教育を推進し、AIと専門分野のダブルメジャーを促進する。また、大学に社会人専門コースを設け、学び直しを支援する。

AI人材年25万人育成

政府戦略、全大学生に初級教育

政府は、AI人材の育成を推進し、AIと専門分野のダブルメジャーを促進する。また、大学に社会人専門コースを設け、学び直しを支援する。

2019年3月27日
日本経済新聞
夕刊より

23



AI リテラシー教育

『AI戦略2019』における具体目標

<具体目標1>

文理を問わず、全ての大学・高専生(約50万人卒/年)が、
課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得

<具体目標2>

多くの社会人(約100万人/年)が、基本的情報知識と、
データサイエンス・AI等の実践的活用スキルを習得できる
機会をあらゆる手段を用いて提供

24



AI 時代に重要となるコンピテンシー

人間固有の能力の育成

・コンピテンシーレベルの大学教育の必要性

AIの発達に伴い、コンピテンシー
の重要性が増大

・知識ではなく、コンピテンシーレベルの能力・ 態度の涵養がますます重要

25



AI活用人材

文系・理系を問わず

AI・データサイエンス関連の知識を持ち

さらにそれを活用して

現実のビジネス課題・社会課題を解決する

能力を有する人材

26



AI活用人材育成プログラムの全体像

AI活用発展演習Ⅱ

AI活用発展演習Ⅰ

AI活用
アプリケーション
デザイン
実践演習

AI活用
アプリケーション
デザイン
入門

AI活用
Webアプ
リケーショ
ンプログラ
ミング演
習
Java

AI活用
機械学習プ
ログラミング
演習
Python

AI活用
UI/UXデ
ザインプロ
グラミング
演習
Web
デザイン

AI活用
データサイエンス
実践演習

AI活用
データサイエンス
入門

AI活用入門

バーチャルラーニングで
2021・22年度開講

バーチャルラーニングで
2023年度以降開講
予定

PBL型で開講

AI活用入門

AI活用に関わる技術・事例・ツール等を幅広く学び、基礎的知識・スキルを活用できるようになる

AI活用アプリケーション デザイン入門

AIの各機能（言語・画像・音声等）の概要・事例を学び、実際のビジネス現場で活用できるようになる

AI活用データサイエンス入門

データサイエンスに関わる技術、事例、知識等を学び、特に統計ソフトウェア「R」をビジネス現場で活用できるようになる

AI活用機械学習 プログラミング演習

AIの基盤技術である機械学習・深層学習の知識を習得し、実装のために必要なプログラミング「Python」のスキルを活用できるようになる

27



バーチャルラーニング

多様なデジタル教材, コミュニケーションプラットフォーム, チャットボットなど活用した, トータルな学習体験ができる, 高度なe-learning

スライド説明動画 (ナレーション+字幕)



講師の解説動画



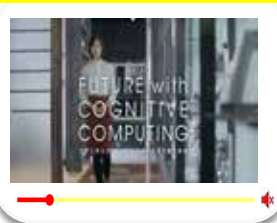
デモ動画



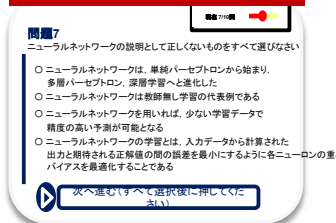
TAチャットボット



参考動画



オンラインテスト



ワーク



コミュニケーション



28



3. 地方分散と価値観の変化

産業の一極集中から地方分散へ

- テレワーク等により産業の一極集中から地方への分散が進展
- 地方での人材育成と起業の促進
…リカレント教育の重要性
- 知の集積としての大学の役割
⇒ インキュベーション機能として
アントレプレナーやベンチャー企業の育成

29



3. 地方分散と価値観の変化

価値観の変化

- 持続可能な社会への問題提起
…地球温暖化に対する懸念と脱炭素社会への移行
- 若者の価値観の変化
ミレニアル世代やジェネレーションZ
…ダイバーシティとインクルージョンの重視
(同質性を排除し、個性や異質性を積極的に評価すること)
- 企業の存在価値への見直し
…利益の追求から社会貢献の重視

30



本日の概要

はじめに

I. ユニバーサル時代の大学教育

II. ポストコロナの経済・社会状況

III. Society 5.0 における大学教育

31



Ⅲ. Society 5.0 における大学教育

1. 人材育成の重要性

2. イノベーション人材と 求められる能力・資質

3. Society 5.0 における大学教育

32



1. 人材育成の重要性

① 労働生産性の低迷

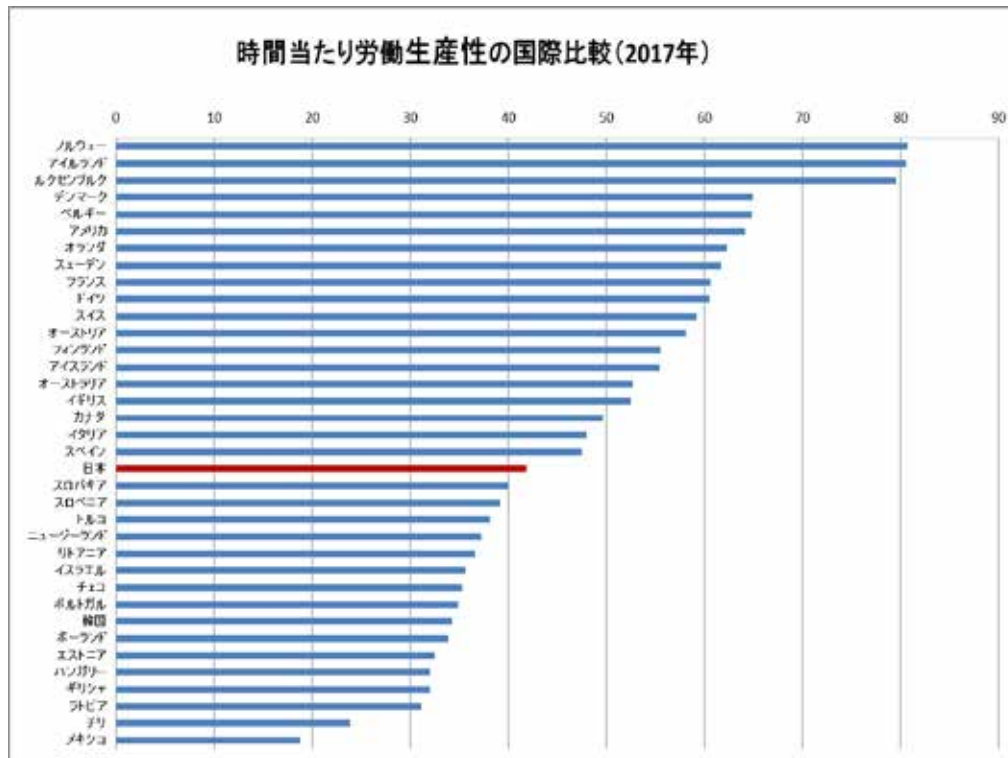
② 人材育成投資の欠如

③ 人材育成モデルの転換

33



① 労働生産性の低迷

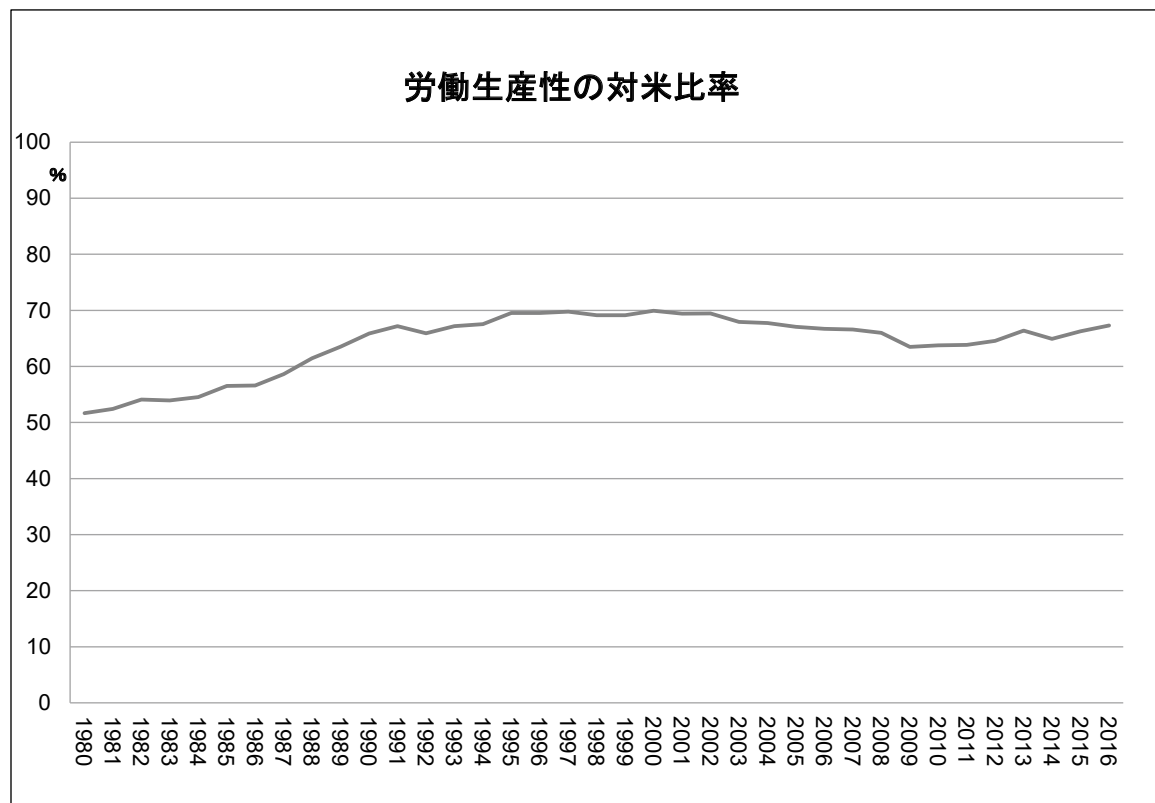


出典: OECD Stat.より筆者が作成

34



① 労働生産性の低迷

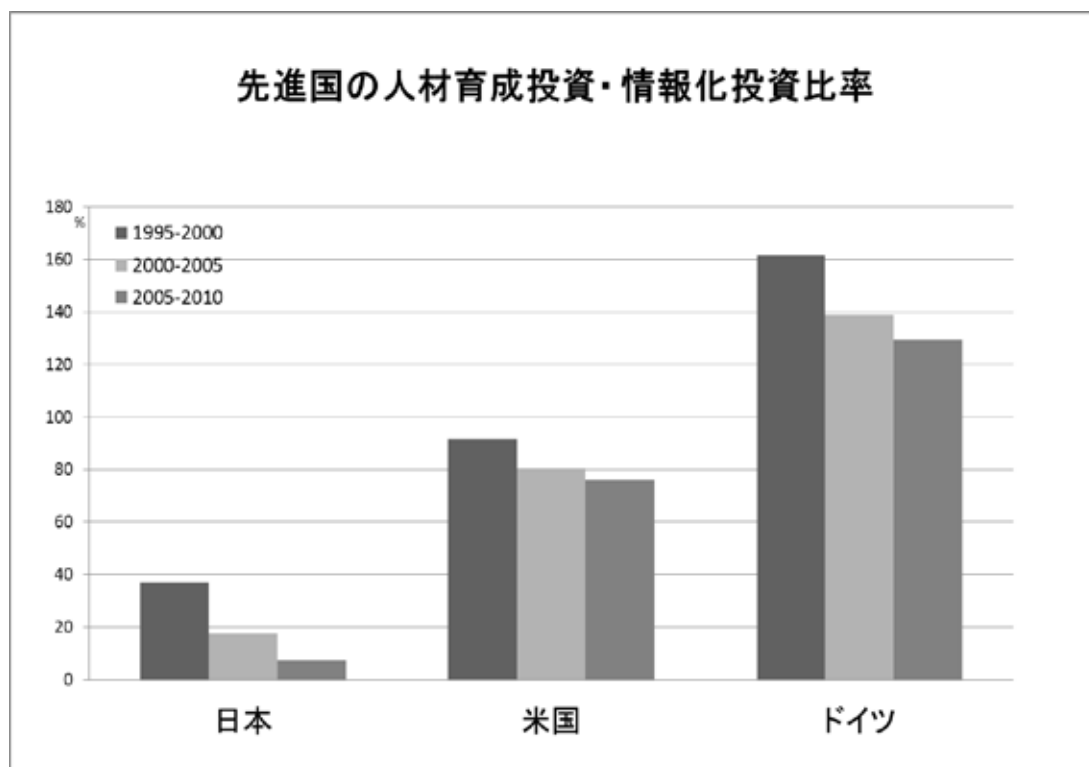


出典: OECD Stat.より筆者が作成

35



② 人材育成投資の欠如

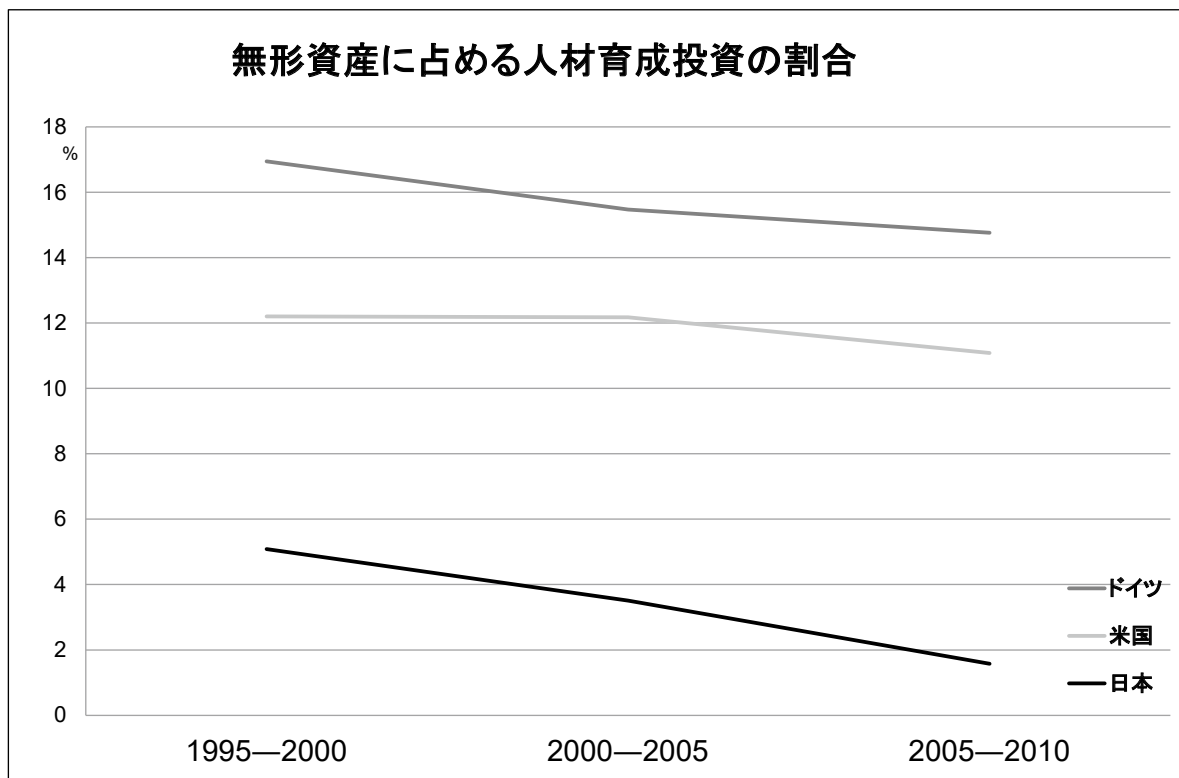


出典: 通商白書 2017年版より筆者が作成

36



② 人材育成投資の欠如



出典: OECD Stat.より筆者が作成

37



③ 人材育成モデルの転換

1. 資本集約型社会から知識集約型社会へ

- ・生産関数 $Y=f(K, L)$ から $Y=f(K, L, H)$
ただし、YはGDP、Kは物的資本、Lは労働量、
Hは人的資本。
- ・AI人材とSTEAM教育の必要性

2. 大量生産型からイノベーション型へ

- ・同質的人材から個性的人材へ
(シグナリング理論から人的資本理論へ)
- ・新卒一括採用から通年採用へ
- ・日本企業は変化についていけているのか？

38



③ 人材育成モデルの転換

新卒一括採用制度の問題点

- ① 終身雇用と年功序列賃金制度を基にした
効果的な企業内教育訓練を前提
- ② 賃金の後払い制度
(労働経済学におけるインセンティブ契約)
- ③ 新卒労働者の潜在能力の均質性が前提であり、
大学教育で「何を身に付けたか」は重要でない

39



③ 人材育成モデルの転換

今後5～10年の社会が求める能力

新卒一括採用制度の前提にある一定時間内に解のある問題を処理する能力(入試能力)ではなく、解のない問題に取り組む(問題解決能力)であり、より重要なのは課題を発見する能力(問題発見能力)である。



大学で「何を身に付けたか」が重要であり、その内容は多様

40



2. イノベーション人材と求められる能力・資質

Society 5.0 で求められる能力・資質

- AI リテラシー
- コンピテンシーレベルでの能力・資質
- イノベーション能力
- 知識集約型社会に対応した能力・資質

41



2. イノベーション人材と求められる能力・資質

イノベーションの定義

『科学技術・イノベーション創出の活性化
に関する法律』

「イノベーションの創出」とは、新商品の開発又は生産、新役務の開発又は提供、商品の新たな生産又は販売の方式の導入、役務の新たな提供の方式の導入、新たな経営管理方法の導入等を通じて新たな価値を生み出し、経済社会の大きな変化を創出することをいう

42



イノベーション人材の資質

- 「出る杭人材」・・・才能主義
- アントレプレナーシップ
- 理系と文系の総合知

43



出る杭人材

自分の価値観(信念)を持ち、その基準にしたがって、自分の考えを論理的に説明し、行動できる資質

44



3. Society 5.0 における大学教育

- ① イノベーション人材の育成
- ② 理数教育の重要性
- ③ 大学院教育の強化
- ④ 学び続ける資質の涵養

45



① イノベーション人材の育成

イノベーションの源泉としての人的資本

生産関数は以下のように表される。ただし、YはGDP、AはTFP、Kは物的資本ストック、Hは人的資本ストック、Lは労働投入量

$$Y = AK^\alpha L^{1-\alpha} \quad , \quad \Delta A/A = \lambda H/L$$

$$\Delta(Y/L)/(Y/L) = \lambda H/L + \alpha \Delta(K/L)/(K/L)$$

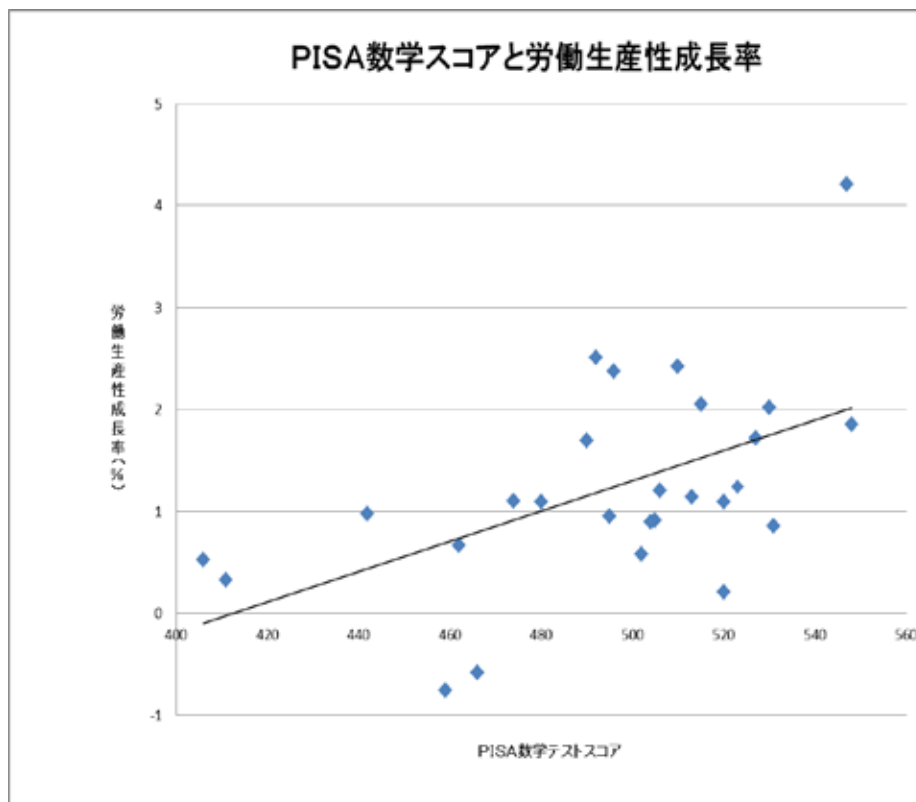
労働生産性成長率は一人当たりの人的資本ストックの水準に依存することになる。

H は人的資本を表しているが、最新の研究ではR&Dに従事する労働者数が最も説明力が高い。

46



② 理数教育の重要性

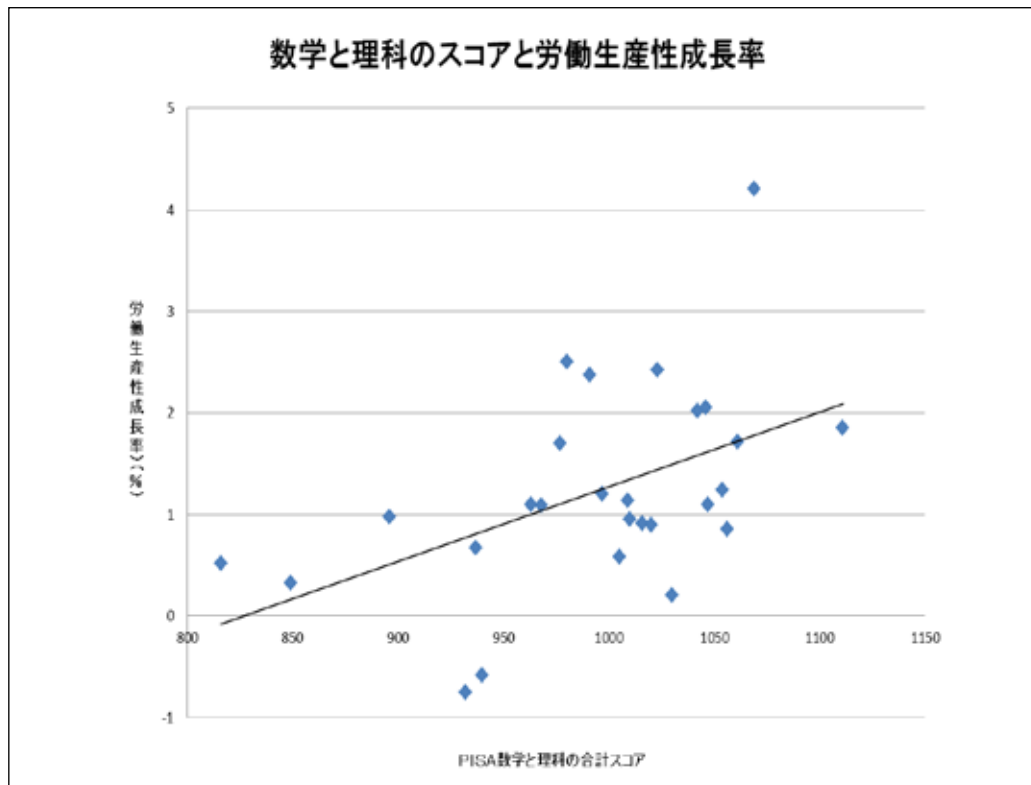


出典: OECD Stat.より筆者が作成

47



② 理数教育の重要性



出典: OECD Stat.より筆者が作成

48



② 理数教育の重要性

中等教育段階での理数教育

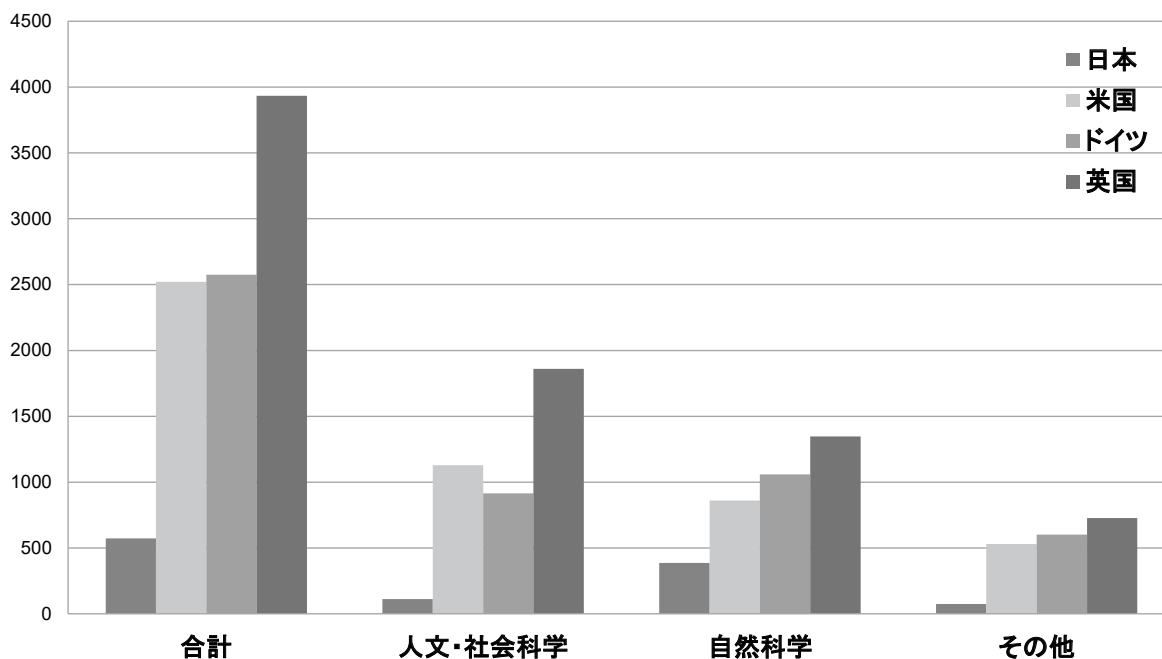
- 理系の高等教育人材
- 理系の研究者
- イノベーション(R&D)
- TFP成長率
- 労働生産性成長率

49



③ 大学院教育の強化

人口100万人当たりの修士号取得者数(人)



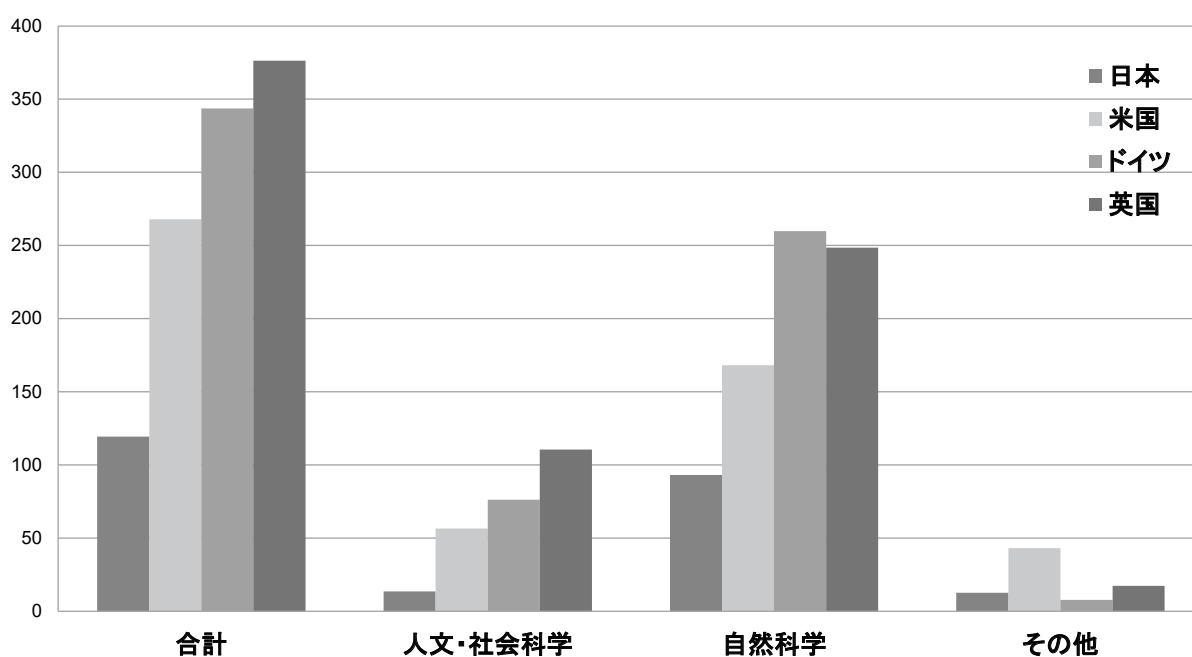
出典:通商白書 2017年版より筆者が作成

50



③ 大学院教育の強化

人口100万人当たりの博士号取得者数(人)

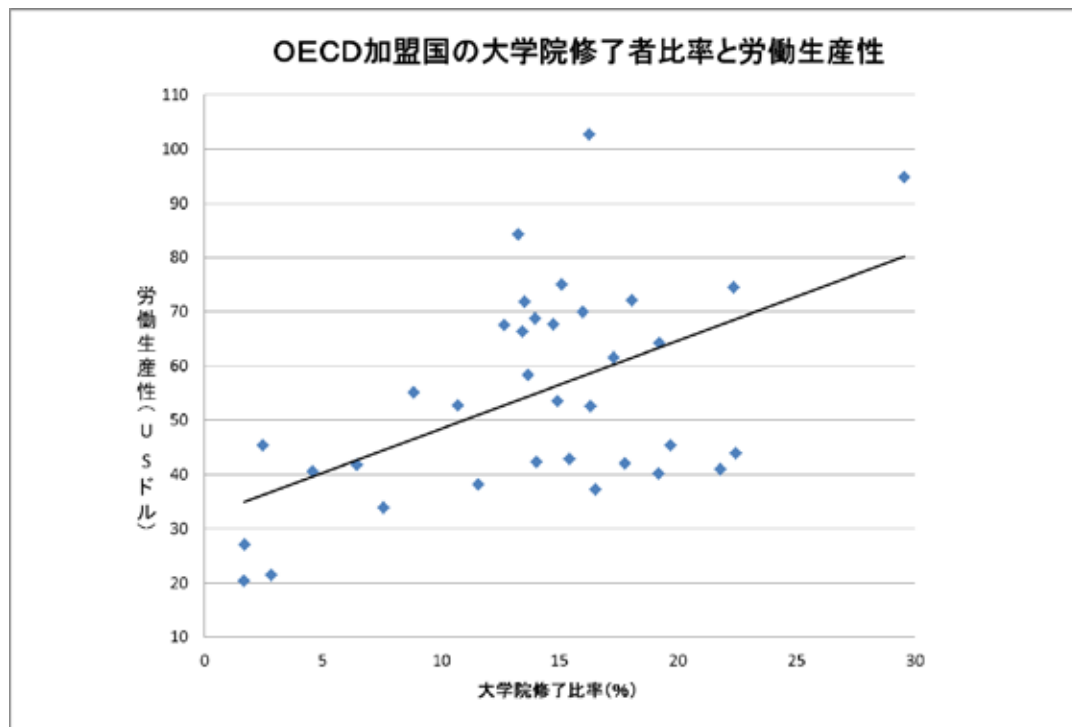


出典:通商白書 2017年版より筆者が作成

51



③ 大学院教育の強化



出典: OECD Stat.より筆者が作成

52



③ 大学院教育の賃金プレミアム

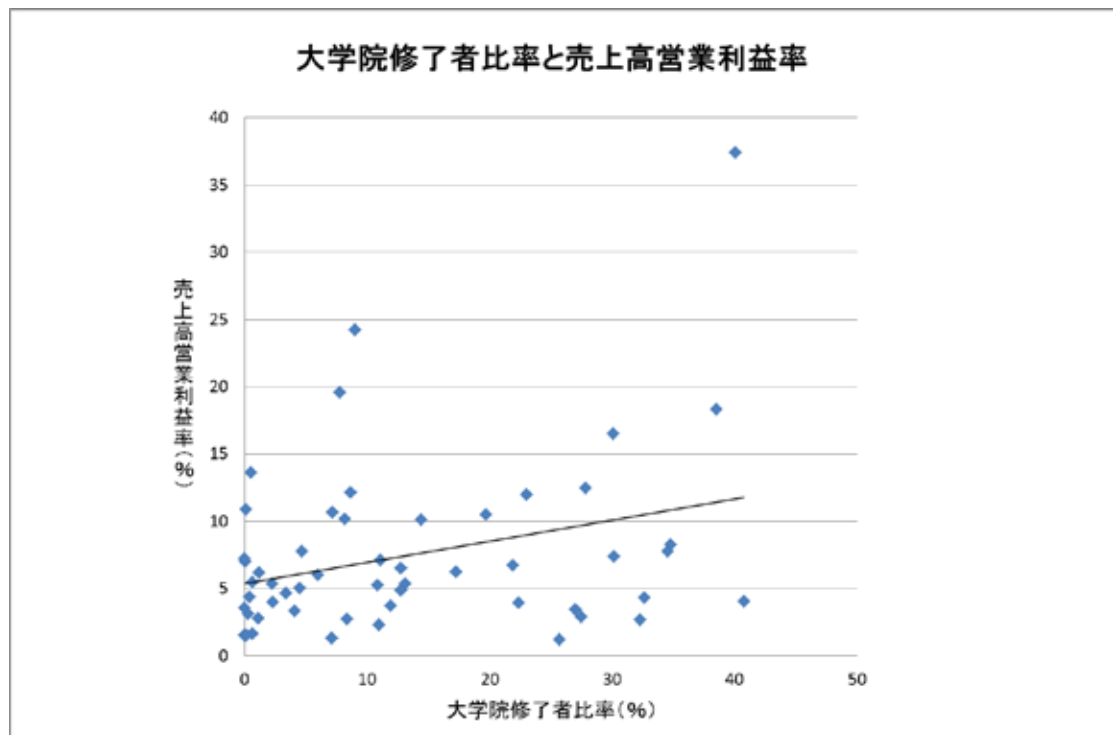
下山・村田(2019)「大学院進学の経済的収益」、
『生活経済学研究』、第50巻

全産業	教育・学習支援	製造業	サービス業	医療・福祉	情報通信業
29.5%	24.5%	27.7%	28.2%	42.7%	19.6%
	公務	卸売・小売業	建設業	電気・ガス・水道業等	その他
	4.7%	37.2%	28.4%	25.9%	23.5%

53



③ 大学院教育の重要性

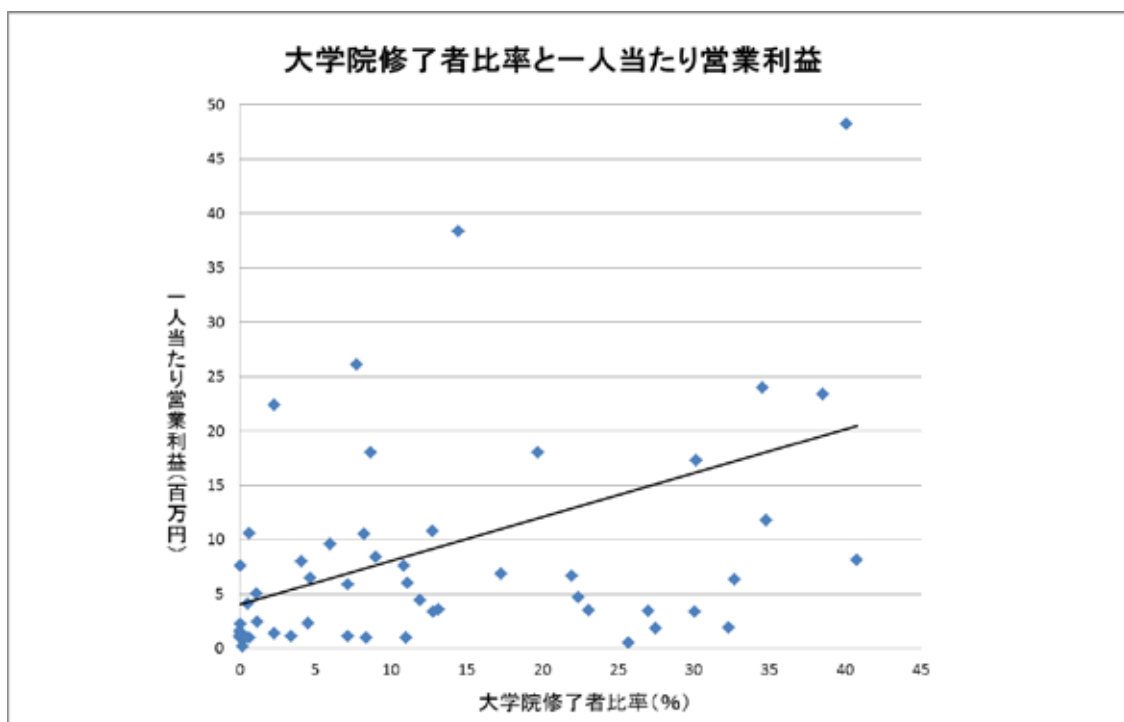


出典: 関西生産性本部
『企業の人材ニーズと大学院教育とのマッチングに関する調査報告書』

54



③ 大学院教育の強化



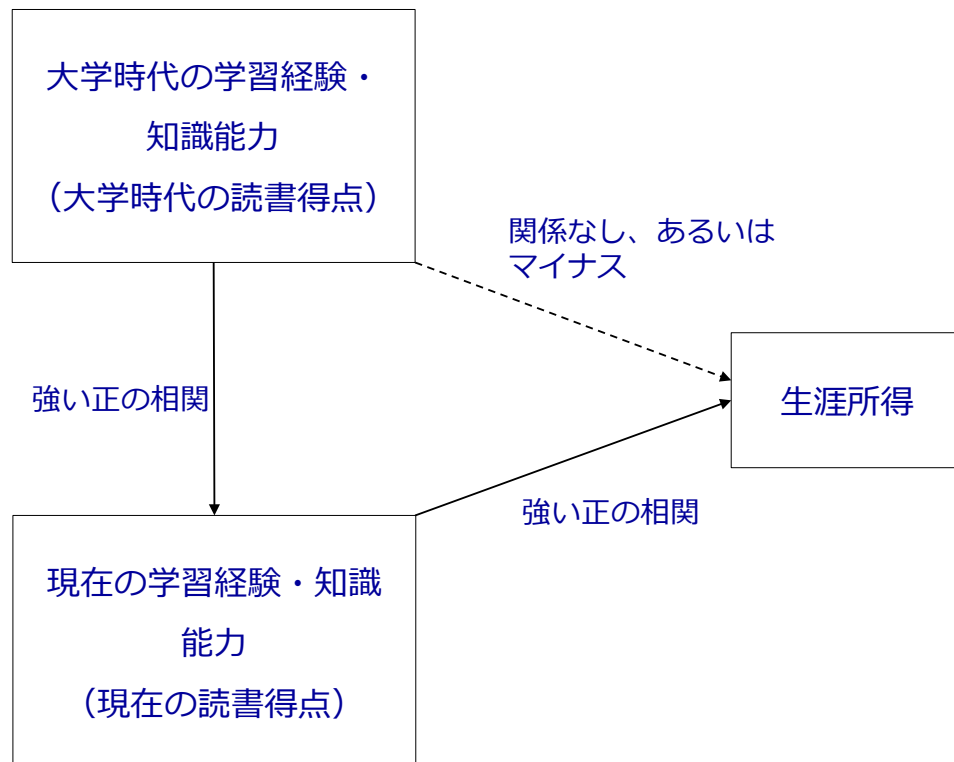
出典: 関西生産性本部
『企業の人材ニーズと大学院教育とのマッチングに関する調査報告書』

55



「学び習慣仮説」

大学時代の学習が、現在の学習と将来の所得を支える



矢野眞和『大学の条件』東京大学出版会,2015年,200P

56



これからの大学教育に求められる役割

- ① 哲学(価値観)の醸成
- ② コンピテンシー教育
- ③ 理数系教育の強化
- ④ 高度専門職業人としての大学院教育
- ⑤ 「出る杭人材」や
アントレプレナーシップの育成

57

ご清聴ありがとうございました。

中央教育審議会大学分科会副分科会長
大学基準協会副会長
関西学院大学学長
村田 治

<シンポジウム>

「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた 次世代育成」

座	長：	千葉大学大学院看護学研究院教授・センター長 千葉大学大学院看護学研究院教授	和住 淑子 中山登志子
シンポジスト：	JANPU 代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長 湘南医療大学教授・看護学科長 日本福祉大学教授・看護学研究科長	鎌倉やよい 川本利恵子 宮腰由紀子	

看護学教育研究共同利用拠点
令和4年度看護学教育シンポジウム

看護系大学における「SOCIETY 5.0」時代 を見据えた次世代育成

日本看護系大学協議会（JANPU）代表理事
日本赤十字豊田看護大学学長
鎌倉やよい

1

-
1. Society 5.0とは
 2. 第6期科学技術・イノベーション基本計画
 3. Society5.0に向けた看護教育の背景
 4. Society5.0に向けた看護教育
 5. JANPU 2022年度重点事業計画
 6. 自民党看護問題小委員会への要望書提出
 7. 参加型臨地実習の推進：スチューデント・ナース制度を目指して
 8. 実習前知識試験（C B T）と客観的臨床能力試験（O S C E）の実現

2

SOCIETY 5.0とは※

- 情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指す。第5期科学技術基本計画（2016年～2020年）において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。**サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。**
- IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、**今までにない新たな価値を生み出す**ことで、これらの課題や困難を克服する。
- 人工知能（AI）などにより、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

※ 内閣府， https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

3

第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年～2025年） 第1章 基本的な考え方 SOCIETY 5.0という未来社会の実現

- 我が国が目指す社会（Society 5.0）
 - **国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会**
 - SDGsの達成を見据えた持続可能な地球環境の実現
 - 現世代のニーズを満たし、将来の世代が豊かに生きていける社会の実現
 - 災害や感染症、サイバーテロ、サプライチェーン寸断等の脅威に対する持続可能で強靱な社会の構築及び総合的な安全保障の実現
 - **一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会**
 - 誰もが能力を伸ばせる教育と、それを生かした多様な働き方を可能とする労働・雇用環境の実現
 - 人生100年時代に生涯にわたり生き生きと社会参加し続けられる環境の実現
 - 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける自らの存在を常に肯定し活躍できる社会の実現

※ 科学技術・イノベーション基本計画（概要）<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6gaiyo.pdf>

4

第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年～2025年）

第1章 基本的な考え方 SOCIETY 5.0という未来社会の実現

■ Society5.0の実現に必要なもの

- サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革
- 新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる「知」の創造
- 新たな社会を支える人材の育成

■ Society5.0の国内外への発信・共有・連携

※科学技術・イノベーション基本計画 <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

□ 新型コロナウイルスの感染拡大による影響

- 新しい生活様式への変化が促進された：テレワーク、オンライン教育

5

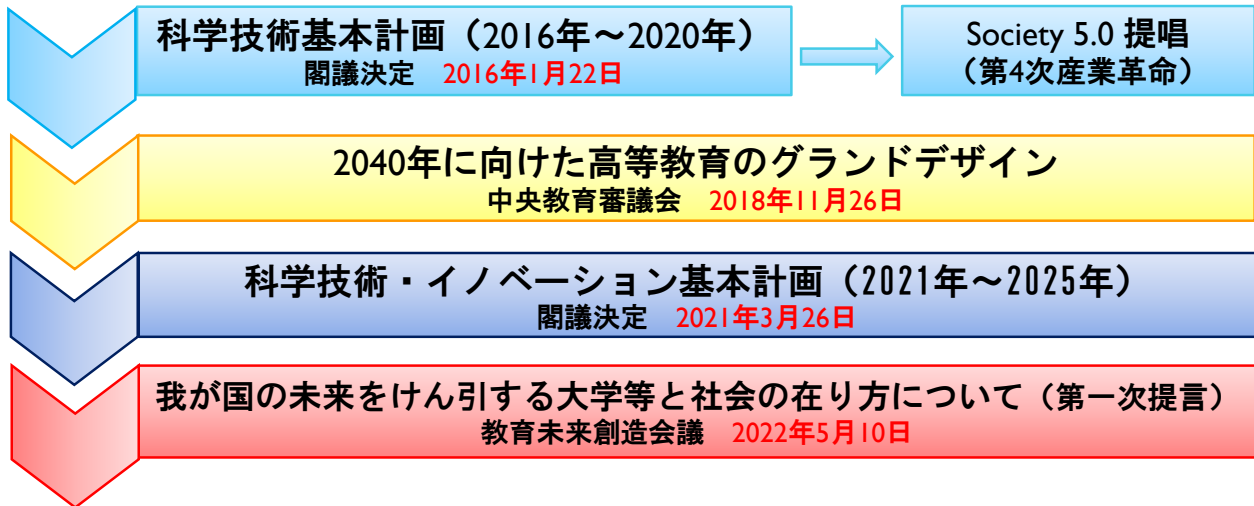
日本経済団体連合会SOCIETY 5.0 SOCIETY 5.0のもたらすもの

- 課題解決・価値創造：規模や効率性のみを求めるのではなく、課題の解決や新たな価値創造に重きを置く。
- 多様性：均一性ではなく、多様性を重んじる。
- 分散：格差を放置せず、富や情報を分散・循環させる。
- 強靱：多様化・分散化により、社会の強靱性を高める。
- 持続可能性・自然共生：環境負荷を減らし、自然と共生する。

日本経済団体連合会Society5.0 要約 https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095_youyaku.pdf

6

大学を取り巻く環境



7

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申（2018年11月26日）※
2040年の社会の姿：2018年に生まれた子供たちが大学の学部を卒業する年

- SDGs（持続可能な開発のための目標）
- Society 5.0（第4次産業革命）
- グローバル化
- 人口減少
 - 18歳人口は、2040年には、88万人に減少し、現在の7割程度の規模となる推計
- 人生100年時代
 - 超高齢社会

※ https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm

8

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申概要（2018年11月26日）※

1. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿

■ 2040年に必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿

➤ 予測不可能な時代を生きる人材像

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材

➤ 学修者本位の教育への転換

- 「何を学び、身に付けることができたのか」＋個々人の学修成果の可視化（個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却）
- 学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性

9

※ https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/___icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360_7_1.pdf

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申概要（2018年11月26日）※

2. 教育研究体制：多様性と柔軟性の確保

■ 多様な学生

- リカレント教育、留学生交流の推進、高等教育の国際展開

■ 多様な教員

- 教員が不断に多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境整備

■ 多様で柔軟な教育プログラム

- 学位プログラムを中心とした大学制度、複数の大学等の人的・物的資源の共有、ICTを活用した教育の促進

■ 多様性を受け止める柔軟なガバナンス等

■ 大学の多様な「強味」の強化

10

※ https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/___icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360_7_1.pdf

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言） 基本理念

- 日本の社会と個人の未来は教育にある。教育のあり方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- 人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

※ 教育未来創造会議 提言 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

11

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言） 在りたい社会像

- 一人ひとりの多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- 社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- 生産性の向上と産業経済の活性化
- 全世代学習社会の構築

※ 教育未来創造会議 提言 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

12

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言） 目指したい人材育成

■ 未来を支える人材像

- 好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

■ 高等教育で培う資質・能力

- リテラシー／論理的思考力／課題発見・解決能力／未来社会を構想・設計する力／

※ 教育未来創造会議 提言 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

13

SOCIETY5.0に向けた看護教育の背景

■ 探求力と学び続ける姿勢を強化する教育・人材育成

- 学校教育においてSTEAM 教育を受けた学生が大学に入学する。

STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習

- 文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められる。（中央教育審議会答申令和3年1月26日）
 - ・ 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造を導く能力を育成する。
 - ・ 多様性：画一化するのではなく、多様な能力をのばす。
 - ・ リカレント教育：何度でも学び直すことができる環境整備が求められる。

14

SOCIETY5.0に向けた看護教育の背景

■ デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation:DX) の推進

- デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること、既存の価値や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの
- 情報通信技術 (Information and Communications Technology : ICT) の活用
- モノのインターネット(Internet of Things:IoT) への対応：様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みであり、ビッグデータの生成、収集、蓄積、人工知能(Artificial Intelligence:AI)による分析
 - ・ 課題解決のためにAIやデータを使いこなすことができる力
 - ・ フィジカル空間での知識やデータを生かし、サイバー空間へ展開できる力

15

SOCIETY5.0に向けた看護教育

■ 講義：探求する力と自ら学び続ける力を育成する学習方法の検討

- 対面授業、オンライン授業の効果的な選択
- Eラーニング学習の導入、オンデマンド教材の提供
- 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題を発見・解決する能力を育成
- 学習をセルフマネジメントできるようになる環境の設定
- 多様性を伸ばすカリキュラムの提供
- リベラルアーツ科目の提供
- データを使いこなすための科目の提供
- 多様な能力をのばす。

16

SOCIETY5.0に向けた看護教育

- 演習：XR教材を開発，シミュレーションモデルやエコー機器を活用し，問題解決能力を育成，プロフェッショナルとしての態度の育成
 - **DX推進**：クロスリアリティ（XR）：VR, AR, MRの総称
 - ・ 仮想現実（VR）：Virtual Reality
 - ・ 拡張現実（AR）：Augmented Reality
 - ・ 複合現実（MR）：Mixed Reality
 - **DX教材を使いこなし、フィジカル空間へ展開できる力**
- 実習：**参加型臨地実習の推進，DXの推進，看護実践能力の育成**
 - 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題を発見・解決する能力を育成
 - 知識・技術・態度が総合された看護実践力を育成

17

JANPU 2022年度重点事業計画（総会資料）

- **重点事業1．今後の看護学教育のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する。**
 - ① 会員校における教育のDX化の促進に資するよう、会員校間の情報共有と協働の方法を検討する。
 - ② 実習前CBT/OSCEシステムの日本看護系大学協議会版（仮称）の開発を進める。
 - ③ 感染症に強い看護人材育成にむけた看護学教育プログラムの開発を進める。
 - ④ 保健師助産師看護師国家試験のICT化にむけて情報収集する。
- **重点事業2．高度実践看護のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する。**
 - ① APNグランドデザインに基づき、APN教育制度改革に着手する。
 - ② 他機関との協働のもとでナースプラクティショナー（仮称）の資格制度化が実現するよう積極的に活動する。
- **重点事業3．効果的な協議会活動を実現する組織運営に努める。**

18

自民党看護問題小委員会への要望書提出（2022年9月1日）

- 近年は、超高齢社会を迎え、地域包括ケア時代が到来することで予想される在宅療養者の急増や、多発する災害、新型コロナウイルス感染症拡大のような健康危機管理に対応するための看護職の専門的知識や実践力の強化が求められていると考えております。
- まず、実践能力を育む看護学臨地実習の更なる発展・充実と、それを可能にする教育の構造化が不可欠です。さらには、既卒者に対する社会人学びなおし教育等による最新の専門的知識や技術の強化も必要です。
- これらによって、今後絶え間なく変化する地球環境や社会においても、人々が安心して生き抜いていけるよう、「健康危機管理ができる看護人材育成」につながると考えます。

要望事項

1. 看護学生の参加型臨地実習を可能にする実習前知識試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）の実現に向けた調査研究
2. 地域包括ケア時代の「健康危機管理ができる看護人材育成」のための看護学教育の改革
3. 保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用に向けた整備

19

参加型臨地実習の推進 スチューデント・ナース制度を目指して

- スチューデント・ドクター制度の概要
 - 共用試験CBT（Computer-Based Testing）
 - 共用試験臨床実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination）
 - 2005年から公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）により実施されている。
 - 全国医学部長病院長会議（AJMC）がStudent Doctor認定証を発行する。
 - 本来医行為を認められていない医学生に、実習の範囲内で医行為を行うことができる認証（違法性の阻却事由）を与える。

※ 医道審議会医師分科会報告書。令和2年5月，<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000629953.pdf>

- スチューデント・ナース制度を目指して
 - 共用試験実習前知識試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）の実現

20

看護学生の参加型臨地実習を可能にする実習前知識試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）

■ JANPU看護学教育質向上委員会

■ 実習前CBT日本看護系大学協議会版運用システム試行ワーキング（JANPU-CBTワーキング）

■ JANPU-CBT実証事業

- 2022年9月27日（火）10：30～15：50 実施
- 230問と5時限目にアンケート実施
- 参加校6校，各領域臨地実習前の学生223名が受験

■ 小委員会の設置

- CBT班，DX班，OSCE班，国家試験ICT班，政策班

21

ご清聴ありがとうございました。



22

令和4年 看護学教育シンポジウム

「看護系大学における『SOCIETY5.0』時代を見据えた次世代育成」

コロナ禍での臨地実習とDX化の現状から 看護基礎教育での次世代育成を考える

湘南医療大学 保健医療学部
看護学科 川本利恵子

これまでの看護基礎教育における課題

- ・保健医療を取り巻く状況の変化(超高齢多死社会)
- ・医療の高度化と同時に医療提供の場の変化と拡大
- ・**臨地実習時の侵襲性を伴う看護行為等の制約等**
- ・**少子化と学生の多様性**



指定規則改定と大学教育改革(教育内容・方略の工夫)

看護師3年課程の教育内容見直しのポイント

令和3年度施行

保健師助産師看護師学校養成所指定規則 別表3（案）

主なポイント

教育内容	単位数
基礎分野	
科学的思考の基礎	14
人間と生活・社会の理解	
専門基礎分野	
人体の構造と機能	16
疾病の成り立ちと回復の促進	
健康支援と社会保障	6
専門分野	
基礎看護学	11
地域・在宅看護論	6（4）
成人看護学	6
老年看護学	4
小児看護学	4
母性看護学	4
精神看護学	4
看護の統合と実践	4
臨地実習	23
基礎看護学	3
地域・在宅看護論	2
成人看護学	4
老年看護学	2
小児看護学	2
母性看護学	2
精神看護学	2
看護の統合と実践	2
総計	102(100)

・ 総単位数を97単位から102単位に充実（総時間数は削除）

・ 情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容を充実

・ 臨床判断能力や倫理的判断等に必要となる基礎的能力の強化のため解剖生理学等の内容を充実

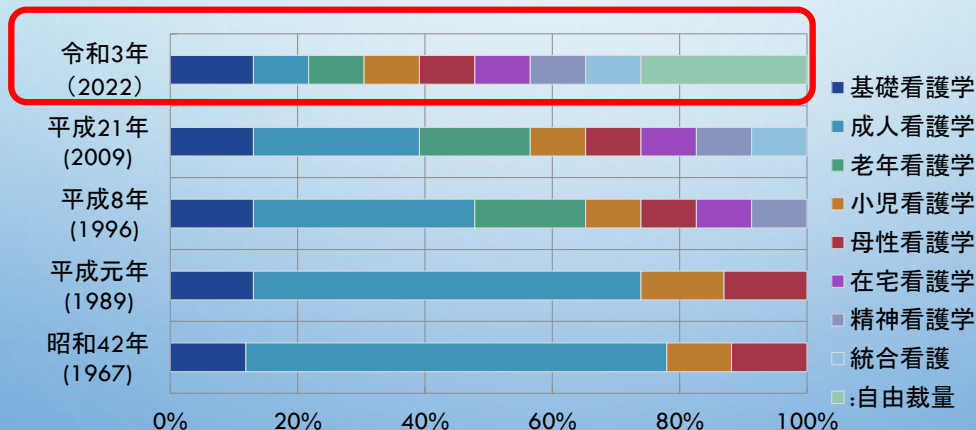
・ 対象や療養の場の多様化に対応できるよう内容を充実し、「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称変更

・ 各養成所の裁量で領域ごとの実習単位数を一定程度自由に設定できるように、臨地実習の単位数を設定

湘南医療大学 川本利恵子

3

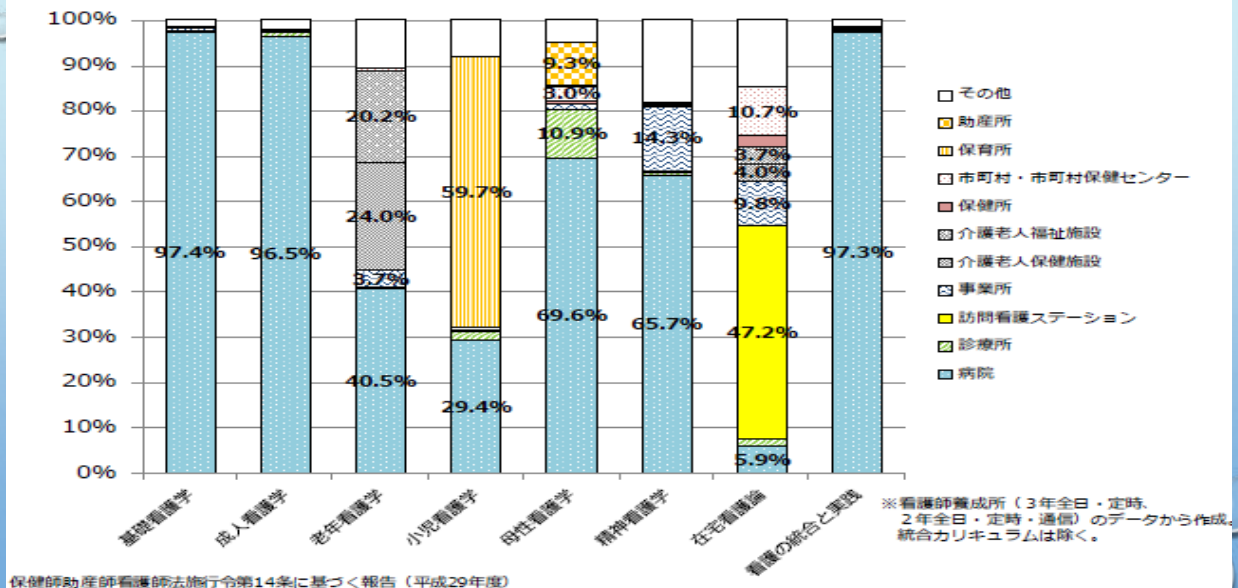
大きく変わる実習教育の内容 看護師3年教育課程 実習時間の推移



湘南医療大学 川本利恵子

4

看護師養成所における 実習施設の状況 ＜実習施設の内訳（H29年度）＞



また、大学教育改革も、

1. 学位授与の方針について

「何を教えるのではなく」「**何ができるようになるか**」の重視

学位授与の方針を明確、学士力の育成

2. 教育課程編成・実施の方針について

順序性のある体系的な教育課程の編成

3. 入学者受け入れの方針について

大学と受験生のマッチングのための受け入れ方針の明確化

4. その他

FDは普及したが、教育力向上の成果につがっていないので、研修の活性化と自己点検・評価による質の保証

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの策定(大項目)

A 看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力

看護系人材として求められる基本的な資質・能力は、学士課程卒者として生涯を通して獲得すべき資質・能力である。A項目では、患者中心の医療を前提に、**学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベル**を定めた。

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 プロフェッショナリズム | 6 ケアの質と安全の管理 |
| 2 看護学の知識と看護実践 | 7 社会から求められる看護の役割の拡大 |
| 3 根拠に基づいた課題対応能力 | 8 科学的探究 |
| 4 コミュニケーション能力 | 9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢 |
| 5 保健・医療・福祉における協働 | |

7

湘南医療大学 川本利恵子

B 社会と看護学

社会を形作る文化と制度と健康の関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護学の位置付けについて学ぶ。

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活体としての側面、生物体としての側面を理解するために必要な知識を修得し、取り巻く社会環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解することができる。人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、生活、健康、看護の理解を基盤として、看護過程展開の基本を踏まえて、対象のニーズに合わせた看護を展開(実践)する能力を育成する。看護過程に必要な基礎知識を身に付け、健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護の役割と対象を中心とした協働の在り方を身に付ける。

E 多様な場における看護実践に必要な専門知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校など多様となっている。また、グローバル化により、諸外国での保健・医療活動など、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象のニーズに応えるための看護実践能力を身に付ける。

湘南医療大学 川本利恵子

F 臨地実習

臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法のひとつである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨むことで、知識・技術の統合、ケアの受け手との援助的関係の構築や質の高いチーム医療の提供において必要なヒューマンスキル、態度を涵養するとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。

G 看護学研究

看護学研究の成果は、看護実践の根拠や社会における看護の必要性を示すとともに「看護」を説明することを可能にする。そのため、看護学の体系を構築する基盤となり、看護学の専門性の発展に貢献する。また、看護学研究の実践を通して、より良い看護を探究する課題解決能力を向上させる。学士課程においては、看護学研究の成果を読み解き、より良い看護のありようを考察し、看護学研究を介した課題解決のプロセスを学ぶことを通して、将来的な看護学研究活動の基盤をつくることが重要である。

臨地実習の意義（看護学教育モデル・コア・カリキュラムでの指摘）

- ・看護職が行う**実践の中に**学生が身を置き、**看護職者の立場でケアを行うことに臨地実習の意義**がある。
- ・看護の方法について、「知る」「わかる」段階から**「使う」「実践できる」段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程**である。
- ・学生は、対象者に向けて看護行為を行い、その過程で、**学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深める。**
- ・**看護実践能力の育成のため**には、学生が行う看護実践を通して、「看護サービスを受ける対象と相対し、緊張しながら学生自ら看護行為を行うという過程で育まれていくもの」である。

臨地実習の機会の確保が必要

看護実践能力育成のための 教育方法の開発

アクティブラーニング シミュレーション教育

湘南医療大学 川本利恵子

11

看護基礎教育課程におけるシミュレーション教育方法による 学習成果と今後の可能性

- 看護基礎教育課程において臨地実習は、非常に有効な教育方法であり、教育的価値は高い。しかし、学習の対象者である患者の高齢化による多様化、複雑化、重症化が急速に進み、病床機能分化などの医療提供体制の改革に伴う平均在院日数の短縮など、安全管理面での危機的な状況もあり、これまでのような方法では臨地実習における学習成果を達成することは難しくなっている。
- **医療場面におけるシミュレーション教育の魅力**は、**患者への負担も軽減**させることが可能となり、**安全面を気にせずに場面設定が可能**であり、さらに**繰り返しの学習が可能**なことに教育方法として注目されている。従来型の方法より、臨床での実践を学習者に実感させることができる有効な学習方法である。

湘南医療大学 川本利恵子

12

シュミレーション教育の有効性

- シュミレーション教育 (**模擬的環境下での経験**)

- シュミレーション教育を支える理論

経験の円錐、経験学習理論、構成主義的学習理論、
観察学習理論、インストラクショナル・デザイン理論

- デブリーフィング

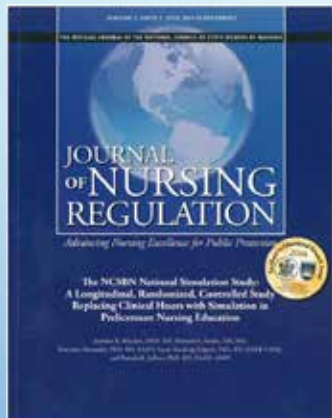
湘南医療大学 川本利恵子

13

シミュレーション教育方法の有効性と導入の可能性

- 「シミュレーション医療教育」は、実際に経験することのできない状況での学習を可能にすることから、**米国では、医療安全の確保を目的とした医療者養成の職能訓練として導入**されてきた。
- 現実に近い状況でシミュレーションを行い、失敗の振り返りから、学ぶことができるので、急速に活用されるようになった。シミュレーション教育に関する看護教育研究結果では、プログラム終了時の評価において、臨床能力差、アセスメント、NCLEXの合格率に統計的な有意差は示されなかった。さらに、新人看護師の総合的な臨床能力評価（6週間、3ヶ月、6ヶ月）においても、特に差は認められなかった。そこで、忠実性の高いシミュレーション体験を従来の臨床実習時間を50%にして、代入しても、実際に臨床現場に出る卒業生を育成するエンド・オブ・プログラム教育成果と同等であることを実質的なエビデンスを提供できたと提言している。**しかし、そのままこの研究成果を導入することは危険である。**
- シミュレーション教育は、失敗が許されない臨床で行う教育の困難性を考えた場合は有効である。**失敗が許される学習環境下で、思考方法や判断、問題解決を学ぶことができることに意義がある。**

湘南医療大学 川本利恵子



TITLE THE STUDY

THE NCSBN NATIONAL SIMULATION STUDY: A LONGITUDINAL, RANDOMIZED, CONTROLLED STUDY REPLACING CLINICAL HOURS WITH SIMULATION IN PRELICENSURE NURSING EDUCATION

- JENNIFER HAYDEN, MSN, RN;
- RICHARD SMILEY, MS, MA;
- MARYANN ALEXANDER, PHD, RN, FAAN;
- SUZAN KARDONG-EDGREN, PHD, RN, ANEF, CHSE; AND PAMELA JEFFRIES, PHD, RN, FAAN, ANEF

出典: THE OFFICIAL JOURNAL OF THE NATIONAL COUNCIL OF STATE BOARDS OF NURSING
VOLUME 5, ISSUE 2 • JULY 2014 SUPPLEMENT

15

湘南医療大学 川本利恵子

Results:

CLINICAL COMPETENCY: END OF PROGRAM PRECEPTOR RATINGS

New Graduate Nurse Performance Survey (1-6 scale)								
	Control group (n=155)		25% group (n=171)		50% group (n=136)		Effect size	P value
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD		
Clinical Knowledge	5.12	0.73	5.18	0.60	5.09	0.72	0.14	0.481
Technical Skills	5.06	0.76	5.09	0.64	5.01	0.86	0.11	0.659
Critical Thinking	5.11	0.72	5.06	0.71	5.03	0.88	0.10	0.668
Communication	5.30	0.65	5.34	0.65	5.24	0.87	0.13	0.478
Professionalism	5.38	0.69	5.47	0.61	5.39	0.85	0.14	0.432
Management of Responsibilities	5.22	0.71	5.20	0.70	5.17	0.85	0.06	0.849

湘南医療大学 川本利恵子

1=lowest rating, 6=highest rating

16

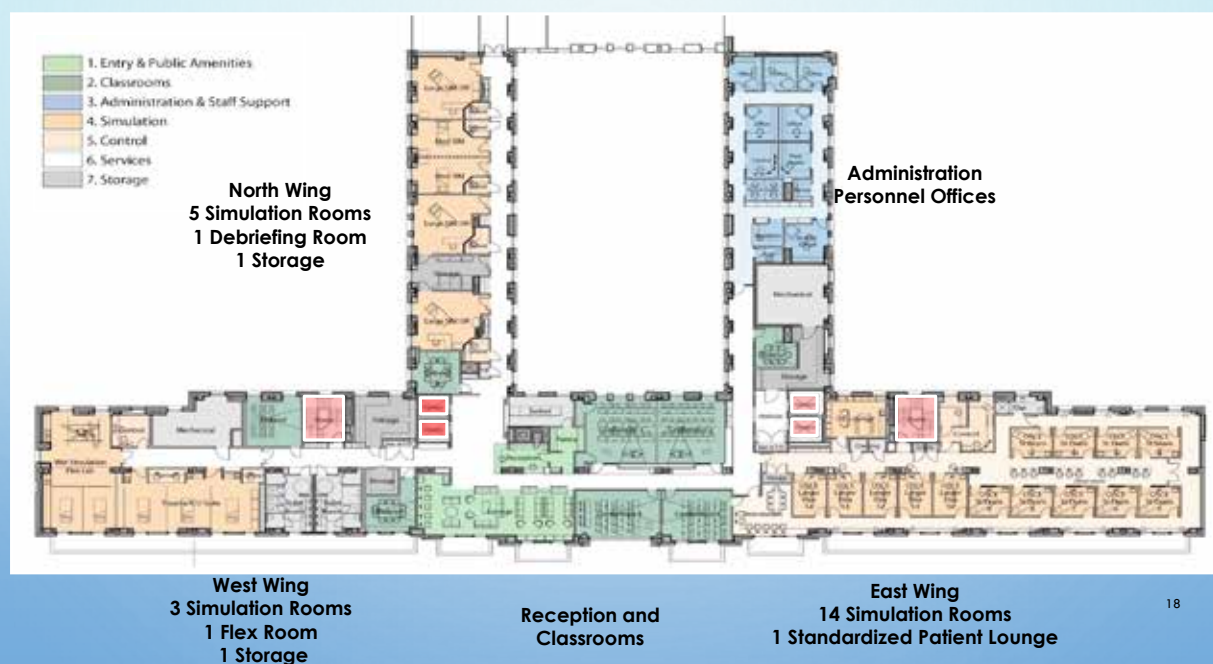
シミュレーション室の構造と機能（リアリティーの追求）

- シミュレーションセンターは、臨床現場により近い状況で配置している。
- シミュレーション室は、**病棟と全く同じ構造**にしていることが重要。
- コントロール室からモニタリングされ、診察技術や患者への対応能力への教育が録画され、タイムリーに指導を受けることができる。常駐スタッフも配置し、利用しやすさを追求。
- 様々な職種に対応でき、かつ協働できることに腐心する。
- シミュレーションによって行われる教育をできるだけ臨地に近い状態に近づけるため、シミュレーションのための**多くのプログラムを開発**。

17

湘南医療大学 川本利恵子

FLOOR PLAN



18

湘南医療大学 川本利恵子

看護教育におけるシュミレーション教育などの課題

- シュミレーション教育は模擬的環境下での経験である
- 予測できないことへの対応
- 看護の本質（ケアの本質）

看護師自身の身体や五感を使うケア（看護実践力）
感情の交流による共感

湘南医療大学 川本利恵子



コロナウイルスの感染拡大

感染予防対策と コロナ禍の臨地実習

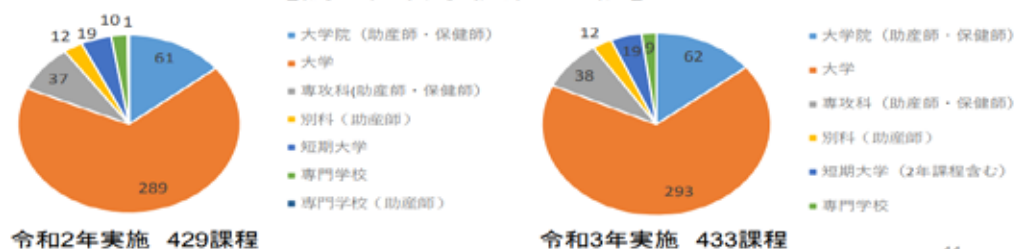
湘南医療大学 川本利恵子

20

新型コロナウイルス感染症に関連する保健師助産師 看護師養成学校における臨地実習等の実施状況調査

実施目的: 看護師等の養成学校における臨地実習の実施状況等について把握する
 ※学校とは大学院、大学、短期大学、専攻科、別科、大学に付設される専修学校(専門学校)
 実施日: 令和2年10月、令和3年10月
 実施方法: アンケート調査

【調査回答学校数と内訳】



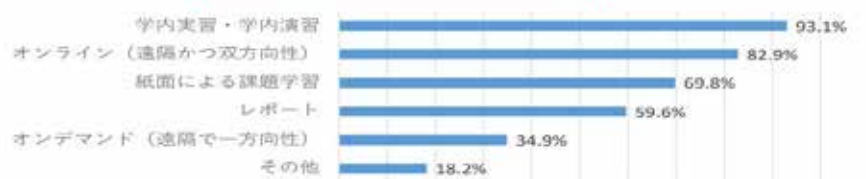
湘南医療大学 川本利恵子

出典: 文部科学省調べ、JANPU総会にて提供²¹

代替措置を講じた課程の代替措置手段の採用割合 (複数回答可)

令和3年

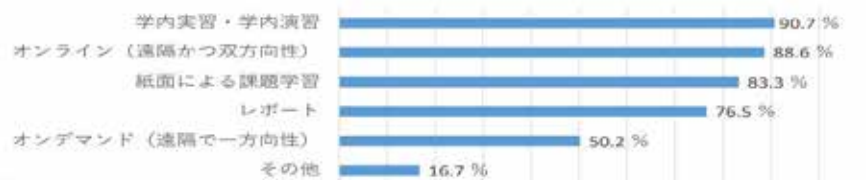
N=代替措置を講じた275課程



その他内容: 臨地とオンラインのハイブリット、オンラインインタビュー / 臨地実習指導者の学内で実践の説明、ゲストスピーカー / 模擬カルテ、模擬病棟で実習 / 地区踏査 健康支援動画作成 / 視覚教材

令和2年

N=代替措置を講じた281課程



湘南医療大学 川本利恵子

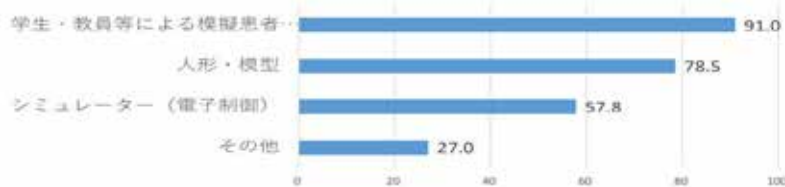
出典: 文部科学省調べ、JANPU総会にて提供²²

前項で「学内実習・学内演習」と答えた課程の用いた教材の採用割合

(複数回答可)

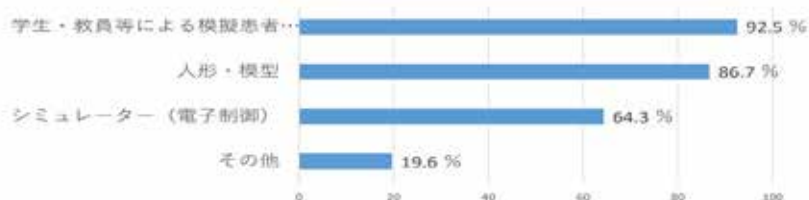
令和
3年

N=256



令和
2年

N=255



湘南医療大学 川本利恵子

出典:文部科学省調べ、JANPU総会にて提供

感染予防対策を強化した コロナ禍での臨地実習

実施計画：臨地実習の短縮版

湘南医療大学 川本利恵子

24

コロナ禍における臨地実習の課題 臨地実習の経験不足

□すべてが学内実習・学内演習

□対人や身体接触が不可能になり、見えてきたこと



□未熟なコミュニケーション能力

□対人スキルの低下

□リアリティショックの増大



次世代育成における臨地実習の教育的価値

湘南医療大学 川本利恵子

- ・看護実践能力(コンピテンシー)を基盤
- ・論理的思考に基づく看護実践能力
- ・専門職としての自覚と自律

上記を目指して

(参考)

湘南医療大学 保健医療学部
看護学科
カリキュラムの特色

湘南医療大学 川本利恵子

26

カリキュラムの特色(1)

【看護のプロフェッショナリズムの基盤育成】

- 本学横浜山手キャンパスは、婦人慈善病院や孤児院を運営した渡邊多満氏による日本初の女子夜間学校、横浜女子商業補習学校の移転先であるため、**日本女子職業専門教育の発祥の地**といわれている。その由緒ある地で、特に**看護のプロフェッショナリズムを基盤**とした能力育成をする。
- **看護専門職の基礎的能力**とは、尊厳ある看護実践、その基盤となる看護学の発展、その時々が必要に応じた保健医療福祉等における役割の発揮・創造をすすめる能力である。
- そこで、**看護の役割機能の多様性や発展性を中心とした自律性を意識した科目の強化と充実**を図っている。

27

湘南医療大学 川本利恵子

カリキュラムの特色(2)

【看護の本質を重視する専門科目の充実】

- 人間の「生命そのものを維持する」能力を基盤にするため、**身体状況を見極めるフィジカルアセスメント能力を育成**し、臨床判断能力を身に付けるための科目の充実と、クリティカルケア能力を専門とした教員の充実を図る。
- 看護の本質をふまえるために**基盤となる能力とは、体と心と生活を護るという能力**である。
- **この能力育成のための科目と分野と専門分野の強化と充実を図る。**

28

湘南医療大学 川本利恵子

看護学科

教育目的及び目標

- ・看護学科は、幅広い視野で人間を理解できる教養を備え、専門職業人としての倫理観を育み、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけ、地域社会に貢献できる能力を持つ人材の養成を目的とし、以下の5つの目標があります。
- 1) 生命に対する畏敬の念をもち、倫理に基づいた行動ができる能力を養う。
- 2) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う
- 3) 科学的根拠に基づき人々の健康上の課題に対処できる能力を養う。
- 4) 関連職種と連携・協働し看護を実践する能力を養う。
- 5) 人として自己成長を続けながら地域に貢献することができる人材を養う。

湘南医療大学 川本利恵子

看護学科 CP

- 1) カリキュラムの編成は、ふれあい学園の理念を基盤とし、科目区分を『総合教育科目』『専門基礎科目』『専門科目』とする。
- 2) 『総合教育科目』は「コミュニケーション」「文化」「健康」「情報」「環境」「尊厳」で構成する。科目の目的によっては、リハビリテーション学科と合同で実施する。
- 3) 『専門基礎科目』は「人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復」「健康支援と社会保障制度」で構成する。
- 4) 看護の『専門科目』は、「看護の基盤」「健康状態に応じた看護」「社会の変化と看護の統合」で構成し、『総合教育科目』『専門基礎科目』と有機的に連携を保つ。

- 5)『総合教育科目』をはじめ多くの科目を通じ、【人間の命と個を尊重できる力】とともに、リハビリテーション学科と合同で【チームで連携し協働する力】を育む。
- 6)「看護基礎ゼミ」や「コミュニケーション論」等の初年次教育科目によって、スタディスキル・アカデミックスキルを獲得させ、さらに看護師として必要な【援助的コミュニケーション力】の基礎を育成する。
- 7)『専門基礎科目』と『専門科目』の進度を有機的に連携させ、早期から『専門科目』を学べるよう配置する。対象者の健康状態を把握する重要な科目はBASICとADVANCEにわけ、繰り返し学んだり、看護行為の根拠を探究し【エビデンスに基づく実践力】の基礎を育成する。
- 8)臨地実習では、ふれあいグループの特徴を活用し、一か所で複数の実習を実施できる利点を生かし、環境変化に伴う学生のストレスを軽減するとともに、目の前の実習課題のみならず広い視野で人間の【安全を保障する力】を養う。
- 9)看護の発展を思考する「社会の変化と看護の統合」科目や、高学年次に開講される『総合教育科目』によって、【看護の発展に対応する力】を育成する。

31

湘南医療大学 川本利恵子

看護学科 DP

- 1) 【人間の命と個を尊重できる力】 ふれあい学園の理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛する」の精神に基づき、対象者の尊厳と権利を擁護することができる。
- 2) 【エビデンスに基づく実践力】 あらゆる場・あらゆる成長発達段階にある対象者の生活と健康課題を理解し、エビデンスに基づき問題を解決するために看護を実践できる。
- 3) 【援助的コミュニケーション力】 対象者とのコミュニケーションを通して、援助的関係を形成し、病状の安定・改善、成長を促進することができる。
- 4) 【チームで連携し協働する力】 対象者の健康問題を解決するために、多職種や地域の人々の専門性や強みを尊重し協働できる。
- 5) 【安全を保障する力】 人間の生存・生活・尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威から対象者を護るための基本的な看護が実践できる。
- 6) 【看護の発展に対応する力】 社会状況やニーズの変化に対応し、看護師の五感や情報科学・テクノロジーを適切に用いることで看護の専門性の発展に寄与できる基礎的能力を身につける。

湘南医療大学 川本利恵子

看護学科DPに含まれている概念

概念	本学における概念の定義(案)
コミュニケーション	対象者との関係性を築くための相互伝達手段を考え、そのスキルを活用し、対象にあった援助的関係の形成や対象の病状の安定・改善、あるいは情緒的成長に影響を与えるかかわり(治療的コミュニケーション)を実践する。
対象者の生活と看護	あらゆる場で生活する人々やさまざまな発達段階にある人々の生活環境や健康課題と、入院生活を送っている対象者の病態や治療がもたらす日常生活への影響や健康課題について理解する。
エビデンスに基づく実践	対象者の生活と健康状態、成長発達に応じた健康状態、地域の特徴と健康課題等をそれぞれにアセスメントし、最新のエビデンスに基づき、その人のニーズに合った看護計画を立案し、優先順位を踏まえて実践する。
倫理	健康や治療に関する決定権を持つ対象者および家族の価値観や考え、尊厳を尊重し擁護する。
安全	医療事故防止対策、感染防止対策について理解し、その基本的な考え方に基づき安全なケアを提供する。
連携と協働	対象者を中心とした保健医療福祉などの専門職及び地域の人々からなるチームにおける相互の強みや専門性を尊重し、共通認識のもとに意思決定を行い実践する。
情報科学・テクノロジー	情報科学やテクノロジーを適切に活用し、コミュニケーションの改善、知識の管理、ヒューマンエラーの軽減を図りながら対象者の意思決定をサポートする。

QSEN(Quality & Safety Education for Nursing) において重要な概念

- ①患者中心のケア ②チームワークコラボレーション ③エビデンスに基づく実践
④質の改善 ⑤医療安全 ⑥情報

33

湘南医療大学 川本利恵子

全ての科目でDPとのつながりを明示

科目区分	授業科目の名称	新カリ DP					
		1)人間の命と個を尊重できる力	2)エビデンスに基づく実践力	3)援助的コミュニケーション力	4)チームで連携し協働する力	5)安全を保障する力	6)看護の発展に対応する力
人間とコミュニケーション	チーム医療論Ⅰ			○	○		
	チーム医療論Ⅱ			○	○		
	英語Ⅰ			○			
	哲学	○					
	生命倫理学	○					
人間の本质と尊厳	社会学	○					
	ジェンダー学	○					
	ボランティア学	○			○		
	人体の構造・機能Ⅰ		○			○	
	人体の構造・機能Ⅱ(見学含む)		○			○	
疾病の成り立ちと回復	病理学Ⅰ		○			○	
	病理学Ⅱ		○			○	
	基礎看護学Ⅰ		○			○	
	基礎看護学Ⅱ		○			○	
	看護倫理	○	○		○	○	
基礎科目	看護基礎ゼミ	○	○	○	○	○	
	ヘルスアセスメントⅠ		○	○		○	
	ヘルスアセスメントⅡ		○	○		○	
	ヘルスアセスメントⅢ		○	○		○	
	ナーシングスキルⅠ		○	○		○	
専門科目	ナーシングスキルⅡ		○	○		○	
	生涯発達看護論	○	○			○	
	看護基礎ゼミ	○	○	○	○	○	
	プロフェッショナルⅠ				○	○	○
	プロフェッショナルⅡ				○	○	○
発展科目	プロフェッショナルⅢ				○	○	○
	プロフェッショナルⅣ				○	○	○

学生があのDPの力をつけるためには、この科目をどのように組み立てるべきか。

この科目を学修して、あのDPを身につけるんだなあ。



湘南医療大学 川本利恵子



特色のある科目

「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

看護は多様な場で生活する、あらゆる年代の者を対象とする。
対象の健康状態を適切にアセスメントできる能力が重要。

「ナーシングスキルⅠ・Ⅱ」

対象の命を守るためには、状況にあった適切な看護実践能力が重要。

「ナーシングプロセスⅠ・Ⅱ」

確かな看護実践を提供するためには、その時々思いつきでなく、
問題/課題を系統的に見極め、解決する能力が必要

「プロフェッショナル論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

プロフェッショナリズムを学修することによって、看護を一専門職として
自覚し、将来に渡り自主的自律的な態度や自己教育力を身につける

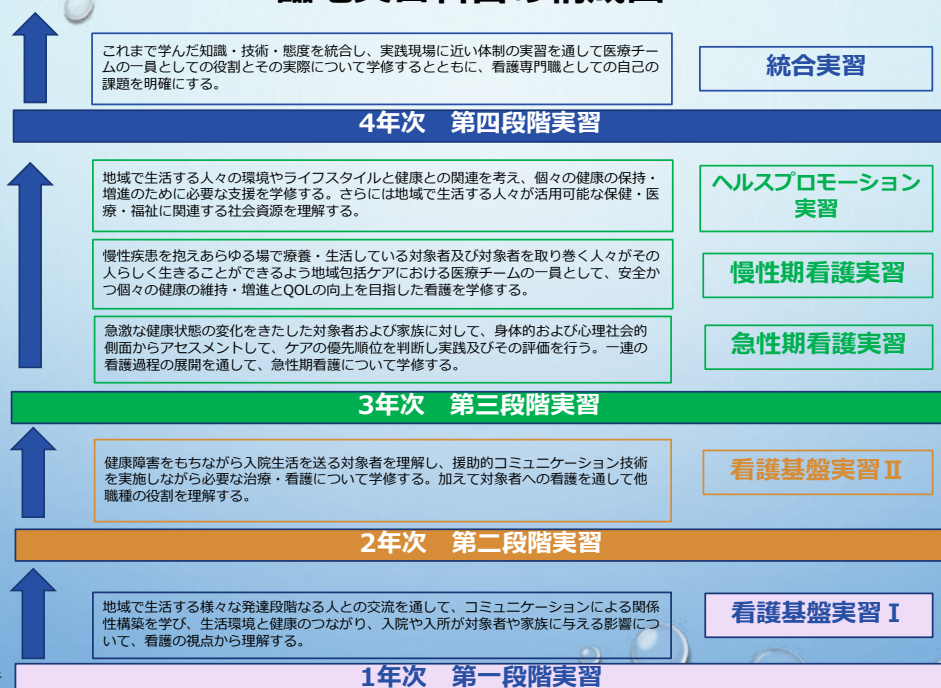
「保健医療看護の最前線」

最終学年の学生が、社会でその時に起こっているトピックスの基礎的知識と現
場での課題と対処について学修し、保健医療看護の最前線に向かう

35

湘南医療大学 川本利恵子

臨地実習科目の構成図



36

湘南医療大学 川本利恵子

本学のもう一つの特徴 学びの環境を提供し続ける

卒業後のキャリア形成イメージ（キャリア開発ナビゲーションシステム）

湘南医療大学
看護学科卒業

保健師課程
修者は保健師
国家試験合格

看護師国家試験合格

ふれあいグループをはじめとした病院・介護施設等で看護職に従事

ふれあいグループ病院施設と連携し、現場の看護職員と人事交流を行うことで、人材育成を強化していきます。

①湘南医療大学 大学院

- ・健康増進・予防領域 高度実践看護師（がん看護専門看護師）
- ・心身機能回復領域
- ・助産学領域（助産師国家試験受験資格）

②湘南医療大学 専攻科

- ・助産学専攻科（助産師国家試験受験資格）
- ・公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）

③看護キャリア開発コアセンター

- ・認定看護教育課程（認知症看護分野）
- ・認定看護管理者教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）
- ・実習指導者講習会（臨床教育担当）

④病院：特定行為研修制度

- ・特定行為研修課程

湘南医療大学 川本利恵子

令和4年度看護学教育シンポジウム： 看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた 次世代育成

「教育」ということ...

宮腰由紀子

2022. 11. 29.

日本福祉大学教授・執行役員
看護学部（基礎看護学）
大学院看護学研究科長

1

Society5.0時代

狩猟社会 **Society 1.0**

⇒ 農耕社会 **Society 2.0**

⇒ 工業社会 **Society 3.0**

⇒ 情報社会 **Society 4.0**

⇒ **Society 5.0**

2016年第5期科学技術基本計画提唱の未来社会

「一人ひとりが**多様な幸せ (well-being)**を実現する」

仮想空間と現実空間を融合し、経済発展と社会的課題の解決を両立
する社会を目指し、スマート化を促進しAI等の活用で最適化を諮る。



2020年度より学習指導要領

「主体的・対話的で**深い学び**」による **資質・能力の育成**を図り、
「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す教育の展開



2021年第6期科学技術・イノベーション基本計画の3本柱の一つ「教育・人材育成」
＜**好奇心に基づく探求心強化問題発見・課題解決的学習充実**

共通する力

- ⇒①文章や情報を
正確に読み解く力
と 対話力
② 科学的に思考・吟味する力
と 活用力
③ 価値を見つけ生む
感性と好奇心・探求力

社会を牽引する人

- ⇒①技術革新や価値を創造
する飛躍知を発見創造
②技術革新と社会課題を
繋ぐプラットフォーム創造
③様々な分野でAIやデー
タ力を最大限に活用する
等



「公正に個別最適化
された学び」実現の
多様な学習の機会と
場の提供

基盤的能力(読解力・数
学的思考力などの基盤
的学力)と
情報活用能力を得習

文理分断
からの脱却
⇐ 教養と
環境と連携

3

miyakoshi

基盤的能力 …昔から言い続けている？

↑ 「**真の学力**」なんて言っていたような…

総合科学技術・イノベーション会議：
society 5.0の実現に向けた 教育・人材育成に関する
政策パッケージ：2022年6月2日：

「子供の**学ぶワクワク感**、教科の**学び**が自分の**設定課題解決**
に活きているという実感、自分の**学びの自己調整力**をどう育む
のか、「好き」や「夢中」を手放さない**学びをどう実現していくの**
か等、子供から**これらの力を引出す**…「子供たちが**自由に発想**
し、子供たちによる**主体的な学び**を支える主体を**多様化**し…」
「社会全体の理解と連携のもとに、**社会全体で教育・人材育成**
政策を推進する」「**探求力と学び続ける姿勢**を強化する」

miyakoshi

4

激動の時代を生きた

エリザベスⅡ世女王を育てた教育・・・

13歳の4月から6年間、歴史と憲政史を教育した
イートン校の副校長 ヘンリー・マーテン の信念

「教育とは大まかに言うと、生徒が問題を多角的
に見て評価し、自身で判断することを助けるもの
だ」

ザ・クイーン エリザベス女王とイギリスが歩んだ100年。

シュール・デニソン、実川元子：訳、株式会社カンゼン：東京、2022.6.11. P169

- ・・・最初の頃、エリザベスは講義に楽しみが余り見出せなかった。
- ・・・次第に慣れてくると、エリザベスの**学ぶ楽しさ**は増していった。
- ・・・6年をかけて、『憲法の法と慣習』を共に読んだ。マーテンは
- ・・・あらましを**解説した**。実例また余談として、ヴィクトリア女王の例を引き詳細に**説明した**。・・・**読むことを勧め**、・・・歴史を**語り**、・・・について**注意を促した**。・・・ことを**紹介した**。・・・ことを**話した**
- ・・・されたのをエリザベスは**理解した**。同上

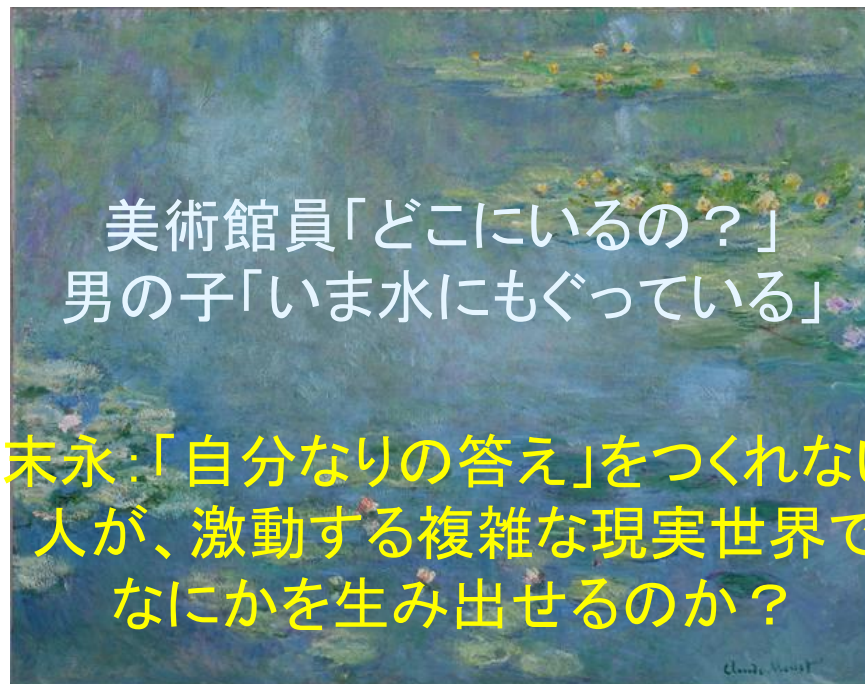
教育の本質は
変わらない・・・

miyakoshi

5

モネ 睡蓮・・・「かえるがいる」4歳の男の子

あなたは発見できましたか？・・・



美術館員「どこにいるの？」
男の子「いま水にもぐっている」

末永：「自分なりの答え」をつくれない
人が、激動する複雑な現実世界で
なにかを生み出せるのか？

末永幸歩：13歳からのアート思考、ダイヤモンド社（東京）、2020.2.19.
「あなただけのかえる」の見つけ方

miyakoshi

6

改めて教育とは...

Richard Stanley Peters:「教育」活動の3つの基準

自由教育(教養教育)の立場で、教育を受けた者の内在的意味を探究して得た。

教育内容 - 価値あるものの**伝達**

教育効果 - ものの**見方**が広がる

教育方法 - 学習者の**理解**を伴う

漢文の初出

=『孟子』の「得天下英才、而教育之、三樂也」

(天下の英才を得て、而して之を教育するは、三の楽しみなり)。

英語 education : **人の持つ諸能力を引き出すこと**

仏語 èducation

↑

羅語 ducere : 連れ出す・外に導き出す

学部1年生(学ぶ人)に伝えます・・・**学習**できる？

真似る ~ 学ぶ = どれもしっかり勉強する: **教養**(=建築する(独))

↑ ↓
好奇心

↑
体験

↑
← **感動するココロ**

物事の基盤・枠組み・輪郭を掴む

← **感動するココロ**, 積極性, チャレンジ精神を持つ

言語は精神の母体
人は社会的存在
言葉は活動の根本

知育 = やる気があれば独学できる

徳育 = やる気・活力(秩序構築)を起す働きかけ

一人で生きていくと消えうせてしまう。社交で育まれる。公正・節度。

徳 = 力強い精神(羅) = 価値の問題に精神的に優れている(漢)



Miyakshi
看護学概論

先人に教え導かれる・・・

- 看護倫理綱領・・・対象の尊厳を守る
- 教えを受け留められる状態か
内的動機付け
存在を大切にされている安心感
信頼されているという安心感
「良し」とされる嬉しさ

miyakoshi

9

初年次教育

- 1888年 ボストン大学 Freshuman-guidance 開始
1911年 リード大学 「大学生活コース」必修単位
1930年代末 全米1/3大学が実施⇒学問への招待
1970年代 学生の多様化・学力低下・大学の大衆化など課題増
⇒「学生主体・プレゼンテーション・コミュニケーション・読み書き・情報検索・討論・発表などのアカデミックスキル
＋時間管理・就職支援・人間関係・地域活動・など大学生活の基本的スキル」教育を一般教育課程に統合し普及
⇒学生の中退率抑制など有効な教育と認識された
- 2000年 日本に紹介
2001年 全国調査 大学の85%で実施
⇒教育学習環境と教員の教育力など課題が
⇒FDなど

miyakoshi

10

認知する

実験：熟練者の看護師の視野を狭めると
パフォーマンスが低下した・・・

古田 久. 広島大学大学院教育学研究科博士論文：バレーボールのパフォーマンス
に關係する知覚的要因の検討. 2020.

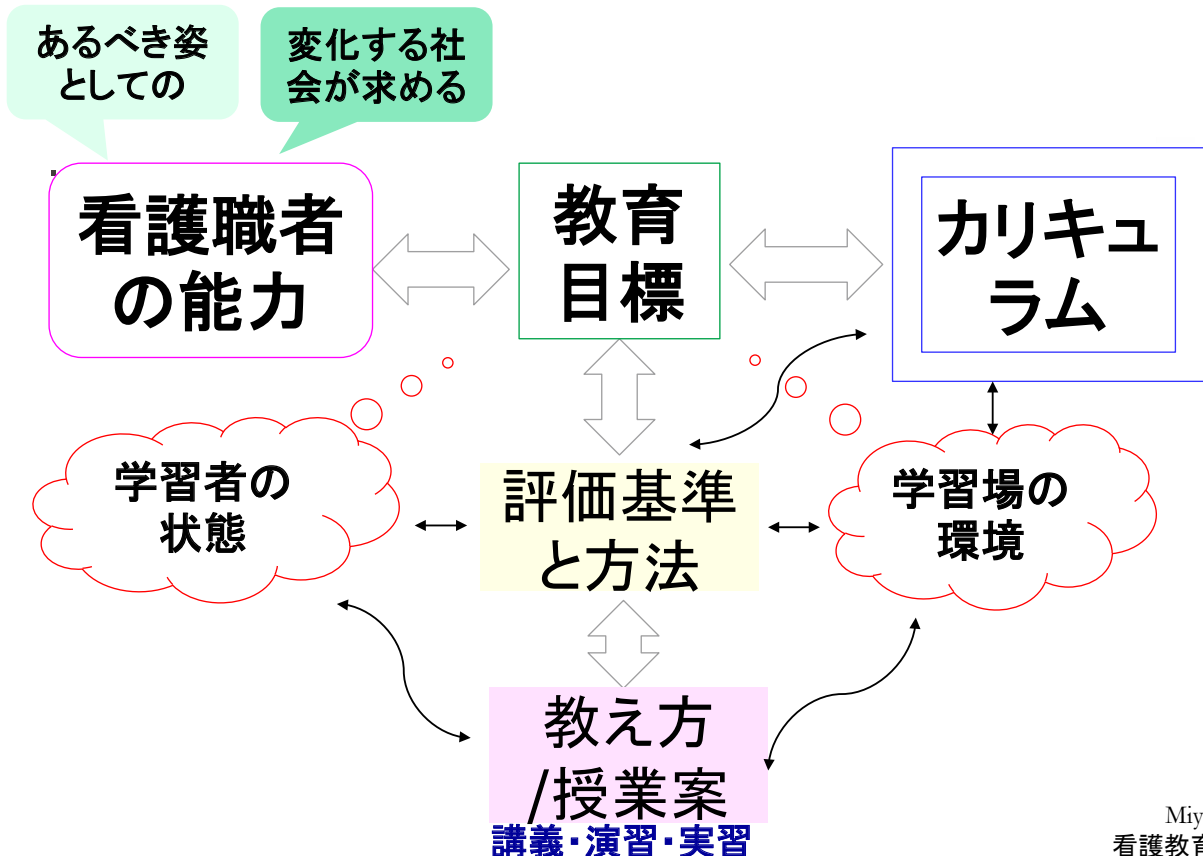
実験：中学生・高校生・大学生の差で、運動課題に関連したものは「情報処理方略要因」だった。

知覚トレーニングが有効であるための前提は、視覚的能力を
みたすものではなく、実験室的知覚トレーニングによる予測ス
キルの向上は、実践における予測スキルの向上に貢献する。
従って、視覚的能力よりも影響が大きい情報処理方略要因に
着目した知覚トレーニングがパフォーマンス向上に有効だ。
意識的学習より無意識的学習の効果が大きいことの検証と、
熟練者においても同様かの検討が課題。

miyakosh

11

院生(教員になる可能性が高い)に伝えます・・・考え方



Miyakoshi
看護教育特論

これからの人を教え導く...

内容

時間は有限

⇒何を最も伝えたいか

⇒基本と応用の配分平衡



精選構造化

方法

視聴覚教材「百聞は一見にしかず」

⇒見てほしいことを見ているか？

五感を通して学ぶ体験学習は重要

学習者の学習準備状態・受入状態は？

miyakoshi

13

前原澄子先生の書籍作りで...

- 
- 沢山の資料を前に纏め方を戸惑い、先生はどのように行うのか尋ねたら
 - 「何度か確認を繰り返せば、絶対に落としてはいけない事項・内容が判るから」

宮崎和子先生との打合せで...

- 「精錬を重ね切れたのね、基本は早々変化しない・・・」

吉武香代子先生、佐藤禮子先生から...

- 「臨地での教育を大切にしないと・・・」

見藤隆子先生の授業で...

- 大学院修士課程第1期生への1回目の授業で
- 「大学院生達が自ら動くまで、待つだよ。待つことが、仕事なの。」

miyakoshi 14

モネ 睡蓮・・・「蛙がいる」「いま水の中に潜っている」



激動する複雑な現実世界で活動できる、
「自分なりの答えをつくれる」柔軟で主体性ある
次世代に、看護を繋ぐ・・・

機会を下さり、有難うございました

miyakosh

15

10. 全体討論・まとめ

全体討論に先立ち、「Society5.0」時代を見据えた看護学教育の展望やイノベーションへの期待、そのような教育の実現に向け求められる次世代教員の能力について、シンポジストより次の発言があった。

- ・DXを駆使する教育の時代であっても、学習者主体の学びを中心に置くことに変わりはない。学生が自己学習できるしかけづくりや、課題の自己管理につながるアプリの開発など学習環境を整備することが重要である。一方、学生のアセスメント力向上や対人関係構築には対面授業（実習）が不可欠であり、知識の修得と修得した知識の実践場面での活用の両者の関連性を考慮した教育方略が必要となる。さらに、学生の思考力の向上や効果的な自己学習の促進につながるオンデマンド教材を創ることや、乖離しがちな臨床と協同関係を構築できる調整能力も教員には求められる。
- ・仮想空間、DX化が進展する一方で、人間の生命は1回限りであり、痛みや辛さは何にも代えられないという看護の本質、人間を扱うことの重みを教員が理解した上で、機器を駆使した教育を展開できる次世代を育成する必要がある。また、仮想空間といった限界の中で、いかにリアリティを創り出し、それを体験できる機会を学生に提供し、実際の実習に結びつける能力が教員に求められる。

続いて、参加者からの質問を中心に討論が進められた。主な内容は以下の通りである。

- ・学習意欲があっても体調が整わないため臨地に行けないという課題に対して、リアリティを重視するシミュレーション教育の活用とその後の短期間の実習により学習の補完が可能となる。また、看護学生にとって健康管理は従前と同様に重要であり、COVID19による影響を学生の自己管理能力を強化する機会として活用し、これを通して、本来学生が持っている力をさらに引き出すことにつながられる。
- ・イノベーションを阻害している要因は、教員自身の中に固定的な価値として存在している可能性がある。学生の自由な発想や率直な疑問を大事にする姿勢とともに、現場からの新たな看護の発信と学生のユニークな考えを連動させることにより、学生をイノベーションに動機づけることも可能となる。また、メタバースやプログラミング等を学習した新時代の学生への教育について、教員自身の意識改革、教育の変革が必要である。新時代の学生とともに学ぶことや、学生から学ぶ姿勢を持つことの必要性も示唆された。
- ・教員自身がDXを伴う教材やシミュレータを使いこなせるよう能力を高める必要がある。このような人材育成は、大学個々による取り組みに加え、予算の確保も含め、看護系大学間の連携という視点からも検討を進める必要がある。
- ・「出る杭」人材の発見・育成（多様性）と、国家資格の担保（均一性）の両者を教員がバランス良く取り組むために、国家試験の合格に必要な基本的能力を保証しつつ、学生の特異な能力を向上できる教員の力量が問われる。「Society5.0」時代の教育の実現に向け、

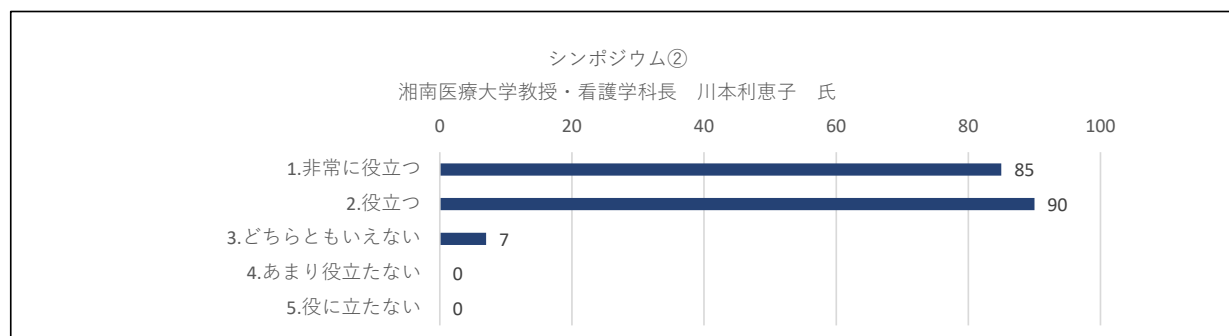
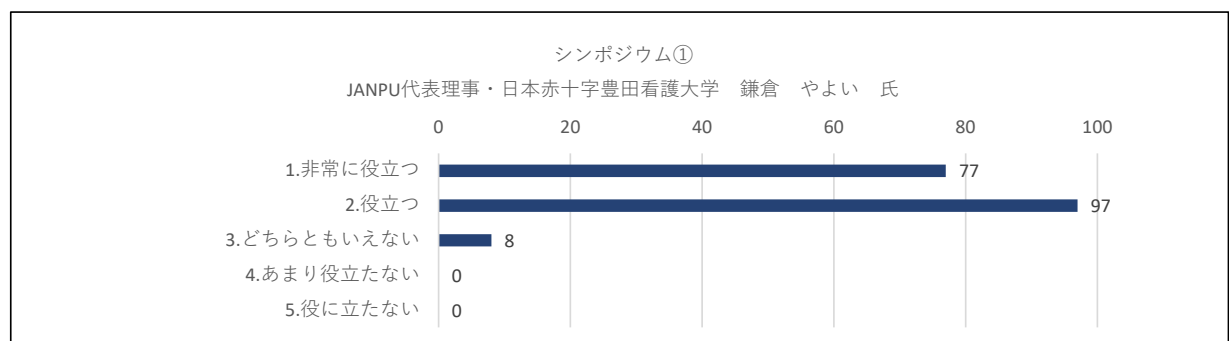
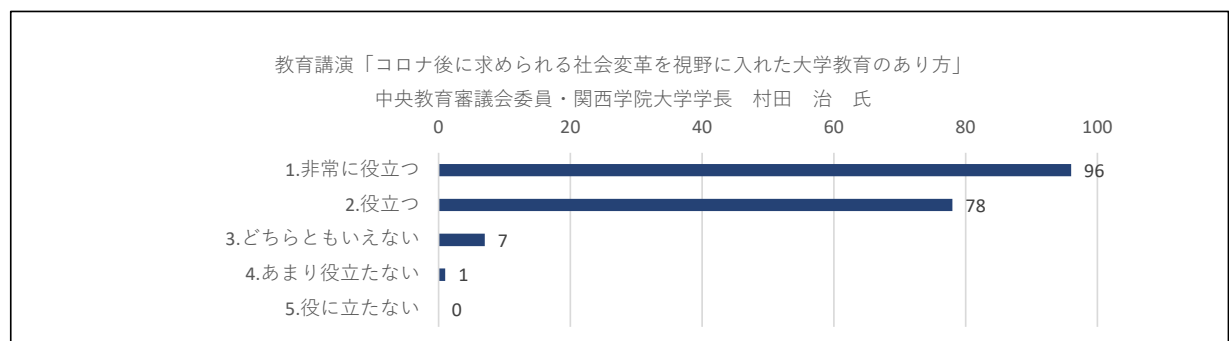
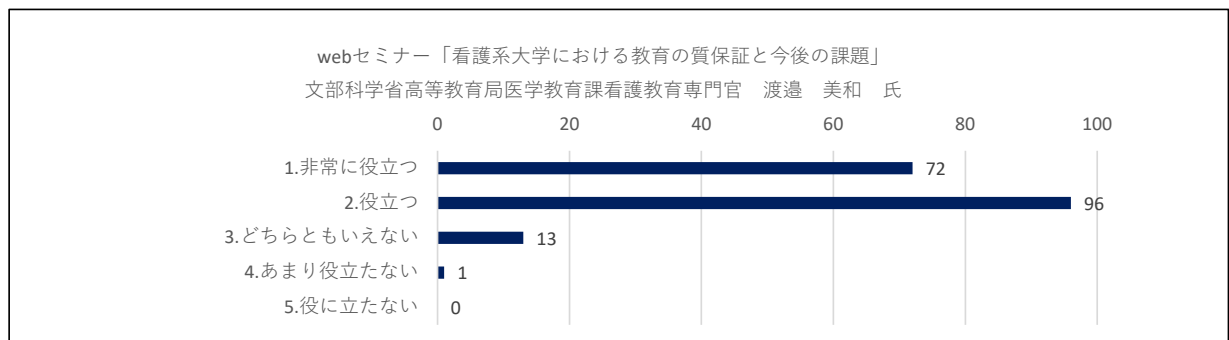
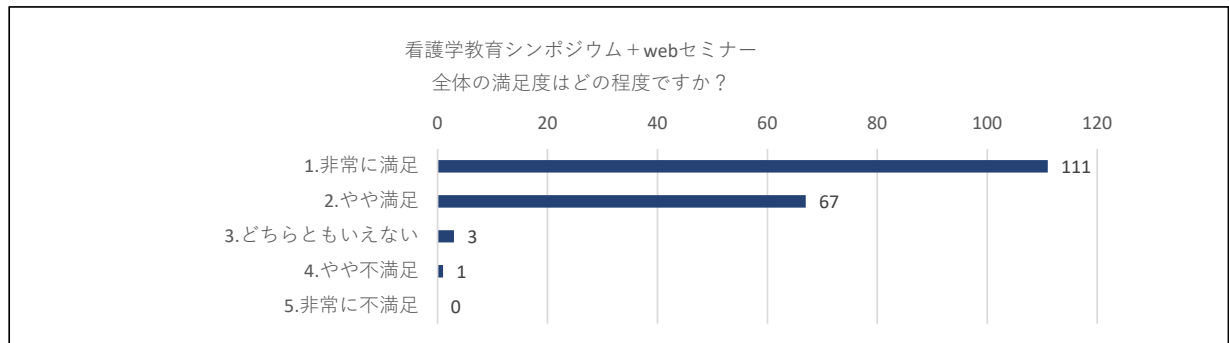
遠隔教育等を活用し教員間の情報共有の機会を促進するとともに、十分な教員数の確保に向けても検討の余地がある。

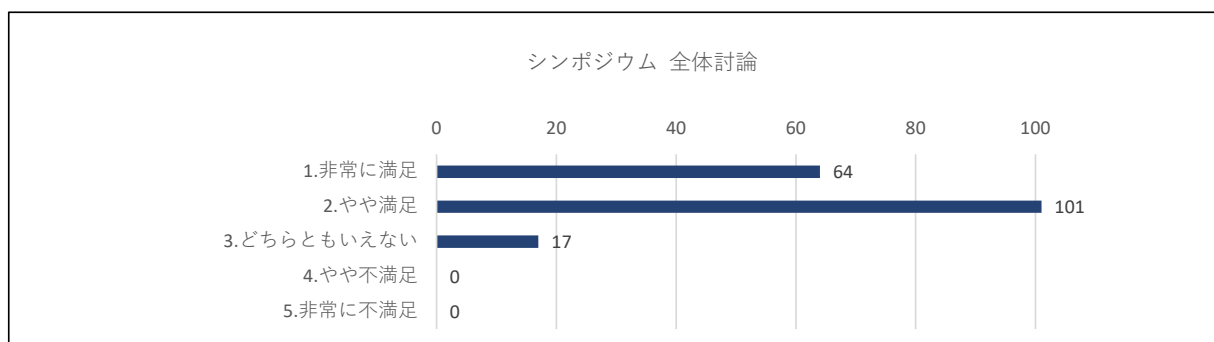
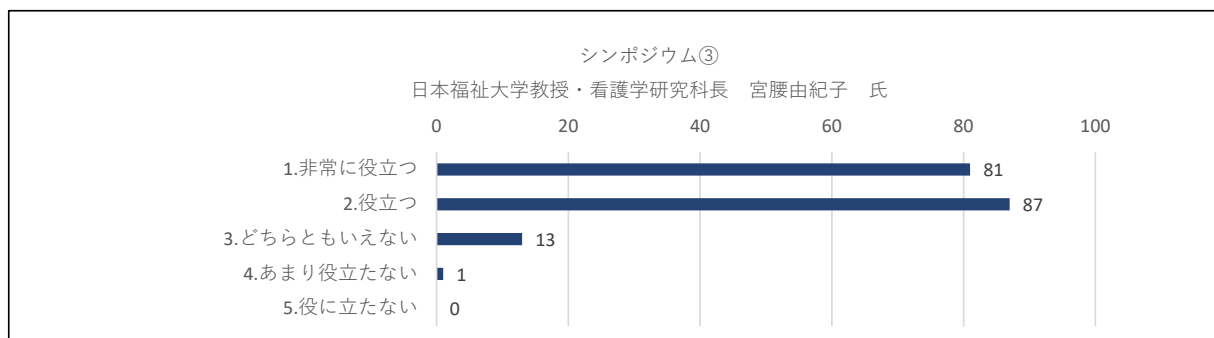
全体討論を通して、来たる「Society5.0」時代に備えて、今ある教育の現状の中で継続すべきものと、変えていくべきもの、新たに創るもの、これらを精選するとともに、「Society5.0」時代の看護、看護学教育が向かうべき方向性についても、各看護系大学の教員間、さらには看護系大学全体で議論を重ねる必要性が示された。

社会の著しい変化や予測不可能な時代に対応できる人材の養成は容易いことではないが、「教育のあり方を考えることは、一人ひとりの多様な幸せ、豊かな社会の実現」につながり、今後も未来を創ることへの期待感をもち、看護界全体で継続的に検討の機会を持つことを確認し、シンポジウムが閉じられた。

11. 看護学教育シンポジウム評価

《回答者 182 名》





1) 全体を通して学んだこと、考えたこと、感じたことを自由にご記入ください

✎ 現在の大学教員に求められていることがわかった。新しい時代にむけて考えを変えて話し合っていくことが大事だと知った。

✎ society 5.0を勉強不足であり知らなかったでのいろいろ勉強になりました。

✎ 看護系大学が増加するなかで看護教員の人材育成が重要とあらためて思いました。

✎ 村田先生のお話で 大学大学院教育についての重要性を理解することができました。一つ疑問に思ったのは生産性というものとの看護との関係についてが気になりました。アメリカの場合はテクノロジーに合わせる、日本は自分たちで作ってしまうので、生産性が上がらないということが挙げられていました。シンポジウムでは人間に合わせたテクノロジーのお話があり、このあたりが、もうすこし自分なりに考えていきたい課題となりました。ありがとうございました。

✎ Society5.0について新しい視点に触れることができた。また、急速に変革する時代に対し、どのように学生に還元するのか、また一緒に考えていけるかを考える機会となった。

✎ 看護教育が基礎看護学や成人看護学等の基礎教育の時に、デジタル看護学、高度実践看護学など次につながる課程の構築も必要だと思いました。

✎ 自分自身の教育観を点検する必要性を強く感じました。

✎ まずは教員が、自由に発想、発創すること！やろうという気持ちに立つ事と学びました。出る杭人材の芽を潰さない学部教育をめざしたいです。

✎ DXは大事だが、医療現場のリアリティを知っている、伝えられるのは教員だけという事。

✎ 看護教育の現状と課題について理解することができました。

✎ 看護系大学教員としての自身の日頃の取組状況や学生への対応、学生の捉え方について考え直す良い機会となりました。村田先生には、経済学の観点から大学院教育の重要性を説明いただき、今、そしてこれからの修士論文、博士論文の指導にあたり、その価値を見直すことができました。いずれも、元氣と勇気をもらった時間でした。参加して良かったです。

✎ 知識伝達ではなく、知識をどう使うか、現実をよりよくしていくためにどう行動するかを考える力を身につける教育が必要だと感じました。

✎ こういう機会があると嬉しいです。

✎ どんな時代になったとしても、看護の本質、命の尊厳は変わらない、忘れてはならない。

✎ 人を扱う専門職としての倫理や価値感時代が変わっても伝えていくことという、基本的なことだが見失わないようにしたいと感じました。5.0をきっかけに、職位関係なく発言が許される時代がくるといいなと感じたところです。

✎ 今後看護学教育で大事にしていかなければならないことを考える機会になり、理解できた。

✎ 教育者自身が考え方を変えていく必要があること、それを組織として共有していく必要があると感じました。

✎ 次世代の看護教育という観点で、御高名な先生の貴重なご提言を多くいただいたと感じています。我々教職員も変化を受け入れていかなければならないというSDGsの視点も必要であるということも感じ取るに至りました。別件対応のため途中離席することが多かったため、見逃し配信を確認し改めて学習させていただきます。

✎ ソサエティ5についてあらためて考えることができました。ATを賢く使い教育に効果的に生かすことができる看護教員でありたいと思います。またアプリの使用などは現代の若者である学生から学ばせてもらうという視点を持つことも必要だと考えました。

✍ 看護教員になるために必要な学歴を統一する必要もあると思った。シンポジウムで司会の方がシンポジストの意見をまとめる場面は必要ないと感じた。その時間をもっと参加者からの質問の紹介や、答える時間に充てると良いと感じた。

✍ コロナ禍にあったこの3年間、看護学教育の質が低下しないように様々な努力をしてきた。やってきたことすべてがベストであったとはいえなくても、間違っていなかったと励まされた気持ちになった。このような素晴らしい企画を本学の教職員全員で共有していく必要性を感じた。他の看護系大学と協働を、という前に同じ教育機関で領域を超えて協働すべきと思う。

✍ 予測不可能性もありつつであるが、Society5.0を想定した看護学教育と看護教員の在り方について先達のご意見をうかがえたことは大いに学び、刺激になりました。ありがとうございます。

✍ 未来の看護学教育に向けて、私たちの教育方法について考えて行くこと、かなりエネルギーがいることですが、「ワクワクしながら」無理しない自分から始めて行くことから始めて行こうと思いました。

✍ これからの教育に向けて、教員が柔軟に対応できなければならないと改めて思いました。学生の学びを優先することを念頭に、今後も自身の教育について考え直して取り組みたいと考えました。

✍ 今後の教育のあり方など、教育の方向性がよくわかりました。

✍ これからの大学教育の在り方について考える良い機会となった。

✍ 学生の力を信じながら、新しい時代に沿った教育を行う必要性を改めて感じました。

✍ 看護系教員間の教育力や調整力、教材開発力への相互の理解が今後必要だと思います。教育の立場、組織づくりの立場など、各立場によっての考え方の違いも意識して、大学づくりに活かしたいと思います。企画の先生方、講師やシンポジストの先生方、本日は貴重な機会をありがとうございました。

✍ Society5.0という切り口で講演があり面白いと思いました。コロナ禍で移動制限があり、SNSが情報源となっています。アクセス先が限定されているせいか、自身の情報が偏っているように感じました。大変貴重な機会をいただき感謝です。

✍ 同調を好む文化においてはメリットもあるが、解のない問題に取り組み、新たな価値の創造には妨げとなることもある。そのため、自己の価値観をしっかりと築き、課題を発見する能力が必要であるということを再確認でき、とても勇気をいただいた。異なる価値を認めていく土壌が広がればよいと思う。

✍ Society5.0社会を経済学の観点からも非常に分かりやすく説明いただき、社会全体としての動向を理解することにつながりました。その中で看護や教育について、今何が必要か、これからどこへ向かうのか、ということを経験的な視点で学び考える機会となりました。時代が変わっても変わらない看護の本質を自身の信念に据えることの大切さ、それが変動する時代をも乗り越えていける強さになると理解いたしました。非常にワクワクしながら拝聴しました。ありがとうございました。

✍ 一番感じたことは、看護とは何かということです。教育にICTを活用することに反対ではありませんが、看護の対象は生身の人間であることを忘れないようにすることが大切だと思いました。メタバース、仮想空間の話も出てきましたが、自分の手で触って感じて理解し、相手との距離感や雰囲気を感じながらケアができる人材育成をどのように行うのだろうかという疑問に思うと同時に、新たな教育方法が開発されることへの期待と関心があります。また、臨地実習に出る前の学生のレジネスの重要性を再認識しました。

✍ DXという時代の流れがありつつも、人間的(アナログ的)な哲学や価値観が重要視されるということが興味深かった。今後、そういった目に見えないものもデジタル化されていったら教育はどのような役割を担っていくのだろうかと考えさせられた。

✍ 具体例を出して頂き大変参考になりました。

✍ アメリカの報告では、Some states allowed nursing students to participate in the workforce during the pandemic. For instance, the Idaho Board of Nursing implemented their nurse apprenticeship program to allow nursing students to work under supervision of a nurse (Idaho Board of Nursing, 2020). The California Board of Registered Nursing determined that nursing students could work as supplemental staff (California Board of Registered Nurses, 2020).とありましたが、日本では議論には挙がらないことを感じました。研修医のように、学生が拒否されることなく臨床に入れる仕組みも作っていく必要があるように思っています。なぜなら臨床の現場からは、所属の卒業生に限らず、ここ数年の看護師が看護師として機能していないことについての訴えを受けることが度々あるからです。

✍ SOCIETY5.0とは何であるか、看護学教員としてどのように学生を育成していけば良いのか、具体的に理解できた。特に、3名のシンポジストの先生方のご発表・討議から、学習者本位の教育にするための教育方略、DX化で便利になった一方で変わらない看護の本質を忘れてはならないこと、臨床経験者であるからこそ人の生命を扱う重みを学生に伝えなければならないことを学ぶことができた。また、宮腰先生からお話で教育の考え方の基本を思い出すことができた(忘れかけていました)。自分の持つ力に自信を持ち、自由な発想で学生主体の中で自身も楽しみながら自由な発想で教育に携わりたいと強く感じました。本当に有意義なセミナーでした。ありがとうございました。

✍ 大学設置基準の改訂(単位の計算方法)、指導補助者の検討などが行われていることを非常に前向きと感じました。

✍ これからの看護教育について何か必要なのかを考えている。昨今看護に入ってくる学生の質が下がっていて、多くの看護大学ができたが、4年生になって中学生レベルの内容がわからない学生がいる。高連携をもっと現実的なものにして教育していく必要があると思われる。これから少子高齢化がもっと進んでいくことから看護についてもっと早い時期から看護に触れる機会や、介入が必要なのではと思っている。

✍ これからの教育の在り方について考えた。

✍ 正直Society5.0時代をそれほど意識しておりませんでしたので、大変勉強になりました。

✍ これからの時代に必要な学生の教育について、背景や基本的な考え方を学び示唆を得ることができました。

✍ 教育の根本的な概念について再確認し、Society5.0社会の看護大学生にどのように教育を行っていけばよいのか視点を明確にすることができた。どの先生のお話も大変興味深く、これをもとに身近な教員たちと続きを話したいと思うような内容であった(誰が参加しているのかわからずそれを実現できないのが残念)。多くの教員に視聴してもらいたい内容だった。

- ✍ 私は新任教員であり、日本の看護学教育の潮流と課題について、理解を深めることが自己の課題だと考えております。他の教育機関の状況、日本全体の教育の状況など、広く多様な視点を学ぶことができ、大変貴重な機会でした。このような機会があることは、私にとって心強いです。このような機会には積極的に参加し、理解を深めたいと思います。ありがとうございました。
- ✍ 看護や看護学教育の大事なことについてあらためて考えさせられた。
- ✍ 今後の社会を生きるために学生が修得すべき能力は、解のない問題に取り組む問題解決力であり、より重要なのは課題発見する問題発見能力であることを確認できた。Society5.0の到来を見据え、看護系大学では、改めて看護の本質を理解しその重要性を価値づけられるような教育が重要になると思った。
- ✍ DXが進んでも看護の本質を見失ってはならないこと、時代と共に教員も柔軟に変わっていかなければならないこと。
- ✍ 大学全入時代を迎える…と以前から言われてきたことですが、予想以上に早く進んでおり、各大学の生き残り＝どのように教育を担保していくのか・特色をどのように打ち出すのか、課題が山積していますが、人員不足もあり多忙な中、全体で情報共有し検討していくのが時間的にも難しいと感じています。教員だけではなく、大学の運営側の意識改革も必要かと思いました。
- ✍ 短時間で盛りだくさんの内容で含まれ、充実した時間であった。
- ✍ Society5.0に向け、今後教員に求められる姿勢などを考える機会となりました。
- ✍ 教育者としての原点を先生方の語りの中から、ずしんと感じました。本当に、こんな大事なことを日常の中で忘れてしまっていた自分が恥ずかしいくらいです。「学生が自ら動き出すまで待つ」「学生の成長を信じる」これから、座右の銘として忘れずにいたいです。
- ✍ コロナ禍においても看護を学ぶ学生をどのように教育していくのか、ヒントを得られた。
- ✍ 自身が大切なことを持ち続ける意思と変革する柔軟さ。
- ✍ society5.0を強く意識した取り組みが必要であり、時代の潮流をつかむ必要性を痛感しました。
- ✍ 看護にこだわらない柔軟な考え方がとても良かった。
- ✍ society5.0で求められる人材とは何か、そして大学、とくに看護系大学の教育が果たす役割について学ぶことができたと思う。AIやデジタル機器が発達する中で、リアルなもの・バーチャルなものの良いところを知り、学生に学んでもらいたいものをどちらの環境で（もしくは両方で）提供するのか、そして看護にとって変わらないもの（対象者の捉え方など）をどう伝えるのか、これらすべて教員に求められてるのだと学んだ。
- ✍ 現在の看護教育の位置づけや課題が丁寧な説明で明確になった。
- ✍ 教育の質を高めるには教員の教育力・質を担保する必要があることを改めて感じた。
- ✍ AI技術が発達し、学習方法等が変化していく中で、対人である看護職は現場で学ぶ事(コミュニケーション・感情・優先順位を付けながら業務をこなすこと・自己管理)も多いのだということを忘れてはいけないと強く感じた。また、議論する・意見交換をすることのおもしろさを感じた。
- ✍ オンデマンドで時間がなく、2つ見られなかったのですが、最終日に閲覧しようとしたら、プレーヤーエラーで見るできませんでした。
- ✍ 貴重なご意見を伺うことができた機会をご提供くださり、ありがとうございました。今回のシンポジウムで川本先生がおっしゃっていらした「看護の本質」をどのように学ばせるのか、は、とても印象に残っています。ICT教育、OSCE、等、看護学の教育方法を検討する際、慎重に考えていきたいと思いました。
- ✍ 時代の変化に応じた教育の必要性。
- ✍ 現代社会における看護基礎教育の現状の課題と、今後の課題が良くわかりました。これまでの経験や看護倫理を踏まえつつ、将来を見据えた教育内容の工夫や変革が必要であると認識しました。
- ✍ 今後の教育の方向性について理解することができました。地方国立大学は人員削減の中、教育への注力を少なくし、研究にシフトするように全体として働きかけられています。人材教育をしている私たちが、何が教育として重要なのか、どう効果的にさらにどう効率的に可能なかを考え行っていく必要があると強く感じました。
- ✍ 講師の先生方の講演がとてもわかりやすかった。大学教員として新たな時代に向けて成長していきたいと強く感じた。
- ✍ 看護教育に対して考え方を革新しなくてはならないと改めてかんがえました。一方で経験が長い先生方の考え方を革新していくことの困難感考えさせられました。
- ✍ この数年、講義・実習と試行錯誤を続けてきたが、その前から他大学では、次世代型教育の検討が進められていたと思い知らされた。本学は、非常に遅れていて、始まったばかりであるが、今後のビジョンを考える上で、大いに参考になりました。ありがとうございました。
- ✍ 自大学のFDにおいても次代の看護学教育について考える機会があったが、SOCIETY5.0と具体的に関連させて考えることはしなかったので、自分自身の視野が広がったし、検討方法としても参考になった。
- ✍ 社会と学生の変化に合わせて仕事をしていくことの大切さを改めて感じた。
- ✍ 看護への期待に応えるために看護教育の充実が必要であると実感しました。そのためには、看護全体の底上げが必須であり、制度の見直しも必須と思いました。
- ✍ society5.0を組織の構成員全体で意識しながら進めていかないといけないと感じました。
- ✍ 大切なものを残し、変わっていくための発想と力が必要なこと。
- ✍ 多様化する学生をいかに理解し、個々の能力を伸ばしていけばいいのかを考える機会になった。
- ✍ 看護系大学教育の全体像が分かりました。
- ✍ 大学設置基準の改正については詳しく知らなければと考えていたところでした。また、Society5.0における大学教育など、もう一度資料を見直そうと思える講演ばかりでした。ありがとうございました。
- ✍ 看護基礎教育におけるシミュレーション教育、AI、ICT、DXの活用の必要性を学んだ。
- ✍ 教育は未来を見据えることを再確認出来、有意義であった。
- ✍ 新しい看護教育への幕開けの時だと感じております。
- ✍ これまでの教育方法に頼りすぎることなく、新しい取り組みをしていく必要性を感じたと同時に、看護実践能力の向上のために必要な教育の本質を見失わないように努力する必要があると感じました。

- ✍ 看護教育の質を担保することは、教員にとって重要な課題である。限られた資源や人材を有効に活用することに役立てることができればと考える。
- ✍ 看護基礎教育においてこれから求められる力として、哲学（価値観）の醸成が非常に重要だと思った。アウトカムベースで教育の質の保障する教員の能力として、CBTやOSCEの実施やDXの活用にしても、協働関係を結ぶ調整能力や仮想空間の中でリアリティを伝えるにも、教員の哲学が問われると感じた。
- ✍ コロナ禍の現状で看護教育に何が求められているのかが良く解りました。
- ✍ 改めて教育学の基盤や社会状況・背景の変化を自覚し、頭の構造を刷新しなければと感じた。
- ✍ シンポジウム講演でご紹介いただいた参考資料にあたってみたいと思います。知識の不足や古さを補うよい機会をいただきました。
- ✍ 組織的に教育の質の担保を進めるために、教員個々の努力だけでなく、どう体制づくりをすれば良いかを考えないといけないと認識する機会になりました。
- ✍ 普段の学生の実習での反応を考えながら今回の講演をお聞きしました。本当に教育の方法を変えていかないといけないと実感しています。
- ✍ 変えていかなければならないことと、普遍的なことについて切り分け考えることができた。
- ✍ 質の保証は大切だと思いますが、教育研究者として教育の比重が高くなり、一人の人が両方をバランス良くすることは至難ではないかと思えます。人口減少の中で重要であることは重々承知しておりますが、真綿で自分の首を絞めることにならないように考えることも大切な気がします。
- ✍ SOCIETY5.0においては、教員が学生から学ぶ時代、という考えが印象的でした。また、多様な価値観を尊重する一方で国試合格という均一目標を達成しなければならない中で、教員がどのように教育力を発揮していくか、考えさせられました。
- ✍ 今回、セミナーに参加させていただき、勉強になりました。ありがとうございました。
- ✍ 最先端の情報を得ることができ本学における課題について抽出することにつながった。

2) 他の看護系大学と協働の機会がさらに欲しいと思ったこと、やってみたいと思ったことがあれば、ご記入ください

- ✍ 実習の指導について。協同している取り組みについて。
- ✍ 今回のような研修会をいろいろ実施してほしいです。
- ✍ たくさんあるので共有の場があるとよいと思いました。
- ✍ 看護対象者に対して、コミュニケーションがとれない、倫理的配慮が難しい学生について、各大学で工夫している取り組みや教員の考えなど。
- ✍ DXを取り入れた看護教育の意見交換。
- ✍ 看護基礎技術に関する現状。
- ✍ 川本先生の意見にもありましたように、1大学では実行が困難なことについて、アライアンス、コンソーシアムなどを形成して取組んでいくための方法や成功事例について学びたい。
- ✍ 他大学の具体的な取り組みについて。
- ✍ シミュレーションセンターへの参加ができる機会が欲しい。
- ✍ 高価な電子制御シミュレータは購入できないため、リモートシステム等を用いて、演習を協働することができると良いと思う。
- ✍ 今回のようなシンポジウム等でのディスカッションは有効であると思います。
- ✍ 関連の病院を持たない大学の現状について、他大学の先生方と、お話しして、より良い実習方法を考えていきたい。
- ✍ 全体討議にもありましたが、シミュレーション教育を単独で完全に行うのは難しいと思うので、近隣の大学と協働できると良いとおもいます。
- ✍ 実習方法や、カリキュラム改正による新たな教授方法などの共有の場。
- ✍ 具体的に思い浮かばないため、今後も教員や学生、各研修会にて情報収集していきたいと思います。
- ✍ 教育機関を横断して情報を共有できる機会が身近にあると良いと思います。千葉大学でプラットフォームをつくっていただくと良いと思います。
- ✍ 若手研究者、教育者同士での交流。研究分野が同じ研究者との交流。
- ✍ シミュレーション教育の機器や工夫などの共有。
- ✍ 遠隔だからこそできる相互教育の可能性について。
- ✍ カリキュラムの考えかた。
- ✍ 教員のリテラシー能力向上の研修やICTを活用した教育の共同開発・共有化。
- ✍ 授業参観など、教員相互のFD。
- ✍ 他の大学の教育や実習をどのように行っていること、成果を詳しく知りたい。
- ✍ 大学院の運営や教育について事例を交えて共有したいです。
- ✍ 地域の中にシミュレーションセンターのような拠点をつくるということは面白そうだった。各県に1か所でもそのような場所があるとよいと思う。
- ✍ 本学ではシミュレーション教育の他大学との連携と評価に取り組みたいと計画しているので、関連することを希望する。
- ✍ OSCEを実施している大学やDX教育の推進に力をいれている大学などとの情報共有の機会が得られると嬉しく思います。
- ✍ 実際の授業や演習の取組の工夫について、情報交換や意見交換ができるとありがたいです。シミュレーション教育などについて。
- ✍ 同じ領域でディスカッションをしたい。
- ✍ 看護教育を俯瞰できる情報提供の場を引き続き開催してほしい。

- ✎ 他大学の取り組みをお聞きする機会は貴重です。保健師課程における取組も聞いてみたいです。
- ✎ シミュレーション教育は単独で開発・実施することは敷居が高い。近隣の大学で協力できたらよい。
- ✎ DXを使用した教育。
- ✎ 教育方法について、研究発表とかではなく共に考えられる機会があったらうれしい。
- ✎ OSCEの実現に向けた具体的な発信。
- ✎ 遠隔の看護系大学との学生間の交流（特に地域の文化や特徴を活かした学習交流）。
- ✎ デジタル技術を活用した講義や演習の開発。
- ✎ 個人的意見ですが、私学の教員の高年齢化について検討すべきときではないでしょうか。若手を育てること、育っているのか、あまりに先輩の存在が大きすぎるのが私学では？と感じてしまいます。未来の教育を担う教員の教育的な支援などは関心があります。
- ✎ 各大学の取り組みの実際を知りたい。
- ✎ 協働の機会が欲しいが、自組織での課題が山積で思いつきません（情けないですが）。
- ✎ FD研修等を合同で行い、お互いの大学での取り組みや課題に対する意見交換など。

3) 看護系大学相互の支援ネットワークづくりに関し、当センターに今後期待することをご記入ください

- ✎ このような学びの機会。
- ✎ シンポジウム等を通して、それぞれの大学の状況を情報交換できる機会を持つことができるとよいのではないかと思います。
- ✎ 今後のこのような機会を作っていただければ幸いです。
- ✎ 全国唯一の看護学教育研究を追求するセンターですので、ぜひ、看護系大学の教育に資する取組、教員のたえざる学び直しへの貢献を期待します。
- ✎ ぜひ毎年やってください。
- ✎ またこのような機会を作っていただきたいです。
- ✎ 他の大学教員へ門戸を広げてほしい。
- ✎ 情報発信。
- ✎ 看護学教育に関して、多様性、出る杭的なものを求めるのであれば、貴センターの独自性のある組織体を構築すべきではないでしょうか。
- ✎ さまざまなセミナーなどを定期的に開催していただきながら、仲間づくりができれば。
- ✎ とても期待しています。
- ✎ 一歩先を見据えた問いやテーマで引き続き看護界の牽引をお願いします。
- ✎ シミュレーション教育に関する各大学の紹介を閲覧できるコーナーを希望します。
- ✎ 現在の活動を継続いただきたいと思います。
- ✎ このような機会をさらに与えていただければと思います。
- ✎ 今回のような研修を開催いただくことで大学間のネットワークを広げていただけたら幸いです。
- ✎ 教育を担っている全国の方々との交流や情報交換の場を提供して頂きたい。
- ✎ 若手教員がもう少し気軽に大学の垣根を越えて解決しにくい課題の解決や取り組みの共有ができる場があるとよいと感じました。
- ✎ 病院、施設、包括、地域など、教育に使用できる仮想空間（インターネット）の構築。
- ✎ 看護系大学教員の背景が多様化している現在、就任後であっても看護学教育に関する研鑽を継続できる全国レベルの機関が求められる。その役割を貴センターに担っていただきたい。
- ✎ 教員の質を保障するもの、ネットワークを活用して教員の質の向上させるスキルを身に着ける取り組み、例えば実習場での指導場面などpracticeに持っていけるような教育指導の方法。
- ✎ シミュレーション教育の現状を話す機会。
- ✎ コロナ禍でネットワーク作りはより難しくなっているが、ZOOM等で気楽に話せる場がほしい。特に若手の教育研究者向けに。
- ✎ とても良い機会をいただきました。今後も是非、情報提供や研修の機会をお願いしたいです。
- ✎ 毎年開催されているワークショップを継続してほしい。その中で小グループで話す機会をもつことで他大学の先生と知り合うことができたり、他大学の実情を知ることができ、とても参考になった。
- ✎ 最新情報の発信やセミナーの企画などありがたいと感じている。継続して頂けることを期待している。
- ✎ このような学習の機会をすそ野を広げて、教育に携わる者が希望すれば学べるチャンスを提供していただきたいです。代表の先生方だけではなく。
- ✎ 今後も今回と同様な大学間相互のシンポジウムを期待したい。
- ✎ 看護教育を俯瞰できる情報提供の場を引き続き開催してほしい。
- ✎ 大変興味深い内容でしたが、視聴期間に拝視聴出来なかったため、恐縮ながら、配信の延長をお願いできたら幸いです。
- ✎ 英知の優れた先生方のもと発展していく分野だと思います。是非、頑張ってくださいと思います。
- ✎ 基礎教育と卒後教育（臨床現場での教育）の連携。
- ✎ 教育の協力など（本日のお話にもありましたが教育方法を専門的にされている先生に助言をいただけるような機会をお願いできるなど）があるとたいへんありがたいです。
- ✎ OSCEの実現に向けた具体的な発信。
- ✎ さまざまな大学と連携が取れるような「ハブ・センター」になってほしいと思います。
- ✎ 地域ごとにその後の対面ネットワークにつながる企画はいかがでしょうか。

- ✍ 今回のような企画について、情報発信をお願いいたします。
- ✍ 世界では、どのようにCOVID禍で教育を進めているか。別のところで調査結果を拝読したのですが、直接、海外の教育者に伺ってみたい。
- ✍ そのきっかけづくりのセミナーなどが開催されるとありがたいと思います。
- ✍ 看護教育に関する取り組みを具体的に紹介をしていただく機会を作ってほしいです。
- ✍ 一歩先をお示しいただけるので、毎年楽しみにしています。
- ✍ 人口減少の中で大学設置基準も変わり、基幹教員と標準教員との協働と看護系大学相互だけではなく、関連する大学教育との支援ネットワークも必要ではないかと思いました。
- ✍ 今回のようなシンポジウムなどを定期的に行なって頂き、最新の基礎教育動向の情報基地になって欲しい。

4) 次年度の看護学教育シンポジウム企画へのご要望やご意見をお聞かせください

- ✍ DX。
- ✍ 教育評価についても関心があります。
- ✍ ぜひ毎年やっていただきたいです。
- ✍ 教材開発の方法、事例など。
- ✍ 今年度課題とされていたことのその後について。
- ✍ 学生の主体性を引き出すTip集。
- ✍ Society 5.0に向けての具体的な取り組みの現状について。
- ✍ 先進的な取組みをされている大学の具体的な事例等を聞いてみたいと思います。
- ✍ 現時点では特にありませんが、村田治先生のような他領域の先生のご講演は有益でした。
- ✍ 今回、企画いただいた内容は、教員として経験が浅い私にとってとても勉強になりました。有難うございます。
- ✍ DXなどを用いた工夫、臨地実習の工夫などについての情報共有できる機会があると良いかと思います。
- ✍ Dx関連の大学での人材育成、カリキュラム設置や運営についての企画内容を希望します。
- ✍ 開催方法について、今回同様にオンラインもしくはハイブリッドを希望します。オンデマンド配信があると有難いです。
- ✍ 次世代を担う若手教員に求められる能力をどう育成したら良いかについて、もっとご意見を聞かせていただきたいです。
- ✍ 言われたことをこなす、正解を求める、そのような入学生が多くなったように思います。高等学校までの教育を聞くと、入学生の傾向が変わってきたことに納得できます。自分で現状分析をして、何が必要なのかを考えて、創意工夫をしながら実践できる人材を育成することに関する内容を含めていただければありがたいです。
- ✍ ハイブリットを続けて頂きたいです。
- ✍ 指定規則に縛られない（単位数は必要だが）カリキュラムの取り組み。
- ✍ 大変興味深い内容でした。
- ✍ 高度実践看護師を養成する大学院の運営や教育について学びたいです。
- ✍ 引き続き、次世代育成に関する内容を希望する。
- ✍ 日程が合えば参加したいと考えています。
- ✍ シュミレーション教育、臨地実習や学内での取り組みの難しい事柄（例えば、マスクを外した状態になる、食事援助や口腔ケアの教育実践の方法についての討議など、より良い教育実践に向けた情報交換や意見交換。
- ✍ 教育力の育成。
- ✍ 看護教育を俯瞰できる情報提供の場を引き続き開催してほしい。
- ✍ 他大学の取り組みをお聞きする機会は貴重です。保健師課程における取組も聞いてみたいです。
- ✍ OSCEを取り入れる教育について、すでに実践している大学の実践例を伺いたいです。
- ✍ OSCEの実現に向けた具体的な発信。
- ✍ 看護学教育のイノベーション、学生が実習以外で自由（英国や米国のような制度：優れた看護学生による就労）に出入りできる看護補助学生の導入（すでに取り組んでいる大学もあるので）について話し合いたい。
- ✍ 他の仕事が少し落ち着いてきた時期に動画の公開締切でしたので、動画公開時期を年末まで伸ばしていただけたとありがたかったです。自分の意識も大切とは思ってはいるのですが、実習終了と同時に動画公開が終わる連絡を頂いた感じでしたので、体力的な限界を感じました。遠隔講義は申し込んでも見ることができないことも起こりうると実感しますので、期限が長すぎないことも開催する際の対策として重要なのだろうと思います。すみません。
- ✍ 看護先進国の看護教育について現状を知り、日本の看護教育について再考する機会があればと思います。
- ✍ 新たな看護教育の実践（取り組み）をたくさん紹介して頂きたいです。
- ✍ 看護系大学の教員の人材育成。
- ✍ 12月後半で視聴期間が終了するのは残念です。コロナ禍で実習調整と授業をしながらマルチタスクで聴講したので、できれば年明けまで延長していただければもう少しきちんと視聴できたように思います。
- ✍ いつもありがとうございます。受講によって看護学教育の質保証のために必要な課題を抽出する機会となっています。
- ✍ 行政側の意向や現状を聞けると有難い。

12. おわりに

DX、Covid19、少子高齢社会、Society. 5.0 社会、多様で包摂的な社会など、社会の変化は激しく、大学には、個々の大学のミッションをふまえて、社会の変革やイノベーションが可能な人材育成が一層、求められている。そのような「社会の変化に応じた看護系大学の教育」は、短時間で構築できるものではなく、かつ、すすむ変化に対応できる次世代を育成しながら行う必要がある。各々の看護系大学が抱える課題には異なる点はあるものの、次世代育成は、教育の質保証を含む多くの看護系大学に共通した課題であることから、本年度の看護学教育シンポジウムのテーマを「激動の時代における看護系大学教員の次世代育成」とした。また、今回の企画では当日のライブ配信に加えて、オンデマンド配信、見逃し配信で視聴できるようにした。

全体の申込は 558 名、当日のライブ配信は 230 名を超える参加者となり、今回の看護学教育シンポジウムは、あらためて多くの看護系大学の教員が関心をもつテーマだと確認できるとともに、WEB のメリットを実感することとなった。

教育講演では、「コロナ後に求められる社会変革を視野に入れた大学教育のあり方」をテーマに、大学教育の動向を、社会の変化や世界の教育の動向と対応させて、とてもわかりやすくご教示いただいた。大変示唆に富み、刺激され、その後のシンポジウムの活発な議論のベースとなった。中央教育審議会委員・関西学院大学の村田治学長にあらためて御礼申し上げます。

シンポジウムでは、「看護系大学における『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」をテーマに 3 名の先生方から講演後、全体討論を行った。先生方の熱意とともに、看護や教育のイノベーションへの期待が伝わり、また教員同士が未来を見据えた建設的なディスカッションをする場が大変重要であることをあらためて実感し、エネルギーを得る場となった。JANPU 代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長の鎌倉やよい先生、湘南医療大学教授・看護学科長の川本利恵子先生、日本福祉大学教授・看護学研究科長の宮腰由紀子先生にあらためて御礼申し上げたい。

WEB セミナーでは、「看護系大学における教育の質保証と今後の課題」をテーマに講演内容を事前収録・オンデマンド配信した。参加者各自が、看護系大学の動向とあわせて、これまでどのように教育の質保証の取り組みがなされてきたのか、その変遷を知り、学びとなったことを確信している。文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官の渡邊美和先生に御礼申し上げます。

当センターでは、今後も多くの大学の関心事、時事のテーマを扱いながら、状況や立場の異なるシンポジストとの意見交換から、参加者個々が示唆を得ること、さらに情報や知識を求める参加者や新人教員にも活用してもらえるセミナーも合わせる形式で、シンポジウムを企画開催していきたいと考えている。また、今回のシンポジウムのテーマは、今後も継続的に本センターで取り組むべき課題であると考えている。多くの参加者にとって有意義で看護学の未来を見据えた建設的なディスカッションの場を共創していきたい。

13. 実施体制

【web セミナー】

渡邊 美和 文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官

【シンポジウム】

《教育講演》

村田 治 中央教育審議会委員・関西学院大学学長

《シンポジスト》

鎌倉 やよい JANPU 代表理事・日本赤十字豊田看護大学学長

川本 利恵子 湘南医療大学教授・看護学科長

宮腰 由紀子 日本福祉大学教授・看護学研究科長

《座長》

和住 淑子 千葉大学大学院看護学研究院教授・センター長

中山 登志子 千葉大学大学院看護学研究院教授

《司会》

黒田 久美子 千葉大学大学院看護学研究院准教授

仲井 あや 千葉大学大学院看護学研究院助教

【千葉大学運営組織】

大学院看護学研究院長 諏訪 さゆり 教授

センター運営委員会 ◎ 和住 淑子 教授

眞嶋 朋子 教授

中山 登志子 教授

池崎 澄江 教授

島田 陽子 特任教授

黒田 久美子 准教授

錢 淑君 准教授

斉藤 しのぶ 准教授

飯野 理恵 講師

高木 夏恵 講師

仲井 あや 助教

(◎センター長・企画責任者)

令和4年度看護学教育シンポジウム 報告書

発 行 2023年 2月

編 集 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

発行所 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院

